

会員アンケート

結果

2026 年 6 月 30 日

日本図書館協会

部会・委員会のあり方検討委員会

まえがき

部会委員会の在り方検討委員会(以下、「委員会」)では、2025 年 11 月から 12 月にかけて、全会員を対象に「部会・委員会に関する会員アンケート」を実施しました。この主な結果は委員会報告書(2026年6月公開)に収録しましたが、アンケート結果そのものが会員の意思を反映するものであり大変貴重なデータであることから、このたび、委員会報告書とは別に結果の全文をまとめ、本協会の Web サイトを用いて本協会の会員向けに公開することとしました。

アンケートは、個人会員用と施設会員用に分かれており、それぞれの協会に対する意見を反映しています。さらに、協会への自由な思いや提案もされています。

このアンケート報告では、個人会員、施設会員の質問ごとの部会・委員会・日本図書館協会にかんする回答をまとめるとともに、基本すべての自由記述を掲載しています。ただし、個人が特定されてしまう回答記述については、若干記述を変更させていただきました。また、回答数の多い自由記述については、AI による要約ツール(Google NotebookLM)を用いて概要を作成し、全文と併せて示しています。なお、選択肢による問に関するクロス集計も付録に示しています。

日本図書館協会への会員の率直な思いや現状を知る貴重な資料となっていますので、ぜひ参照していただきたいです。

目次

まえがき

目次

会員アンケート	 1
1. 調査および調査結果の概要	
2. 個人会員	2
2.1 個人会員の状況	
2.2 個人会員の部会に関する意見	
2.3 個人会員の委員会に関する意見	
3. 施設等会員	11
3.1 施設等会員の状況	
3.2 施設等会員の部会に関する意見	
3.3 施設等会員の委員会に関する意見	
4. その他, 個人及び施設等会員の日本図書館協会への意見	16
付録 会員アンケートのクロス集計データ	81
付録 1 個人会員アンケートのクロス集計	82
(1) 会員年齢(問 1)と各問のクロス集計	
(2) 所属部会(問 4)と他の各問のクロス集計	
付録 2 施設等会員アンケートのクロス集計	92

会員アンケート

1.調査および調査結果の概要

アンケート方法は、個人会員用と施設等会員用の調査票(下記)を作成し、協会 Web サイトの回答フォームから回答してもらった。また、アンケートの協力依頼を、図書館雑誌の送付時に依頼文を同封し、本協会のメールマガジンを用いて広報を行った。表 1 と表 2 に個人会員向け、施設等会員向けの調査項目を示す。

表 1 個人会員向け調査項目

問1 あなたの年代について教えてください
問2 あなたの現在の立場として最もふさわしいものを選んでください
問3 あなたの会員区分を教えてください。
問 4 あなたが所属している部会を教えてください。(複数選択可)
問 5 部会について
(1)部会に対して当てはまるものを選んでください。(複数回答可)
(2)部会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数回答可)
問 6 委員会について
(1)委員会に対して、あなたが当てはまるものを選んでください(複数回答可)
(2)委員会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数回答可)
問 7 あなたが日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください。(複数回答可)
問 8 あなたの部会や委員会の活動に対してのご意見を自由にお書きください。
問 9 今後、日本図書館協会をより良くするための知恵、具体的なアイデアを自由にお書きください。
問 10 現在並びに今後の日本図書館協会や図書館界についてのご意見を自由にお書きください。

表 2 施設等会員向け調査項目

問1 貴組織の館種または団体種別をお答えください
問2 貴組織が所属している部会を教えてください
問3 貴組織の会員区分はどれですか？
問4 貴組織は会員として、部会役員(正副部会長、幹事)や代議員を担ったことはありますか(複数回答可)
問5 貴組織には委員会委員または部会役員に委嘱されている職員・会員はいますか(複数回答可)
問6 部会について
(1)貴組織が所属している部会について当てはまるものを選んでください(複数回答可)
(2)部会をより活発にするためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)
問 7 委員会について
(1)委員会活動について、貴組織が当てはまるものを選んでください(複数回答可)
(2)委員会をより活発にするためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)
問8 貴組織が日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください。(複数回答可)
問 9 日本図書館協会をより良くするための知恵、具体的なアイデアをお書きください。
問 10 日本図書館協会や図書館界についてのご意見を自由にお書きください。

アンケートの回答状況は、個人会員 2,426 人中 408 人(18%),施設等会員 2,176 施設中 335 施設(15%)とあまり振るわなかった。

回答率が低い理由として Web 上の回答が困難, アンケートの周知不足等も考えられるが, 部会や委員会に関するアンケートということでそもそも興味関心を持つ会員が少なく, アンケートに積極的ではなかったのではないかと推測できる。逆にとらえると, 意識の高い会員が回答してくれたと推測できるが, それにもかかわらず, かなりの会員が部会や委員会についてはよく知らないという回答が多かったことに注目する必要がある。

以下の節では, アンケートの調査項目毎の回答のまとめに基づき解説する。また, 各問について, 回答者の属性とのクロス集計を付録にまとめて示している。なお, 個人会員対象の調査項目の問 7~10, および施設等会員対象の調査項目の問 9・10 に関して入力されたテキスト全文と回答数が多い設問は要約作成ツールを利用して作成したまとめを示した。

2.個人会員

2.1 個人会員の状況

質問 1 に関して, 回答者の年齢分布(表 3)からは, 40 代以下が 25.7%, 50 代以上が 74.3%(60 代以上 38.0%)となっており, 本協会の会員の高齢化が進んでいることが推測される。また, 40 代と 50 代の合計で 54.2%, 30 代以下は 7.9%となり, 回答者の範囲だけではあるが, 現役のベテラン世代が約半数であり, 若手世代が非常に少ないことがわかる。回答率が 18%と低いので, この割合が会員の年齢構成をそのまま表すものではないが, 会員の年齢構成の一断面を示していると理解すべきであろう。

質問 2 および 3 に集計データを表 3 と表 4 に示す。表 3 から, 個人会員で回答した人の 7 割以上が現役で図書館員, 大学教員, 図書館に勤務経験のある他の部署の職員となっている。表 4 から, 会員区分では, 正会員 A が 85%, B が 13%となっている。また, 表 5 から回答者の約半数が公共図書館部会に所属していることがわかる。所属部会がわからないという回答者が 8%弱あることは, 後に示す部会の持つ問題点に通じるころがあるように思える。

表 3 個人問 2

問2 あなたの現在の立場として最もふさわしいものを選んでください	回答数	割合(%)
①現役の図書館職員	235	57.6
②現役の司書課程教員・図書館情報学領域の研究者	38	9.3
③図書館職員の経験を持ち現在は他の職場で働く現職者(例:自治体の他部門の職員など)	27	6.6
④元図書館職員(退職者)	51	12.5
⑤元司書課程教員・図書館情報学領域の研究者(退職者)	10	2.5
⑥図書館関係の団体や市民グループのメンバー	14	3.4
⑦上記以外の図書館関係者(例:司書教諭, 関連企業職員など)	16	3.9
⑧その他(例:学生, 一般市民など)	17	4.2
無回答	0	0.0
合 計	408	100

表 4 個人問 3

問3 あなたの会員区分を教えてください	回答数	割合 (%)
①正会員A	347	85.0
②正会員B	53	13.0
③準会員	4	1.0
④賛助会員	4	1.0
無回答	0	0.0
合 計	408	100

表 5 個人問 4

問4 あなたが所属している部会を教えてください 複数回答可	回答数	割合 (%)
①公共図書館部会	203	49.8
②大学図書館部会	36	8.8
③短期大学・高等専門学校図書館部会	5	1.2
④学校図書館部会	53	13.0
⑤専門図書館部会	22	5.4
⑥図書館情報学教育部会	35	8.6
⑦所属なし	39	9.6
⑧どの部会に所属しているかわからない	31	7.6
合 計	424	103.9

2.2 個人会員の部会に関する意見

表 6 は個人会員の部会に関する理解を示していると見ることができる。部会については、45%の人が「部会でどのような活動をしているかよく分からない」と回答しているものの、部会に参加したいという会員も 20%いる。「参加」が意味することには、部会で主催する研修会への参加も含まれるかもしれない。

部会を活発にするための方法に関する観点からの問への回答をまとめた表 16 から、63%の人が「部会活動が分かるようにすること」としており、次いで、39%が「部会員として部会活動により自由に参画できる仕組みを整備すること」としている。これらのことから、まず部会が何をどのように行っているかが会員に知られていないことが分かる。

自由記述意見では、「業務が忙しくて部会に参加できない」というものが多く、関心のある研修会等に参加している、というのも多くみられた。また、部会ごとの活動がことなり、会員の意見や満足度もずいぶん異なることが分かった。活性化策では、オンラインを活用した取り組み等、地方でも参加できる仕組み作りを求めている。

表 6 個人問 5(1)

(1) 部会に対して当てはまるものを選んでください 複数回答可	回答数	割合 (%)
①部会の活動に参加したい	84	20.6
②複数の部会の活動に参加したい。	47	11.5
③部会の目的や役割がよく分からない	83	20.3
④部会でどのような活動をしているかよく分からない	184	45.1
⑤部会の活動への参加方法が分からない	123	30.1
⑥部会については関心がない	44	10.8
⑦その他(具体的に記入してください)	54	13.2
合 計	619	151.7

表 7 個人問 5(1) その他意見

20 代以下	関心はあるが参加が難しい。(なし)
	いずれは部会の活動に参加したいと考えている。(なし)
40 代	地方に住んでいるとなかなか部会まで参加できない(公共)
	興味があるが日常業務で手一杯(公共)
	必要なタイミングでアクセスできればいい。(公共)
	参加は難しい(公共)
	参加する時間的余裕がない(公共)
	定年退職したらどの館種の部会に入るべきか、疑問に思っている。(大学)
	状況・環境により参加できない(学校)
	主にメールで活動してますね(専門)
	部会活動への参加は難しいが、研修や報告は参考にしたい(不明)
50 代	部会の活動は必要だと思いますが、参加するのは難しいです。(公共)
	現在の仕事が手一杯で部会のお役に立てていない。(公共)
	部会は大切だと思いますが、自身での参加まではできない状態です(公共)
	忙しく積極的に関われない(公共)
	部会の活動に参加している(公共)
	関心はあるが、参加する余裕がない(公共)
	活動に参加する時間と体力がない。(公共)
	関心はあるが活動参加は難しい(公共)
	部会の活動に関心はあるが、委員会の活動で手一杯である(公共)
	参加する時間がない(公共)
	活動に関心はあるがメンバーとして参加するのは難しい。(公共)
	国大図協との関係性や役割の違いが不明(大学)
	余力がありません(短大・高専)
	地理的に東京での会合には参加できないが応援している。(学校)

	部会により差がある。公共部会に比べて学校部会は活動が活発(学校)
	遠方のため、活動参加は難しい(学校)
	できる範囲で参加したい(学校)
	参加したいが業務が多忙で難しい(専門)
	部会の催しは遠方でのものが多く、参加困難。(専門)
	興味はあるが参加する余裕がない。(専門)
	自身の積極的活動は望まないが活動内容に関心はある(専門)
	部会の活動に参加している(教育)
	誰でも参加できるのかわからない(不明)
60 代	地方在住であり、活動に参加しようと思わない。(公共)
	研究集会など関心のあるテーマのものには参加したい。(公共)
	なかなか日程が合わない(公共)
	現場情報の入手が目的(公共)
	関心はあるが参加のつもりはない。(公共)
	今の仕事だけで手いっぱいである(公共)
	部会の動向や調査研究の結果について注目している。(公共)
	現状で可と思います。(公共)
	部会の活動に関心はあるが、業務の都合上参加が難しい(大学)
	情報収集のために入っている(学校)
	あまり時間がない。(専門)
	退職したので、部会の変更を考えている(専門)
	既に複数の部会に参加している(教育)
	活動内容に関心はあるが、参加する時間、体力がない(なし)
	元公共図書館員。部会に関わらず興味有る催事に参加したい。(不明)
	活動するしないに関わらず、他部会の動向が HP などですべていつでも聞(専門・教育)
70 代以上	現在は部会総会に参加して成立させることで部会を支えます。(公共)
	退職後の見守り状態です。(公共)
	興味のある内容であれば参加したい(公共)
	現役リタイアして相当経たのであまり関心がない。(公共)
	現役世代の部会参加を望む(短大・高専)
	年齢もあって参加していないが、部会は大切だと思っている(学校)
	活動に参加したいが、機会を逸することが多い(専門)
	まわりの図書館員は希望していても部会に参加する時間とがない。(なし)
	いろいろ勉強したいが忙しくて参加できない(なし)

表 8 個人問 5(2)

(2) 部会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか 複数回答可	回答数	割合 (%)
①自分が取組みたいテーマに関する活動提案が自由にできること	92	22.5

②部会員として部会活動により自由に参画できる仕組みを整備すること	160	39.2
③部会活動が分かるようにすること	256	62.7
④部会の役員等の選出については、公募も含め透明性を高めること	70	17.2
⑤部会役員の世代交代を行いやすくすること	88	21.6
⑥部会事業について、部会員として提案できること	74	18.1
⑦部会活動を基とした出版活動をする	38	9.3
⑧わからない	42	10.3
⑨関心がない、あるいは自分には関係ない	10	2.5
⑩特に活発にする必要はない	7	1.7
⑫その他(具体的に記入してください)	33	8.1
合 計	870	213.2

表 9 個人問 5(2) その他意見

40 代	事務局体制の強化と活動予算の増額。(公共)
	名簿、連絡網がほしい(公共)
	部会所属の流動性を高め、自由に参加できるようにする(学校)
	メールで有益な情報をもらえます(専門)
	参加の方法を分かりやすく簡単にすること(教育)
	情報共有(なし)
50 代	部会員に仕事を頼む。(公共)
	プッシュ型の情報発信方法の工夫(公共)
	部会への参加方法がわからない(公共)
	東京開催の活動が多いので、オンラインの勉強会を増やしてほしい(学校)
	各地区から代表者を出せば良いが…(学校)
	どのようなメンバーがいるのかがわかること(専門)
	現場を支える 2-40 代の図書館員(雇用形態問わず)の参加促進(教育)
	上記はほぼ実施されているので問題ない。(教育)
	出入りや関わり方が簡単になるとよい(不明)
	オンラインでの参加が可能となること(不明)
	募集しているのか分かりやすくする(不明)
	部会に参加するほどの知識や余力が無い(不明)
60 代	開かれた雰囲気(公共)
	部会の必要性から議論したほうが良いのではないかと。(公共)
	一部の優秀な会員のみが活動しているという印象を持っている(公共)
	地方の会員が県ごとに対面で部活動ができるよう体制を整える(公共)
	会員を増やすこと(大学)
	学校図書館部会は活発だと思うので、特に問題は感じていない。(学校)
	負担に感じない程度にかかわりたい(学校)
	年次計画(すでにありましたらご放念ください)が早めにほしいで(専門)

	ウェブ上に交流の場を設けた上で実際の部会をする。(専門)
	委員の負担軽減、予算確保(専門)
	部会員であることの意義を感じられる(教育)
	時間的に忙しい中、参加しやすい工夫が必要(なし)
	部会の役員任期は2期以上まで継続可なのか?(公共・教育)
	部会内の方針決定に関与できる、会合後の情報共有が迅速に行われ(学校・教育)
70代以上	地域の図書館活動を中心に活動している(公共)
	他団体との協力(学校)
	活動は活発に行われるに越したことはない。(なし)

2.3 個人会員の委員会に関する意見

表10が示すように、委員会については、「委員会ではどのような活動をしているかよく分からない」が43%で最も多く、次いで「委員会への参加方法が分からない」が31%で続き、「委員会の目的や役割がよく分からない」が20%となっている。

委員会を活発にするための方法(表12)では、63%が「委員会の活動が分かるようにすること」とし、次いで32%が「委員でなくても、企画提案など委員会活動に参画できるしくみ」としている。その他の委員の公募、委員選考の透明性等も20%以上となっている。

委員会への自由記述(問8)では、委員の時間的経済的な負担が多いことと、その手立てをするべきという意見が多かった。また、東京の協会会館に行きやすい会員のみが委員を務める場合が多いことから、オンラインの活用等によって誰でも参加できる体制作りを求めている。それに加えて、委員会の透明化、だれでも委員会に参加できる、委員の公募等開かれた委員会への希望も多かった。(表31,32参照。)

表10 個人問6(1)

(1) 委員会に対して、あなたが当てはまるものを選んでください 複数回答可	回答数	割合 (%)
①自分も委員会に参加したい	52	12.7
②委員会の目的や役割がよく分からない	80	19.6
③委員会ではどのような活動をしているかよく分からない	174	42.6
④委員会への参加方法が分からない	125	30.6
⑤委員会への関心はない	49	12.0
⑥その他(具体的に記入してください)	83	20.3
合 計	563	138.0

表11 個人問6(1)その他意見

30代	仕事以外で活動する余裕がない(なし)
	参加した方がよいと思いつつ、負担を考えて参加できずにおります(なし)
40代	一度委員会に参加したことはありますが、都合により退任しました(公共)

	関心がないわけではないが参加する時間がない(公共)
	親交関係で構成されているように感じる(公共)
	12 年ほど委員会に参加していました(公共)
	委員会に参加する余裕がない(公共)
	研修等でお世話になっておりありがたい(公共)
	興味はあるが日常業務をこなすので手一杯(公共)
	必要なタイミングでアクセスできればいい。(公共)
	参加する時間的余裕がない(公共)
	委員会に参加するためのハードルが高い(学校)
	そこまでの専門性も知識もない(学校)
	今のままで(専門)
50 代	委員会の活動は必要だと思いますが、参加するのは難しいです。(公共)
	委員会に所属している(公共)
	お役に立てていなくて申し訳ない。(公共)
	分野毎に専門的内容の研修会を開催してくださりありがたい(公共)
	忙しく積極的に関われない(公共)
	委員会に参加している(公共)
	活動に参加する時間と体力がない。(公共)
	活動や役割は理解しているが参加したいとは思わない(公共)
	すでに委員会に参加している(公共)
	委員会に参加している(公共)
	なり方がわからず、公募により某委員会に参加できた。(公共)
	委員会によっては参加したい(公共)
	現在委員をしている(公共)
	委員会のメンバーがわかりにくい(公共)
	すでに委員会の委員である(公共)
	時間がない(公共)
	現在、委員会で活動している(公共)
	活動に関心はあるがメンバーとして参加するのは難しい。(公共)
	余力がありません(短大・高専)
	委員会への関心はあるが、参加して活動する余裕がない(学校)
	新しいサイトで委員会の存在感が薄くなり、協会の姿勢が疑問(学校)
	部会と委員会の違いがよくわからない(学校)
	現在病気休職中のため、参加する余裕がない(学校)
	委員として参加はしていなくても、委員会の活動を応援している(学校)
	委員会までは余裕がない(学校)
	多忙の為、参加できません(学校)
	委員会は、協会の事業を担う重要な仕組みと思う。(学校)
	業務が多忙で参加が難しい(専門)

	興味はあるが参加する余裕がない。(専門)
	委員会への参加までは望まないが活動内容に関心はある(専門)
	委員会に参加している(教育)
	委員会に関心があり、問題はない(教育)
	すでに委員会活動に参加している。(教育)
	お世話になっているが、そこにコミットする余力が自分にはない(不明)
	どのような委員会があるのか思い出せずコメントできません(不明)
	現役の方が動きやすい環境であることが大事だと思う。(不明)
60 代	地方在住であり、活動に参加しようと思わない。(公共)
	遠距離で委員会活動に参加しにくい(公共)
	過去に活動していたので、今は引退して見守る立場。(公共)
	参加した場合の拘束時間や発言機会の確保などが明らかになる必要(公共)
	役員の方にはご苦勞でしょうが、SNS, ML 等の情報発信を(公共)
	参加中(公共)
	委員会の活動には関心があるが委員会には参加しない。(公共)
	沢山の委員会があるが、スクラップ&ビルドする。(公共)
	委員会活動に参加している。(公共)
	関心はあるが参加のつもりはない。(公共)
	委員会の活動状況を知りたい(公共)
	委員会委員である。(公共)
	関心はあるが参加したいほどでもない(内容によりけり)(公共)
	委員会に参加する時間がとれない。(公共)
	既に委員会の委員である。(公共)
	委員会に属していますが、他の委員会の運営がわからない。(公共)
	時間的余裕がなく、参加を依頼されても難しい(大学)
	委員会に参加している(大学)
	既に委員会メンバーである。(大学)
	負担に感じない程度にかかわりたい(学校)
	委員会委に参加するのは荷が重い(学校)
	若い方たちが中心になってほしい。(専門)
	活動内容に関心はあるが、参加する時間、体力がない(なし)
	設問が変です。2 つの委員会に属しています。(不明)
	現在所属以外の委員会への参加手段が不明確(公共・教育)
	委員を務めて活動している(大学・教育)
	③は委員会により大きく異なる。一部の委員会の活動がわからない(大学・教育)
	委員会にオブザーバーとして参加できる(学校・教育)
70 代以上	退職後相当年数を経たので引退しています。(公共)
	退職後の見守り状態です。(公共)
	委員会に参加している(公共)

	老齢なので、現在は地域活動に限っている(公共)
	現在委員会に所属(公共)
	参加できないが、動向には注目している(学校)
	退職者のオブザーバー的な気持ちです。(学校)
	委員会に参加している(教育)
	関心はあります(なし)
	関心のある課題に関する委員会がない(なし)

表 12 個人問 6(2)

(2) 委員会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか 複数回答可	回答数	割合 (%)
①自分が取り組みたいテーマに関する委員会やプロジェクトを立ち上げられること	74	18.1
②委員でなくても、企画提案など委員会活動に参画できるしくみ	129	31.6
③委員会の活動が分かるようにすること	255	62.5
④委員については公募を含め、選定の透明性を高めること	96	23.5
⑤委員の世代交代を行いやすくすること	102	25.0
⑥研修やセミナーの内容を提案できるようにすること	82	20.1
⑦図書館業務に役立つ出版物が出ること	95	23.3
⑧関心がない、自分には関係がない	8	2.0
⑨特に活発にする必要はない	8	2.0
⑩わからない	34	8.3
⑪その他(具体的に記入してください)	28	6.9
合 計	911	223.3

表 13 個人問 6(2) その他意見

30 代	委員への日当・交通費等の補助(大学)
	委員の負担軽減(なし)
40 代	地方会員の参画機会の拡充(公共)
	情報インフラの整備(公共)
	事務局体制の強化と活動予算の増額。(公共)
	オンライン研修の充実(専門)
50 代	委員会の活動の成果がどのように公共図書館に還元されるのか、わ(公共)
	積極的に会員に声をかける。(公共)
	現役図書館員の場合、職場に理解と協力を得られること(公共)
	乱立しすぎ。真に必要な 5 つ程度に厳選を。(公共)
	委員会内でトラブルがあったときの対応をしりたい(公共)

	図書館大会旅費の全額補助(公共)
	専門性の高い内容なら、図書館学研究者の協力は必須(学校)
	現場を支える 2-40 代の図書館員(雇用形態問わず)の参加促進(教育)
	会員が自由に委員会事業の企画提案ができる仕組みをつくる(教育)
	協会運営に必須なもの以外はいったんやめてみては(不明)
	意見交換や意思決定が公平であること(不明)
60 代	開かれた雰囲気(公共)
	委員会の必要性からオープンに議論したほうがよいのでは(公共)
	委員会の開催日の事前公表と傍聴許可。(公共)
	各委員会活動に必要な経費を予算化すること(公共)
	作業・時間・金銭など負担にならないこと(学校)
	予算確保、委員負担軽減(専門)
	委員会の構成員、組織が会員なら確認できる(教育)
	時間的に忙しい中、参加しやすい工夫が必要(なし)
	資金 手弁当はきつい。(不明)
	委員会にオブザーバーとして参加できる(学校・教育)
	どの委員会も会員は傍聴できるように公開をして欲しい(専門・教育)
70 代以上	学校司書が、教職になりますように、見届けたい。(学校)
	現場の切実な課題解決を抱えた活動意欲の高い人に参画してもらう(教育)
	活発に行われるに越したことはない(なし)

3. 施設等会員

3.1 施設等会員の状況

表 14～16 に施設会員の状況に関する問に関するデータをまとめている。施設等会員で回答した内、半分が大学図書館、残り 33%が市区町村立図書館である。施設等会員数からみると、大学図書館の回答率が比較的高かったことが分かる。また、その会員区分を見ると、施設会員Aが36%、Bが31%、Cが28%となっている。

表 14 施設問1

問1 貴組織の館種または団体種別をお答えください	回答数	割合 (%)
①市区町村立図書館	112	33.4
②都道府県立図書館	9	2.7
③学校図書館	10	3.0
④大学図書館	165	49.3
⑤短大・高専図書館	15	4.5
⑥専門図書館	16	4.8
⑦市民団体	1	0.3
⑧地域図書館団体	3	0.9

⑨図書館研究団体	0	0.0
⑩その他	4	1.2
合 計	335	100.0

表 15 施設問 2

問2 貴組織が所属している部会を教えてください	回答数	割合 (%)
①公共図書館部会	113	33.7
②大学図書館部会	139	41.5
③短期大学・高等専門学校図書館部会	16	4.8
④学校図書館部会	8	2.4
⑤専門図書館部会	15	4.5
⑥図書館情報学教育部会	0	0.0
⑦所属なし	19	5.7
⑧どの部会に所属しているかわからない	25	7.5
合 計	335	100.0

表 16 施設問 3

問3 貴組織の会員区分はどれですか？	回答数	割合 (%)
①施設会員A	119	35.5
②施設会員B	105	31.3
③施設会員C	94	28.1
④団体会員	11	3.3
⑤賛助会員	6	1.8
合 計	335	100.0

3.2 施設等会員の部会に関する意見

表 17 が示す、施設会員で、「部会役員や代議員(評議員を含む)をしたことはない」との回答から、部会役員や代議員を出しているところの固定化が分かる。表 18 は部会での役員を出した経験のある施設会員は 3%弱しかないことを示している。このように施設会員が部会と直接かかわることは多くないと思われる。その理由として、部会への参加については、「余力がないなどで職員・会員を役員に出すことができない」が 72%で最も多い。次いで、「部会でどのような活動があるかよく分からない」が 29%となっている。業務が忙しく、部会に参加しにくい状況が表 19 からうかがえる。

部会を活発にする方法では、「部会活動が分かるようにすること」が第 1 位で 50%、次いで「わからない」が 28%となっている。このことから、部会の活動が施設会員に伝わっていないことが分かる。(表 21 参照。)

表 17 施設問 4

問4 貴組織は会員として、部会役員(正副部会長, 幹事)や代議員を担ったことはありますか	回答数	割合 (%)
①部会役員をしている・したことがある	17	5.1
②代議員(評議員を含む)をしている・したことがある	19	5.7
③部会役員や代議員(評議員を含む)をしたことはない	193	57.6
④わからない	114	34.0
合 計	343	103.4

表 18 施設問 5

問5 貴組織には委員会委員または部会役員に委嘱されている職員・会員はいますか	回答数	割合 (%)
①部会役員をしている・した経験がある職員・会員がいる	9	2.7
②委員会委員をしている・した経験がある職員・会員がいる	19	5.7
③部会役員や委員会委員の経験がある職員・会員はいない	228	68.1
④代議員(評議員を含む)をしている・した経験がある職員・会員がいる	11	3.3
⑤わからない	79	23.6
合 計	346	103.3

表 19 施設問 6(1)

(1) 貴組織が所属している部会について当てはまるものを選んでください	回答数	割合 (%)
①部会が開催する研修会などに職員・会員が参加している	75	22.4
②役員に職員・会員を出すことができる	5	1.5
③部会の目的や役割がよく分からない	35	10.4
④部会でどのような活動があるかよく分からない	98	29.3
⑤余力がないなどで職員・会員を役員に出すことができない	242	72.2
⑥関心がない	4	1.2
⑦その他(具体的に記入してください)	12	3.6
合 計	471	140.6

表 20 施設問 6(1) その他意見

市区町村立	オンライン開催されない、現地研修等については予算確保が困難。
市区町村立	人事異動により精通した職員がいない。司書の正職員がいない。
県立	余力がなく、役員に職員を出しにくいのはどの館も同じでは。
県立	②東海・北陸ブロック内でローテーションを組んで選出
大学	県職員のためほぼ3年で異動があり、団体業務まで対応できない
大学	図書館業務が全面業務委託となっており、大学職員様の関心がない
短大高専	現在、全面委託に伴い、中四国関連の総会・部会には参加している

専門	活動内容を専門図書館協議会と混同しやすい(着任一年目の感想)
専門	ML での情報交換が役に立っている
専門	図書館大会の分科会で専門図書館をもっと幅広く扱ってほしい
専門	部会活動に関心をもつ余力がない
地域団体	役員は輪番で決定しているため、協会ではやっていない。
その他	メーリングリストでいただく情報は参考にしています。

表 21 施設問 6(2)

(2) 部会をより活発にするためには何が必要だと思いますか	回答数	割合 (%)
①取組みたいテーマに関する活動提案が自由にできること	59	17.6
②部会員として部会活動に、より自由に参画できるしくみを整備すること	68	20.3
③部会活動が分かるようにすること	167	49.9
④部会の役員等の選出については、公募も含め透明性を高めること	17	5.1
⑤役員の世代交代を行いやすくすること	21	6.3
⑥部会事業について、部会員として提案できること	12	3.6
⑦部会を基とした出版活動ができること	3	0.9
⑧わからない	92	27.5
⑨関心がない、関係ない	2	0.6
⑩特に活発にする必要はない	16	4.8
⑪その他(具体的に記入してください)	21	6.3
合 計	478	142.7

表 22 施設問 6(2) その他意見

市区町村立	研修や講演の後日配信が一定期間あると参加しやすい。
県立	部会運営に携わる者が、部会設立の意義や目的を再検討する
大学	研修等に他部会から参加できるようにする
大学	魅力的な研修や他館との交流があること
大学	オンライン併用
大学	1 年だけの会員でも目的やメリット、流れがわかる説明や資料
大学	所属部署上長等に参加する意義を伝えやすいこと
大学	会員数や会費以外の収入を増やす
大学	大学図書館は設置母体別の協会や JUSTICE 等が中心のため
大学	国公立大学の各図書館協会の活動と重複するため現状でよい
大学	積極的な参画は困難だが、情報取得や研修機会は必要と考える
大学	国公立大図書館協会、国公立協力委員会など同業団体との協働
大学	国立大学図書館協会や国公立大図書館協力委員会等の活動で足りる
大学	大学図部会は国公立図協力委員会の活動と有効な接続ができている
大学	会員のニーズを知る

大学	他図書館や外部団体と連携した研修会活動推進
大学	メーリングリストなどでの活動参加
短大高専	部会活動に参画する人的余裕はありませんが、業務の研鑽に研修会
短大高専	但し、現在は全面委託に伴い、部会活動への参加が限られる。
専門	そもそも活発なのかどうか、状況をよく知らない

3.3 施設等会員の委員会に関する意見

部会の場合と同様、表 18 から委員会委員を出していると回答している施設会員はごく限られている。また、「部会役員や委員会委員の経験がある職員・会員はいない」と回答したところが68%あることから、委員会委員が特定の施設から出されていることが推測される。

表 23 に示されたように、委員会については、「組織に余力がないなどで職員・会員を委員に出すことができない」が 72%で最も多く、次いで「委員会でどのような活動があるかよく分からない」が 32%となっている。委員会委員についても業務が忙しく参加できない実情がうかがえる。

表 25 からは委員会を活発にする方法では、「委員会の活動が分かるようにすること」が 53%で最も多く、次いで「図書館振興に役立つ活動をする」が 29%で続く。さらに本の出版についても 18%となっていることから、委員会についてその内容が分からない会員が多いものの、一定数の理解者もいることが推測できる。

表 23 施設問 7(1)

(1) 委員会活動について、貴組織が当てはまるものを選んでください	回答数	割合 (%)
①委員会の活動に関心がある	10	3.0
②委員に職員・会員を出すことができる	5	1.5
③どのような委員会があるか知らない	66	19.7
④委員会の目的や役割がよく分からない	49	14.6
⑤委員会でどのような活動があるかよく分からない	106	31.6
⑥組織に余力がないなどで職員・会員を委員に出すことだできない	263	78.5
⑦関心がない	5	1.5
⑧その他(具体的に記入してください)	12	3.6
合 計	516	154.0

表 24 施設問 7(1) その他意見

市区町村立	仕組みがよくわからない
大学	県職員のためほぼ 3 年で異動があり、団体業務まで対応できない
大学	組織内で理解が得られない
大学	大学図書館に特化した委員会の話題であれば職員の派遣を検討する
大学	組織に余力はないが、必要に応じて協力する用意がある。
大学	図書館業務が全面業務委託となっており、大学職員様の関心がない
大学	大学図書館と関係する委員会については適宜検討したい
専門	関心はあるし大事だと思うが把握する余力がない

専門	出向者中心の組織で専門性が低いため、お役に立つのが困難です。
その他	図書館ではないため、活動に接点がないです。

表 25 施設問 7(2)

(2) 委員会をより活発にするためには何が必要だと思いますか	回答数	割合 (%)
①取り組みたいテーマに関する委員会やプロジェクトを立ち上げられること	33	9.9
②委員でなくても、企画提案など委員会活動に参画できるしくみがあること	45	13.4
③委員会の活動が分かるようにすること	177	52.8
④委員については公募を含め、選定の透明性を高めること	22	6.6
⑤委員の世代交代を行いやすくすること	27	8.1
⑥研修やセミナーの内容を提案できるようにすること	34	10.1
⑦図書館業務に役立つ出版物が出ること	60	17.9
⑧図書館振興に役立つ活動をする	98	29.3
⑨関心がない、関係がない	3	0.9
⑩特に活発にする必要はない	11	3.3
⑪わからない	68	20.3
⑫その他(具体的に記入してください)	10	3.0
合 計	588	175.5

表 26 施設問 7(2) その他意見

学校	学校の業務を減らすこと
大学	時代にあった運営をすること
大学	1 年だけの委員でも目的やメリット、流れがわかる説明や資料
大学	委員会の数が多いので統合整理してはどうか
大学	本業に支障なく、取り組めるような体制であること。
大学	部会・委員会のあり方検討準備 WG 報告の課題整理に賛同する
大学	委員会へのオンライン参加、対面との併用の促進
専門	司書職の労働環境の改善につながる活動があること
専門	委員会があるのは、初めてホームページをみて知ったぐらい…

4 その他、個人及び施設等会員の日本図書館協会への意見

個人会員が本協会に加入している理由として、「日本図書館協会の事業目的に賛同している」が 51%で最も多く、次いで「図書館員を職業とするなら会員であるのが当然と考えている」が 49%で続き、次いで「『図書館雑誌』を入手できる」が 45%で続いている。図書館員として入会するのは当然という考えと、情報を得たいという会員の姿がうかがえる。(表 27 参照。)

施設等会員が本協会に加入している理由として、「業務上、必要と考えている」が 67%で最も多く、次いで「日本図書館協会の事業目的に賛同している」が 47%で続く。施設会員が当然本協会に加入すべきと考えて

いる反面、個人会員のそれはやや小さい。(表 28 参照。)

会員からの協会への自由記述ではいろいろな意見が出されている。日本図書館協会は日本を代表とする唯一の図書館団体として重要視している一方、業務の多忙さ等から積極的に参加できない会員の姿もうかがえる。また、協会運営の厳しい状況などもあり、デジタル化オンライン化等により、業務の効率化と、地方会員の参加促進を図るべきという意見も多かった。また、部会役員や委員会委員の若返り、次世代への継承についても心配する意見があった。さらに、資料のデジタル化、ネットの動画資料への対応等、従来あまり行ってこなかった分野についても積極的に取り組むべきという意見があった。

表 27 個人問 7

問8 あなたが日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください 複数回答可	回答数	割合 (%)
①日本図書館協会の事業目的に賛同している	209	51.2
②日本図書館協会の部会・委員会で活動したい	43	10.5
③知人から入会を勧められた	61	15.0
④『図書館雑誌』を入手できる	184	45.1
⑤日本図書館協会主催の研修に割引料金で参加できる	45	11.0
⑥日本図書館協会の出版物が会員価格で購入できる	59	14.5
⑦図書館員を職業とするなら会員であるのが当然と考えている	198	48.5
⑧その他(具体的に記入してください)	59	14.5
合 計	858	210.3

表 28 個人問 7 その他意見

20 代以下	7 ほどではないがアイデンティティとして(公共)
	図書館に関する知識を得たり、研究者とつながることができる。(なし)
30 代	メールマガジンを受け取れる(公共)
	図書館員としての自己研鑽のため(大学)
	認定司書の申請を検討中(学校)
	学生の頃に取得した司書資格がきっかけ(なし)
	協会は必要な組織であり、会員になることで最低限の貢献をしたい(なし)
	認定司書だから(なし)
40 代	日々の勉強のため(公共)
	図書館員として斯界団体に協力すべき(公共)
	図書館界の意見の表明に必要な団体だから(公共)
	震災復興活動など協会の活動を支えたい(公共)
	学校司書の待遇改善の動きをみたい(学校)
	司書が働く環境を改善したい。そのために国や地方に働きかけたい(学校)
	学生時代に入会し、退会していないだけである。(学校)
	全国規模の図書館に関する協会だから(専門)

	図書館業界に必要である組織で、その活動を支援したいため(なし)
	情報収集のため(なし)
	日本図書館協会の物販が購入できる(不明)
50 代	認定司書取得のため。また業界動向問合等の支援を受けたいため。(公共)
	認定司書の申請をするため(公共)
	会員であることが何かの役に立つかもしれないと思っています。(公共)
	業界団体としての意義があると思うのでしっかりしてほしい(公共)
	研修の情報を得やすい(公共)
	入会当初は正規雇用の司書になる道だと思っていたため(公共)
	たまたまです。(公共)
	研修会などの情報が得られる。(学校)
	日本の図書館を支えたい。寄付金のような気持ちで会費を払って(学校)
	被災時に助けられた図書館があり感謝しています(学校)
	図書館の情報のアップデートのきっかけを得るため(学校)
	全国大会をはじめ図書館について学ぶ機会が多いから。(学校)
	図書館の情報収集のため(学校)
	図書館界の人的交流や情報を得たいため。(専門)
	部会で活動している(教育)
	日本の図書館の方向を大局から示すことに参画したいから。(教育)
	図書館業界の民間事業者として参加は当然と考える(不明)
	業界団体を皆で支えないといけないと思うから(不明)
	就職時に入会し、そのままなんとなくやめていない(不明)
	(図書館現場でなくても)現職の間は会員であろうと考えた(不明)
	所属から情報を得にくいから(不明)
	非正規補助業務でも研修に参加できると知ったため。(不明)
	図書館関連の情報が雑誌から得られる(不明)
60 代	図書館を守るには全国的かつ幅広く参加できる組織が必要だから(公共)
	認定司書の要件だから(公共)
	図書館運営に関する動向や情報の収集(公共)
	公共図書館の振興に資する団体であってほしいから(公共)
	何かおもしろい経験ができるかもしれないので。(大学)
	様々な図書館に関する情報を収集するため(大学)
	最新の動向を知り、情報を入手するため。(短大・高専)
	IFLA の会員として、大会に会員価格で参加できるから。(学校)
	大学時代に「就職したら JLA 会員」と言われたような(学校)
	IFLA 参加の会員割引がある(学校)
	図書館界の最新動向を知りたいから。(専門)
	図書館や情報学のお知らせが受け取れる。(専門)
	特に理由はない。(専門)

	冊子体の機関誌の配本が受けられる(教育)
	日本の将来を思い、司書の非正規雇用を憂えています。(なし)
	図書館をめぐる状況に関心があり、応援したい(不明)
	委員会メンバーになったので入会した。(不明)
	図書館員時代に入会。今は情報収集のため継続(不明)
	『図書館雑誌』実物入手交流を通じ人脈形成、図書館界の動向把握(学校・教育)
	バウチャー制度が使えるので(専門・教育)
70代以上	退職したが、会費で協会を支えたい(公共)
	図書館界の情報を得るため(専門)
	1990年時点で②。委員就任時に会員になることが条件だった(教育)
	情報を得て、自分のモチベーションをあげる(なし)
	かつて大学図書館員であったが、退職後も図書館を取り巻く状況(なし)

表 29 施設問 8

問8 貴組織が日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください	回答数	割合(%)
①日本図書館協会の事業目的に賛同している	158	47.2
②業務上、必要と考えている	225	67.2
③職員を日本図書館協会の部会・委員会で活動させたい	2	0.6
④施設会員配布資料がある	145	43.3
⑤日本図書館協会主催の研修に割引料金で参加できる	31	9.3
⑥日本図書館協会の出版物が会員価格で購入できる	26	7.8
⑦その他(具体的に記入してください)	22	6.6
合 計	609	181.8

表 30 施設問 8 その他意見

市区町村立	図書館運営に必要な情報の収集
市区町村立	上毛新聞 DVD-ROM が会員価格で購入できる
市区町村立	全国の公共図書館を繋ぎ、発展させる要の組織として不可欠と考え
市区町村立	求人情報に掲載させていただき、司書の応募が増えました。
市区町村立	入会当時についてわかる者がおりませんが②のように考えています
学校	前任者が登録していたため
学校	必要性を感じて継続しているが入会のきっかけや理由は不明
大学	過去から会員であったため。メリットは感じないので退会を検討中
大学	個人的には退会したいが、3年任期のため個人で判断できない
大学	各種ガイドラインや活動指針を確認するため
大学	これまで入っていたため
大学	財政難のため今後継続することが難しい
大学	他機関の調査(日本の図書館統計と名簿を参考にする時がある)

大学	長年会員であるので退会する理由がない
大学	国内の図書館を取りまとめる団体して対外的に必要
大学	動向や情報を継続的に得られ、全国的なネットワークに参加できる
短大高専	従前から会員でありそのまま引き継いで会員であり続けている。
専門	着任前から会員だったため継続している
専門	「図書館雑誌」購読のため。
専門	前任者からの引継ぎで会員になっている。

表 31 個人問 8

個人会員問 8 「あなたの部会や委員会の活動に対してのご意見を自由にお書きください」	
公共図書館部会	- 活動への参画と意義: 個人会員として部会に所属していても、研修の企画や運営に具体的に関わる仕組みがないため、所属する意味を見出しにくいという意見があります。また、現在の運営が都道府県立図書館長などの施設代表者中心(持ち回り)になっており、もっと個人会員が運営に携わる機会を増やすべきだとの指摘があります。 - 非正規職員・地方自治体の現状: 多くの地方自治体では司書採用がなく、ジョブローテーションや多忙な業務、土日の勤務、さらには非正規雇用(会計年度任用職員)のハードルの高さから、活動への参加が困難であるという切実な声が寄せられています。 - 組織間の連携と課題: 「全国公共図書館協議会」との役割の違いが不明瞭であり、予算や施設管理、職員の意識改革など、現場の共通課題についてより積極的な意見交換やロビー活動(アドボカシー)を求める声があります。 - 情報の充実: 指定管理者制度やカスハラ問題など、現場の実情に即した情報提供や、資料保存技術の重要性の打ち出しが期待されています。
大学図書館部会	- 他団体との関係整理: 国立・私立大学図書館協会や NII(国立情報学研究所)といった他の関係団体との役割分担を再整理し、日本図書館協会としての役割を絞り込むべきだという提案があります。 - 個人会員の疎外感: 実質的に「国公私立大学図書館協力委員会」の幹事会のような運営になっており、個人会員の存在が軽視されているという不満があります。具体的には、部会予算が使われているシンポジウムに個人会員が参加できなかった事例も報告されています。 - 外部委託問題: 大学図書館にも及んでいる業務委託の波に対し、協会がより明確な声明を出すべきだという意見があります。
短期大学・高等専門学校図書館部会	- 世代交代の必要性: 幹事を退職世代(高齢者)が担っている現状があり、組織の維持発展のために現役・若手世代の参加促進が強く求められています。 - 一人職場の制約: 短大図書館などは「一人職場」であることが多く、多忙のため研修や活動に参加する時間を確保することが物理的に難しいという課題があります。
学校図書館部会	- 情報発信への評価と要望: メールでの情報提供が活発で、活動内容が分かりやすいと評価する声があります。一方で、活動が首都圏中心であるため、オンライン(Zoom 等)を活用した地方会員の参画を望む声もあります。 - 他団体との連携: 「学校図書館問題研究会」と性格が似ているため、行事の共催を検討してほしいという具体的な提案があります。 - 閉鎖性の懸念: 一部の活発なグループが中心となることで、外部から見て閉鎖的な印象を与えたり、独善的になったりすることを危惧する意見も見られます。
専門図書館部会	周知活動: 部会員への活動内容の周知については「よくやっている」という評価がある一方で、委員会レベルでは活動が分かりにくいというため、より開かれたものにすべきだという意見があります。
図書館情報学教育部会	- 運営の停滞感: 構成員が大学教員主体であるため、本業の多忙さから活動レベルが低く、情報の共有も遅いといった運営上の問題が指摘されています。また、役員の交代が頻繁で継続的な取り組みが難しい点も挙げられています。 - 物理的障壁: 活動が東京中心であるため、地方から参加することの難しさがネックとなっています。
共通の意見	

どの部会にも共通して、「委員の固定化・高齢化」への懸念と「世代交代(新陳代謝)」を求める声が多く見られます。また、活動の透明性向上(委員選出基準の公表や議事録の公開)や、オンライン活用による地方会員の負担軽減、さらにボランティアベースの活動における旅費・日当の適切な支給を求める意見が多数寄せられています。

表 32 個人問 8 全回答

20代以下	認定司書事業委員会:司書の経験として公共図書館の業務経験のみを算定することは、他の図書館種の職員を認定司書から遠ざけている原因になっていると思います。同じ会費を払っているのだから、すべての図書館員を包括する制度を検討すべきであり、そうならない限りは日本図書館協会はあくまで「公共図書館司書のための団体」となっていると批判されても仕方ないです。とくに大学図書館の司書は学術的活動として論文の執筆や研究発表を行っており、その経験を認定司書として認められないのは、勤務経験だけで差別されていると感じます。(公共)
20代以下	委員会活動について感じていることを率直に書かせていただくと、「引き継ぎ」と「情報共有」、そして「活動のわかりやすさ」の3つが、今後もっと整っていくと良いのではないかと思います。とくに世代交代のタイミングでは、前任者から後任者への引き継ぎが十分に行われないうままスタートしてしまうこともあり、その都度「これはどうすればいいのだろう?」と手探りになってしまう場面もあります。忙しい中で急に役割が回ってくることも多いため、基本的な活動内容をまとめた資料や、過去の議事録・作業マニュアルのようなものが共有されていると、新しいメンバーも安心して参加できるのではないのでしょうか。 また、委員会メンバー同士の連絡体制についても、改善の余地があると感じています。現在は委員長に仕事の負担が集中しがちで、委員長自身が細やかに調整しなければならない場面が多く見受けられます。「分担したい気持ちはあるけれど、任せて大丈夫だろうか…」という不安や遠慮もあり、個人のスキルや経験値の差がそのまま負担の偏りにつながってしまっているように思います。メンバーそれぞれができること・苦手なことを共有し、役割をきちんと分けられるような仕組みがあると、委員会全体の動きがスムーズになるだけでなく、参加している一人ひとりの安心感にもつながるように感じます。 さらに、委員会の活動を外部に向けてもっと「見える化」していくことも大切だと思います。刊行物を発行することや、委員会としての情報を公開していくことはもちろんのことですが、セミナーの開催や、広報用のグッズ製作などを通して、会員以外の方にも活動を知ってもらえる機会を増やせると良いのではないかと感じています。図書館員以外の人にも興味を持ってもらうことで、新たなつながりや協力関係が生まれる可能性がありますし、結果として委員会そのものの活性化にもつながるはずです。 委員会活動は、個人の力だけでなく、メンバー全員で支え合いながら進めていくものだと思います。だからこそ、引き継ぎや連絡の仕組み、活動の周知など、ちょっとした工夫が積み重なることで、参加しやすく、続けやすい委員会になるのではないのでしょうか。これから少しずつでも改善していければ、委員会全体の雰囲気もより明るく、前向きなものになっていくと期待しています。(学校)
30代	図書館を取り巻く環境・情勢が大きく変わってきていることもあり、柔軟性をもって部会活動や委員会活動に反映していただき、活発な情報提供をお願いしたいと思います。 現場で働く職員は日々の業務で手いっぱい、情報収集できる余裕がありません。会計年度任用職員制度、指定管理者制度、地方自治体職員へのカスハラ問題など、現場の実情に沿った情報提供を引き続き希望します。(公共)
30代	協会入会時、部会とはどういった会なのか・何か活動があるのかなどがよくわからず、自分が所属している館種の部会に入ればいいのか?くらいの認識でした。入会案内時や節目毎などにもう少しわかりやすい情報開示があればと思います。(公共)

30代	部会、委員会とも何をやっているのかわかりません。特に部会は入会時に選択して以降、全く意識していません。 活動内容の広報としては、例えば、図書館雑誌の4月号に、大学のサークルの新歓のように、各部会や委員会の活動内容を載せてはいかがでしょうか。(公共)
30代	所属の部会に限らず、もっと各部会や委員会の活動を広報してほしい。 私が見落としているだけかもしれないが、HP、メルマガや図書館雑誌で、今以上に活動をアピールできることがあるのではないだろうか。(大学)
30代	部会・委員会の活動をされている委員の多くが、ボランティアベースで参加されているかと思います。本務の合間に委員会活動に参加することは各委員の負担が多いため、ある程度の対価(日当・交通費)を支払う必要があると思います。(大学)
30代	経験はない。なんとなく、外から見ると、それぞれの主題に対する専門家がいますよね？というイメージ。自分がそこに参加しようとは思わないが、何かあったときは質問したり相談できる人たちなのかな、思っている。(専門)
30代	正直なところ、部会や委員会の仕組みや参加方法がはっきり分かっていないので、HPへの掲載や若手職員向けに教えてもらえる機会があるとありがたいです。 また、児童図書館員養成専門講座を受講したいのですが、地方からだとな旅費や宿泊費等含め数十万かかります。予算の限られた中、公費では参加できず、研鑽のためとはいえ、個人の負担になるのも抵抗があります。可能な部分だけでもオンライン受講を可能にしたり、サテライト会場などをご検討いただけないでしょうか。(なし)
40代	関心領域の委員会活動に参加していましたが、人間関係の軋轢があり、退任しました。(公共)
40代	活動についてサイトに掲載していただけるのは本当にありがたいです。 サイトがリニューアルして、リンクが切れたりいろいろなトピックが分類なく並んで見づらくなったりしている部分は、改善していただけるとありがたいです。(公共)
40代	部会や委員会の活動に関心がないわけではないが、日々の業務に忙殺され、参加する気力、体力が残っていない。 役員、委員を引き受けてくださっている皆様も、ご多忙の中、業務を担ってください、感謝しきれません。活動への参加には職場の理解が不可欠で、公共図書館職員としては、土日の活動は難しい。(公共)
40代	部会活動については、図書館にとっては負担と覚えることもあると思う。図書館関係の組織やイベントなどとの連携・共催などによって、担当する県や館にとってメリットのあるような活動としていただきたい。 各種委員会における調査や原稿についても時期や様式などが統一されておらず、負担感を感じることもある。なるべく調査類はまとめて実施していただき、かつ回答に協力したものについては成果物(紙だけでなくデータ類)を提供いただけるようにしてほしい。できれば図書館統計などはホームページで常時利用できるとうありがたい。 委員会によってはホームページをみても活動内容が分かりにくいので、そのあたりからまず充実させていただけると良い。(公共)
40代	資料保存委員会の著作でコロナ禍の際に勉強させていただき、今では資料の補修や再製本について館内で任せていただけるような立場になったのですが、いまだに資料の保存技術についての立場(予算配分や人員体制)などが低く、なかなか委員会の提案する質を担保出来ない状況です。司書資格に資料の保存や修復についての知識を単位として組み込めることが理想ですが、資料保存の重要性をもっと打ち

	出していただけると嬉しいです(公共)
40代	・委員会が多数あり、委員会の整理が必要であると思います。 ・現在、あるひとつの委員会の委員を務めておりますが、他の委員会の様子が分からないため、情報公開を進めるなど透明性を高めていただきたいと思います。また、委員の公募も広めていただきたいと思います。(公共)
40代	委員会の活動が、本当に必要なのか、疑問に思いながら参加している。 また、活動を増やしたり、手を広げたりするのは簡単だが、やめることが難しい。効果の測定が難しいので、縮小したり廃止したりすることがなかなかできない。 生活に余裕のある人は、無報酬で時間をかけても、活動し続けることができる。そうでなければ、あまり参加できないだろう。(公共)
40代	ある委員会に20代の頃から12年ほど参加していました。大学院の研究の延長でもあり、図書館員が活躍する社会を目指すべきと考え参画していましたが、長期に渡り委員会に参加していることで委員会の新陳代謝が落ちてしまうこと、本業が忙しく皆さんに迷惑をかけることが増えてきたことから退任を申し出たところです。協会のかかなり苦しい時期に委員を務めていたこともあり、交通費すら出ない本当にボランティアな活動だったと思います。一方、コロナ禍を経て、オンラインでの委員会が実施できるようになり遠方の委員が参画できるようになったのは協会活動の広がりとして大きな意味があったかと思います。(公共)
40代	・自分が求められている、または活動が自分(勤務間業務含む)の利益になるのであれば、できる範囲で参加しようと思っています。 ・各委員会活動の活発さが、事務局の担当職員と委員長のマンパワーの強弱で決まっているように見えます(これ自体は当たり前)。事務局が活発でポジティブだと乗っていきやすいと感じる一方、事務局から「予算がない…」「なかなか難しい…」「負担が大きい…」というマイナスの雰囲気を感じられてしまうと、お役所組織的な前例踏襲を求められているのかと思ってしまい、活動も自分事として乗っていけない経験があります。(公共)
40代	健康情報の委員会の研修によく参加しているので委員会のことはなんとなくイメージできますが、部会については入会してしばらくたっているものの実はあまりよくわかってない状態です。(公共)
40代	全国組織であるにもかかわらず、地方や小規模施設の声が十分に取入れられていないように感じます。 会議で男女比が配慮されるように、同様に“地方の比率”にも目を向ける必要があるのではないのでしょうか(公共)
40代	同じ方が担っている部会や委員会があり、その方任せになっていないか懸念しています。経験者の体験を次の世代に引き継いでいける体制が必要だと感じました。(大学)
40代	大学図書館に関しては、他の関係団体(国立大学 / 私立大学 図書館協会、NII 等)との関係性の再確認や役割分担について再整理した方がいいかもしれません。 その上で協会の役割を絞り、大学図書館の状況やノウハウを、協会の活動へ活用できる体制になるとよいと想像するのですが。(大学)
40代	部会の何かの会議に参加したが、個人は場違いで、組織同士で話が出来上がっているように感じた。もっとも、抱える仕事量などから組織毎でないと対応しきれないのかなとも考えた。(大学)
40代	活動内容もよく分からない、加入・脱退方法もよく分からない、と分からないことだらけなので、意見とも言えないものかもしれませんが、そういう会員も一定数はいると思われますので、ちゃんと会員にわかるように透明性を高めていただくのは、大切なことかと思います。(大学)

40代	勤務先に対して部会役員や委員会委員の就任依頼が来ても、業務を増やせるような余裕が勤務先にはなく、またプライベートとしても家庭の都合で参加する余裕はない。(大学)
40代	部会はタスクが多過ぎて、「新しいことを生み出す」のではなく「こなす」感じになっていると思います。例えば、大会や会報の頻度を減らして、クリエイティブな時間を増やすことは難しいのでしょうか。また、部会員同士の交流、情報交換の機会があると、活動が活性化すると思います。「世代交代」「もっと若い人にやってほしい」という言葉をよく耳にしますが、世代は関係ないのではないのでしょうか。会費を払ってタスクに追われるのは、時間がもったいないです。やりたい活動がしっかりできて、新しいものを生み出せることが大事だと思います。(学校)
40代	自身の環境の変化で忙しく、参加する余裕がない。また、部会の催し等に参加したこともあるが部会内の意見相違や立場による対立構造見えてしまうことにも嫌気がさしており、部会や委員会に参加する気が起きない。(学校)
40代	これまで公共図書館部会と学校図書館部会に在籍してきましたが、公共図書館部会は各地区の都道府県立図書館長が持ち回りで幹部を務められているかと思っています。もちろん、協会へ施設会員としての意向を伝えるためのチャンネルとしての役割は重要だと思いますが、部会活動の活性化という観点で考えると、もっと個人会員にも部会運営に携わる機会を与えた方が良いように思います。また、学校図書館部会の活動について、現在は首都圏近郊を中心に行われているかと思っています。可能であれば Zoom などを通じて、オンラインでも部会運営や活動に参加できる体制を整えていただけると、地方の学校図書館業務従事者の声が届くのではないかと感じています。(学校)
40代	役員や委員は首都圏で勤務している人が多いと感じます。その他の地域の方が参加できるとよいと思います。(専門)
40代	アメリカ図書館協会のように既存の国立大学図書館協会、専門図書館協会、学会図書館協会を、日本図書館協会の部会として位置付けるのが最も良い。今は重複してしまっているのが労力が分散している。日本図書館協会のもと図書館員の総力を一つにまとめるべき(専門)
40代	館種が変わったら、動いたら、自動的に部会も変えられるようにしてもらえると有難いです。(専門)
40代	長らく部会・委員会のトップが交代していないところが散見されます。どういう基準で新規の部会・委員会の役員に選出されているのか不透明。狭いコミュニティ内でのやり取りで選ばれているとしか思えません。例えばある委員会は 20 年以上委員長が交代しておらず、近年は刊行も遅れがちです。人事の刷新を強く求めます。(不明)
40代	部会や委員会のいわゆるコアメンバーの方以外にどういう方が参画されているかわからないし、自分の所属する県あるいは近隣都道府県の会員と交流する機会もないので、自分が部会や委員会で活動するイメージは現状では持てていません。(不明)
50代	会員になる際に、いずれかの部会を選ぶようになっていたので、所属している館種に対応した部会を選びました。 しかし、個人会員として、部会員であることで、何か意味があると感じたことはありません。 部会員として、部会が主催する研修等の事業について、知ったり、参加したり、企画に関わるなど、何らかの活動ができる仕組みがあれば、意味があると思います。(公共)
50代	今まで経験はありません。どういう活動をしているのかよくわからないの状況です。(公共)
50代	図書館雑誌を読んでいるだけだと、どうしても自分ごとと捉えにくく、部会や委員会についてもやってくだ

代	さってることを傍観しがちでした。特定個人に負担感が少なく、多くの人が交流できるような場になればよいと思います。(公共)
50代	それぞれの活動は大変意義のあるもので、公開されている情報は、勉強になったり参考になりました、助けていただいています。(公共)
50代	代議員総会で提示された財務状況の資料にしたがえば、協会のこの後2年の喫緊課題は「組織が維持されること、準備のないまま破綻することがないようにすること」です。 渋いことを言うのは心苦しくありますが、この先2年は各部会・各委員会が「したい」「なりたい」に優先して、協会のsustainabilityのために事業・活動の見直しをする、場合によっては一時休止する、と決めるのが正解だと考えます。組織が落ち着いた3年後には、すっきりした気持ちで楽しいことを始めましょう。 ●1)各委員会と事務局が、事業・活動の整理案を出して検討する。その積上げで支出削減する。 ●2)各委員会と事務局が、(公益社団にできる範囲内で)収入に結びつく事業・活動をあらためて検討する。(公共)
50代	日本図書館協会の部会と全国公共図書館協議会との関連がわかりづらく、それぞれの場で似たような議論がなされていることが理解できない。 また、公共図書館どおしの横のつながりが取れるようにしてほしい。共通の課題についての情報交換や意見交換がもっとなされてもよいと思う。図書館業務だけではなく、予算面の課題や施設面の維持管理の課題について、積極的な意見交換ができ、文部科学省や自治体の図書館への価値向上にくわえ、公共図書館に働く図書館職員の意識改革に、もっと積極的な役割を果たしてほしい。(公共)
50代	図書館学のテキストや先輩方からは、「複数の職能団体に所属して、そこで活動することが大事」と教わってきたが、近年は会員以外でも委員会に所属していると聞いて驚いている。それでは日図協に加入する理由は？とこちらが疑問に感じてしまう。また、学習会とも違うので、人選方法は統一的な考えがあった方がよいのではないかと思います。(公共)
50代	多くの地方自治体では司書採用をしておらず、図書館業務を行う正規職員がジョブローテーションによって十分な実務経験を積むことができない。会計年度任用職員は給与は正規職員よりも長期に図書館で務めることができるが、ワーカーとして働くことが多く協会に加盟するにはハードルがある。事業者の図書館職員は長期にわたり図書館業務に従事することが可能と思われるが、マネージャーとして勤務できるのは一部の職員であるため、ワーカーとしての職員はやはり協会への加盟はハードルが高いと思われる。結果的に協会に加盟し、部会や委員会活動を行う動機を持てるのは、かなり意識の高い図書館職員に限られるのではないかと。私は地方自治体の一般事務職員のため、異動先での業務負荷が大きく、これまで部会役員や委員会委員を受けたことはないが、仮に受けたとしても務まらなかったと思う。(公共)
50代	各部会の活動、発足から今日までのあゆみや課題が図書館雑誌など拝見しておりますがあまり記憶に残っていない印象です。特集記事などで再度紹介があるとよいと思います。(公共)
50代	よくわからないですが、大変そうなイメージです。(公共)
50代	若いうちに関わることができればよかった(公共)
50代	現場を離れるとなかなか情報が入りにくく、また、共有できる情報も持たないため、ワークショップ等には参加しづらくなってしまふ。気になるテーマの講座等には参加したいが月末月初等は休暇を取りにくく参加できないものも多いのが残念。(公共)
50	他薦でも自薦でも、参加動機、そして活動目的や内容は、なるべくオープンにするのが良いと思う。(公

代	共)
50 代	相談できるポータルサイトを作って欲しい 例えば、レファ協の図書館運営バージョンのようなものが欲しいです。 こんな時はこんなガイダンスを利用すると良いなどの、事例集や相談窓口が欲しい。(公共)
50 代	まず会員の方々に存在を知ってもらうことが必要と考えます。できれば参加できるといいのですがなかなかそうもいかないこともわかります。(公共)
50 代	部会役員や委員会委員の経験はありません。 中堅職員ステップアップ研修や全国図書館大会、図書館雑誌などで、部会や委員会の活動について見聞きしており、ありがたい存在です。 一方で、現役職員が役員や委員として活動を行うのは負担が大きいと思います。 役員や委員の固定化は活動の安定につながるとは思います、フレッシュな活動も期待しています。(公共)
50 代	以前、仕事場の館種に合わせるように言われて、希望する部会に入れなかったことがありました。司書をしてる間は入るのが当然と思ってますが、それから協会に距離を感じるようになりました。 だいぶ前なので、もうそんなことはないと思いますが、職場にかかわらず本人が関心を持っている部会に入れるとよいと思います。(公共)
50 代	研究集会などの全国や地区レベルの大会や集会事業は、学びや交流の場としては有効だが、実施当番となる館には大きな負担となっている。頻度を減らすなど精査してもよいのではないかな。 協会の研修事業(児童、障害者サービス等々)や講師派遣、照会相談機能は大変ありがたく、こちらの充実を進めてほしい。(公共)
50 代	自分は公共図書館部会に所属すると思います。しかし、部会に関して、なにをすところなのかを自分はわかっていないと思いました。部会というものが、普段からなにをしていて、なんのためにあるのかを知りたいと思いましたし、教えてほしいと思いました。部会の見直しよりも、まず知らせること・自分も知ろうとすることが先だと思います。そして、公共図書館部会や学校図書館部会であれば、そこで働く過半数以上を占める、非正規図書館職員にたいしてのなんらかの働きかけをすることが必要だと思いました。委員会については、公募で委員の募集がある委員会がでてきていることが良いと感じます。なにかの委員会で仕事をしなかったけど私自身に声がかかることは、ありませんでした。一番やってみたかった委員会で公募があり、受かったことが嬉しいです。仕事の多い委員会なので兼務は難しいと感じます。人脈・人望がない図書館員が委員会に参加したいと思ったら、公募という制度は必要だと思います。人脈を築くには限界があり、名の知れた人や東京近郊の人でなければ、難しい面があります。今回のこの委員会や、市民と図書館の未来プロジェクトは暫定的ですが、どのように委員を決めたのかを知りたいと思います。声をかけてもらえるようになるには、どうすれば良いのでしょうか。とくに図書館の未来プロジェクトについては、正規雇用で名の通った人が委員に多く、非正規の司書が委員として参加できる場ではないのだろうか？とも思っています。そういう場を体験しなければ、積むことができない経験があり、そこには非正規の司書はおよびではないのかもしれませんが…。(公共)
50 代	委員会委員は原則公募とし、新任委員の紹介を図書館雑誌またはホームページに載せてほしい。(公共)
50 代	オンライン会議ができるようになり便利になったが、会議ツールは委員が職場で使用していたり個人でアカウントを持っているなどを使用している。経済的に余裕のない若手が委員になりにくい。(公共)
50 代	全国図書館大会の地方大会は協会によるマニュアルがなくノウハウを引き継がないため、分科会運営は部会・委員会が主体的に運営してノウハウを蓄積・継承していくべきである。特に大学・短大や学校図書

	館の分科会は、開催地によっては関連団体に体力がなく、運営の受け皿となりえないケースもあるため、より主体的に分科会の運営に参加することも検討いただきたい。(公共)
50代	できる限り現役の図書館員が参加できる仕組みがあるとよい。理事や委員の世代交代が活発になるといい。(公共)
50代	委員会の世代交代が必要であるが、現在の状況では委員に対する負担が大きいのではないかと思う。しかし、営利企業の社員が部会や委員会に入って、企業の有利になるような部会や委員会活動になってしまっては図書館の発展にとってよろしくない。特定の企業が部会役員や委員会委員になることは避けるべきだと考える。 日本図書館協会の職員の方は、職員の方によるが、委員会の業務を面倒だという顔をしないでほしい。(忙しいのだろうとは思いますが、委員は無給で図書界のために活動しているので)(公共)
50代	参加する余裕はないが、活動や成果物としての出版物には興味がある(公共)
50代	協会の事業を執行するためには必要だと思う。 組織の在り方や委員などの構成については、時代に合ったものに変えていかなければならないと考えている。(公共)
50代	図書館の自由の問題への見解発表、新型コロナウイルス感染症の時の対応マニュアル作成、危機管理についての見解などを作成、公表していただき、大変ありがたく思っています。 同一自治体のなかでも、特殊な勤務形態の図書館は、他に相談できるところが少ないと感じています。その中で日本図書館協会の知見や指針は図書館運営の参考であり、本庁への説明の根拠にしております。(公共)
50代	日本図書館協会の活動を支える心臓部であり、日本の図書館界を各部会、委員会が牽引している重要な役割を担っていると思っています。 皆様の日頃の活動に敬意を表します。(公共)
50代	アンケートを連発されていますが、結果がどのように反映されているかわからない。「アンケートを一応したから終わり」というように見える。 部会役員でも委員会役員でもないが、会員を辞めようかとも考えることが多々ある。 委託に関するアンケートが急がれるのではないか。委託の波は大学図書館にも及んでおり、これは日図協があいまいな声明しか出していないことも影響しているのではないかと考える。(大学)
50代	委員会へは、本業の延長と捉え、無償にて取り組まさせていただきますが、JLA 側のご担当者の方から次第に当然であることのような対応をされることがあり、JLA の組織内に余裕がない状況を感じることがあります。また、委員として求められる助言等を行うも、JLA の事情により遮られることが幾度もあり、その都度、当該委員会へ所属していることへの意味が分からなくなることがあります。委員を代わっていただいても良いのですが、恐らく代替を募ったとしても、JLA の委員会委員をお受けするだけのメリットがはっきりと見いだせない場合、手を挙げたい方を見つけることが難しいように思います。過去に他の委員がお辞めになる際に後輩へ話を持ちかけましたが、本業が忙しいことを理由に断られました。しかしながら、JLA 以外の団体への参画には積極的な姿勢を見せる状況を見るに、このような状況で、見放すことも忍びなく、何らかのお役に立てればと活動に従事させていただいています。(大学)
50代	小規模図書館でワンオペ態勢なため、日々の業務を回すのに必死で、部会や委員会活動に参加したくても余裕がありません。 オンライン参加等が可能な場合もあるのですが、情報を取りこぼしてしまうことが多いです。誰もがも

	っと活動に参加しやすい方法があればありがたいです。(短大・高専)
50代	若い会員が活躍し、斬新な意見や活動提案を出しやすい活動にしてほしい。(学校)
50代	学校図書館部会に属していますが、何かあるとメールが届き、活動の内容がよくわかります。新聞記事や集会に関するURLを教えてもらえることもあり、参考にさせていただいています。お仕事がある中での活動なので、大変だと思います。受け取るばかりで心苦しいですが、今の形で情報をお知らせいただけたらありがたいです。(学校)
50代	部会の活動に参加、協力したい気持ちはあるが、時間的な余裕がない。(学校)
50代	部会や委員会の活動に関心を持つ会員が活動に参加するハードルを低くできると良いと思います。一方、長く活動を続けて来られた先輩方の知識や経験の蓄積を引き継いで重ねていくように工夫しないと、たとえ一時的に新規の活動がたくさん生まれても続かないだろうとも思います。部会や委員会は協会の基本だと思っています。(学校)
50代	病気を抱えながら日々自分を生存させることに精一杯なため、会費を払って『図書館雑誌』を拾い読みしてるだけの図書館員(休職中)になっています。部会や委員会の活動に積極的に参加できるようになるまでの道のりは遠いと感じています。こうしたアンケートは、私のような状況にあっても参加しやすいので、非役員・非委員対象のアンケートや原稿依頼(短いもの、軽いもの)があると良いかもしれません。(学校)
50代	首都圏で、対面での集会がほとんどなのを残念に思ってます。オンライン、オンデマンドの活用を検討してほしいです。(学校)
50代	部会は、各部会ごとに事情が異なるので、それぞれの部会で検討するほかない。委員会は協会の事業を担っているので、既存の委員会を変えることは難しいだろう。会員が感心のある課題について集えるような仕組みを新たに整備するのは良いと思う。(学校)
50代	専門図書館部会は、部会員に活動内容を周知すべく、よくやっていると思う。 委員会は、接する機会があまりなく、よくわからない。やはり開かれたものにすべきではないかと思う。(専門)
50代	図書館情報学教育部会での活動は日々の講義の参考になっている。都内に行かないといけないのがネックか。(教育)
50代	20～40代といった現場の最前線を支える層(特に指定管理者・業務委託業者・会計年度任用職員)からの参加を促すべき。絶対的に多い層からの支持を得る組織になって欲しい。(教育)
50代	日図協の資金、日図協の事業活動に関わる人材も限られているので、事業に優先順位をつけて統廃合をする必要があるのではないだろうか。その上で、新たな事業に取り組む必要もあるだろう。スクラップアンドビルドが必要なのでは。 現状、日図協は図書館員の専門職集団になり得ていない。この点を明確に打ち出す必要があるのではないか。その上で、それに沿った事業活動を検討することになるのではないだろうか。(教育)
50代	初心者で申し訳ないのですが、どのような目標に対してどのようなことを行っておられるのかを知らないのです。(なし)
50代	図書館情報を得る為、図書館雑誌を毎月購読しようと会員になりましたが、部会や委員会の活動がどのようなものか、どのように参加するのか、よく分かりません。今後、どのような活動をされていくのか、これまでどのような活動をなされたのか、知りたいと思っていますので、図書館雑誌やホームページ等で具体的にお知らせいただけると有り難いです。(なし)

50代	委員の任期は例外なく10年とし、新陳代謝を図るべきである。(なし)
50代	部会や委員会活動を頑張っている方には大変感謝しております。(不明)
50代	委員会委員は職場からの推薦で何年か務めさせていただきましたが、転勤を機に交代しました。若い方に経験していただくのはよいことと思います。 部会役員や委員会委員は年限を決めて、年限がきたら少なくともしばらくお休みいただくようにすると、いろいろな方の意見が反映されてよいのではないのでしょうか。 役員や委員のなり手がいないのであれば、休眠や他の部会/委員会との合併を検討するとよさそうです。また会員数に見合った活動規模を模索できると、息長く活動できそうに思います。(不明)
50代	興味や関心のある部会はありますが、途中から参加できるのか、どのような活動形態なのかがわからず、開催される研修などに(都合にもよりますが)参加するにとどまっています。(不明)
50代	「研究」まではいなくても、様々な課題に関して、フランクに情報交換出来て、思いを共有出来て、前向きな解決策を見つけられるような場があるとよいと思います。(公共・教育)
60代	熱心に活動してくださる方々がいて、ありがたいと思っています。成果物である日本図書館協会発行の書籍を信頼し、購入して手元で繰り返し参考にしてきたものも多く、業務の助けになってきました。また、委員会で活動されている方が、快く地方での研修会講師を引き受けてくださったこともあり、感謝しかありません。(公共)
60代	誰にでも開かれた組織にする必要がある。といっても、無責任な発言や行動を伴わない事例を排除する必要がある。委員会や委員への強権的な発言や事情をのみ込まずに発言するケースが多いのは残念だ。(公共)
60代	協会に加入して日が浅く、部会や委員会の活動を理解出来ていません。 ICTが急速に進展しており、情報発信や意見集約等のあり方の検討が必要だと感じます。(公共)
60代	部会や委員会の活動は重要だと考えているが、役員、委員の方たちの負担が大きいのではないかと。ほぼ手弁当(交通費のみ)ではないかと思うのだが、今の時代には謝礼も必要ではないか。 常勤の図書館員がどんどん減少する中、指定管理者事業者の社員や非常勤職員も参画しやすいようにする必要があり、それには金銭的な補償も必要となる。 すでにそこまで進んでいるのであればよいが、待遇について不明瞭である。 また、委員会の委員も知り合いを誘う形で続いていくと、考え方が固定化するように思う。以前委員の経験があるが、考え方が凝り固まっていることに合わせて辞めたことがある。(公共)
60代	そもそも、誰が委員か確認できない委員会がいくつもある。委員会として活動するなら、基本的な情報くらいはいつでも確認できるようにしておくべき。(公共)
60代	情報発信の強化が何より重要だと思います。(公共)
60代	図書館で働いていた時に入会し、退職しても図書館の動きをしりたいと会員で居続けています。自分の怠慢と関心の狭さから、部会や委員会については、ほとんど接点がないままに過ごしてしまいました。 こういったアンケートでご意見をきいていただける機会はあると思います。 地方図書館や学校図書館、指定管理などさまざまな立場の方々が、より積極的に関わることができると面白くなると思います。(公共)
60代	市民を含めた広範な図書館関係者に向けて、わかりやすい言葉、伝わりやすい表現方法で協会、部会、

代	委員会の方針や活動がアピールできるよう工夫が必要だと思います。(公共)
60代	会誌で報告を読むだけでも、動向などがわかり、価値があるかと思います。 常に関わろうとしていた訳ではありませんが、協会の催しに参加すると身内感の外に置かれている感じで居心地が悪い感じがします。(公共)
60代	部会については、新規加入者がいても、既に部会に属している方々が活動され、今までどおりの活動ができていけるだろう。しかしながら、そうなってしまうと組織が固定化され、柔軟性も欠け世代交代もますます困難になると思われる。(公共)
60代	部会や委員会の活動は協会のサイトで確認しますが、年度の報告などの「お役所的」なもので、検討過程や話し合いでの意見の相違など考えるための素材の提供がないと感じます。ご尽力いただいている方々の検討過程を知ることができるといいと思います。(公共)
60代	新たな参加意欲を向上させる取組みをすること。新入会員歓迎の場を設けるなど。(公共)
60代	委員の負担を軽減するとともに多様な意見やアイデアをとりいれられるよう、オブザーバーや各委員のサポーター的な人材を確保できるとよい。 時間に余裕ができた退職者にボランティアで委員会の各種作業の補助をしてもらえると、現役職員の委員も助かり、退職者の協会退会を減らすことにもつながるのではないかと。(公共)
60代	部会については特に意識したことはなかった。 過去に委員会委員の経験がある。家庭の事情、本職の多忙さが重なり、辞めざるを得なかったが、事情も変わり、参加したいと気持ちもある。しかし、今の図書館に即した事業を行っていく委員会活動ならば、若い司書が委員である方が望ましい。 今後現場を退職する会員も多くなると思う。せっかくの経験を自分だけの思い出にせず、後に続く司書に繋げていくことは先に行く者の義務だと思う。多少なりとも経験を持つ者としてアドバイスできる場があるなら、委員会という枠組みではなく、委員外の参考人のような立場を作り、意見を聞く、協力してもらおうといったことを日常からできる仕組みがあるといいと思う。 また、委員の名簿(図書館雑誌)を見てみると、大学教授が多い。研修などの活動が見えないと、教授の研究のためにある委員会のように見える。現職の司書を委員にするとか、研修とか出版とか、目に見える活動をしているのだろうか。(公共)
60代	部会は、館種別でよいのか？という見直しが必要だ。 委員会は、整理統合し、数の減少を考える。(公共)
60代	10年ほど個人会員を続けており、図書館雑誌の記事掲載の際に委員の方にお世話になりましたが、どういふ方が委員をされているのか、わからないままでした。(公共)
60代	非正規で指定管理者の意見が聞きたいというきっかけで委員会活動に誘われ、現在に至ります。会員になったのもそれと同時でした。何もきっかけがないままでは会員になるメリットが実感できないのですが、委員会活動に関わることで、会員である立場が明確になってきたように思えます。会員に限定せずに委員会や部会の裾野を広げてアイデアや意見を求める仕組み、実現に結びつける仕組みがあれば、しいては会員増にも繋がるのではないかと思います。(公共)
60代	自分の担当する委員会については、日々の図書館運営に苦勞する会員の役に立つような情報を提供することで、身近に感じてもらいたいと考えている。 そのためにも、委員会サイトは、各委員会で編集・更新ができると良い。(公共)
60代	委員会等を減らす検討をされているようだが、それぞれのプロジェクトに分かれて積極的な活動事業を

代	展開していくためにも減らす方針に反対である。 委員会の運営方針変更の際は構成員へのヒアリングと話し合いが不可欠と考える。(公共)
60代	書きたいことが沢山あって簡単には語れません。(大学)
60代	委員会活動は図書館員の専門職性を向上させ、図書館に関する理解を一般市民に広げていくために必要なものである。(大学)
60代	部会や委員会の活動内容を知らない。部会毎の活動報告や委員会の報告をわかりやすい形で提供して欲しい。(大学)
60代	短大図書館に勤務しています。ほぼ一人の職場なので、研修会なども出かけて参加する時間はなかなか取れないのが実情です。部会や委員の役員のみなさまにご負担をおかけするのも心苦しい思いはありますが、積極的にやりますとも言えないジレンマがあります。 部会や委員会の統合、集約ができると良いのかもしれない。(短大・高専)
60代	日本図書館協会学校図書館部会と学校図書館問題研究会とは、会の性格が似ているので、夏季の行事を共催することを検討してほしい。(全国学校図書館協議会とは、会の性格がかなり異なるので、行事の共催は難しいと思う。)(学校)
60代	1990年代に図書館員の問題調査研究委員会の委員だったことがあるが、人事異動で図書館外にでたところで委員を退任した。(学校)
60代	県の代議員として、活動したくても会員情報は自分で得るしかなかったのが、改善されありがたかったです。 会員は、4月、9月入会を随時入会可能として欲しいです。このシステムのせいで、入会希望者を数名逃して残念な思いをしました。(学校)
60代	参加しやすい会にしてほしい。(学校)
60代	過去に協会事務局職員の方から依頼されて委員会委員を経験したり、都道府県選出の評議員として参加していた。諸事情により今は特に委員会委員としての参加はないが、部会の事業にはなるべく参加するようにしている。(学校)
60代	もう少し新しい考えや取組みが必要かと思います。(学校)
60代	米国 SLA も ASIS-T と合併を選択しましたし、どの職能団体も同様ですが、雇用体系が多様化している現在、現職者にとりボランティアでの活動は困難であると感じます。幹事への負担感を減らすために、他の協議会や団体と横断的な委員会や部会にすることも一案と思います。(専門)
60代	協会が、パソコン通信を使って広報をする際に、お手伝いをしたことがあります。 その後、会社の人事異動で資料室から離れますと、活動をする時間が無くなってしまい、疎遠となりました。 企業の情報管理部門では、人事異動で離れる方はおおいので、そうした方の活用もお考えいただくのも、活動の輪を広げることになるのかと思います。(専門)
60代	図書館雑誌を購読しているだけの幽霊会員です。図書館の業務経験は長いので、いずれ何らかの形で活動に参画できればいいなと思っています。(なし)
60代	研修会に参加して感じることは、会員の多様性があるといいかなと。(なし)

60代	部会や委員会によっては、現状では、役員や「委員」ではなく、タダ働きさせられる人員とされているようにすら思えます。財政状況が厳しいのはわかるし、報酬を支払う必要はないが、あまりにも目先の事業の浮利を追いつぎているとの印象を持っています。(なし)
60代	認知症と図書館に関する講演を行った。講演会等に参加した。(不明)
60代	現在計画・実施されている研修やイベントは図書館勤務の時間帯が多く、ほとんど参加できません。内容によっては記録をして、オンラインで視聴できるようにしていただければありがたいです。(不明)
60代	ある委員会に参加しています。毎月の会議と記録重視に疲れを感じます記録主義には疑問ありです。(不明)
60代	現在所属している委員会を一度辞めたことがある。他の委員からの個人批判が強烈すぎたため。公募しても、その委員会活動に関心があるというより、別の目的で立候補した人が過去にいた。それでいいのだろうか？ 任期はあるが継続している。それでいいのだろうか？ 新しいメンバーによる新陳代謝をおこなうべきである。任期は2回まで更新可にとどめ、やめやすい環境を整えてほしい。復帰するのはよしとしてもいいとして。(公共・教育)
60代	現在参加中(大学・教育)
60代	よくやっていると思う(学校・教育)
60代	図書館数の多い公共図書館部会などが優先されるのは、ある程度致し方ないのかと存じますが、近年の図書館大会において分科会設定の状況に首をかしげることもありました。 また、1度だけオンライン総会に参加した部会では、役員は長らく務めておられる関東の方々が中心で、顔なじみの方がいらっしゃらなかったこともあり、疎外感を持ちました。逆にその中に入れてしまえば、居心地が良いのだろうと感じました。 ご提案としては、政治家や官僚へのロビー活動など、国の意思決定機関に働きかけることが得意な方々に集まっていただき、アドボカシー部会や委員会を、館種をこえて構築してはいかがでしょうか。(学校・教育)
60代	個人会員は図書館情報学部会くらいしか加入できない(と感じる)ので、オブザーバー参加ができる仕組みを入れてほしい。後述のように、これからは利用者目線を入れ、多様な視点で活動の幅を広げる必要がある。 学校図書館部会の研究集会に参加して、神奈川など平素から活発に活動しているグループか、言い方が難しいが、非常に幅を利かせ、閉鎖的な印象を抱いた。頑張っているのは良くわかるし牽引役になつてるので大切にしないではいけませんが、外部の多様な目線＝開放性をもっと意識しないと、新たな視点での取組ができなかったり、独善や自己満足に陥る懸念を強く抱いた。 また図書館情報学教育部会は構成員が大学の教員ばかりで、本業が忙しいほか、他の団体の活動に割く時間比率が高いせいか、活動レベルが低く、平素の役員の動きが分からないし、部会報も1年前の総会記録だったり、平素のコミュニケーションが少なすぎる。また構成員が総会前の資料を見られないし、総会後に資料だけでも迅速に共有しては、と何度か提案したが、実現されないまま放置されている。役員も部会長以外はほぼ1年交代で、継続的な取り組みが期待しづらい。結局構成員が忙しすぎるので、負担感を分け合って、言葉は悪いが体裁を繕っているのでは、という疑念を抱かせる運営状況に映る。なお同部会

	の構成員は役員を退いたあとはリタイア状態で日図協会員としての活動実態はほとんどないのではない か。一度部会としてじっくり将来展望含め話し合う必要があるのではないか。(学校・教育)
70 代 以 上	地方の図書館職員や関係者が要望したり、参加できる行事や研修会等を積極的に企画する委員会や部 会であっていただきたい。(公共) 非正規雇用職員に関する委員会のメンバーとして、思う存分活動しています。 ただ図書館協会の活動として考えると他の委員会や部会とより連携する必要があるのではないかと 思います。部会・委員会の横断的な活動を増やすことを望みます。(公共) 委員会活動の活性化する為、Zoom など活用して広く会員活動にいかす。(公共) 50 年くらい会員になっている。自分の活動の参考と、図書館員であるなら会員になるのは当然と思っ てきた。周りにはあまり会員はいない。私は図書館友の会や文化活動に力を入れてきたが先細りが心配だ。 学校の司書さん達とも連携していきたいと思う。(公共) 委員会委員が固定している感じがする。専門的な分野は委員としての資質などが問われるので交代など はなかなかできないと思うが、委員の新陳代謝が必要である。委員の公募を積極的に進めるべき。(公 共) 大学図書館部会は、実質的に、国公立大学図書館協力委員会の幹事会と同じになっている。そのた め、個人会員の存在が忘れられがちになっている。ある年度の大学図書館シンポジウムは、国公立大 学図書館協力委員会と大学図書館の共催であるにも関わらず、参加者が大学図書館の職員に限定さ れ、大学図書館部会の個人会員が参加できなかった。しかし、大学図書館部会の予算が支出されてい た。 『図書館雑誌』に掲載される大学図書館部会の年度報告には、収支報告書が掲載されていないが、掲載 すべきである。また、各部会とも報告の様式をできるだけ統一すべきである。(大学) 部会を運営する幹事を退職世代(高齢者)が担っています。本来であれば、現場の図書館、図書館員のた めの活動部会ですから、現役世代が中心になって部会運営をすべきと考えます。私は後期高齢者にな り、いつまで続けられるか分かりません。多くの組織団体で、その構成員や役員が高齢化していると言 われています。また、若い人たちが役職をやりたいがらない傾向にあるとも言われています。しかし、組織を維 持発展させていくためには、若い世代の参加が必須です。この点を議論して頂きたいと思います。(短大・ 高専)
70 代 以 上	活動を応援します。(学校) 図書館情報学教育部会の活動が、最近あまり見えてこない気がします。(教育) 委員の世代交代を行いやすくすること。より適任の方に活動してほしい。(教育) 全国各地の図書館で講演や見学の機会が多い。用語委員会のような委員会が必要だ痛感している。もし 新設されるのであれば参加協力する用意がある。 図書館用語と一般社会の常識との乖離が問題だ。 例えば、多くの現場では除籍図書・雑誌の再利用について「リサイクル本」という用語が長年使われてい る。しかし、自治体・学校では「リユース」という用語が主流になっている。リサイクル(溶解製紙)されてい るのは除籍された新聞・雑誌だ。 「自動貸出機」の導入例も増えている。世にあふれる「自動販売機」に引っ張られている語法だ。しかし、こ の機械の操作法を見ると、スーパーマーケットの「セルフレジ」の方が市民の実感に近いだろう。「自動」よ りは「セルフ」を使うほうが望ましい。これらの図書館独自用語はコミュニティ内整合性や常識的生活感覚 を意識していない点が問題だ。もっと基本的な用語についても根本的な見直しが必要だ。

例えば、「貸出・返却」というペア用語では、貸出(貸し出す)の主語は図書館であり、返却(返す)の主語は利用者だ。主語と動詞のねじれが違和感の原因になっている。 「返却日」という用語は「読み終わっていてもこの日まで返せない」という誤解を招くので、正しくは「返却期限日」と改めるべきだ。 こうした用語の齟齬は、図書館が世間の常識の欠如、用語・概念の無理解、コミュニティ意識の不足、親組織からの孤立、教育界からの隔絶を印象づけている点で、大きな損失となっている。しかし、個々の図書館現場での改善努力には限界がある。上部団体として望ましい用語を提示し、図書館関連業界も含めた統一的運用の方向ヘリダーシップを取る必要がある。退任理由:1990 年に図書館利用教育委員会委員に就任。『ガイドライン』シリーズの刊行という初期のミッションを達成し、『ハンドブック』や映像教材『図書館の達人』シリーズの刊行が一段落したため、2005 年退任。以降は個人として講演・著述・監修を継続。(教育)
部会や委員会の目的や考え方などが、よくわからない。 それらの部会、委員会が、日図協全体の活動のどういう目的のためにあるのか、どういう位置づけにあるか、わかるようにしてほしい。(不明)
委員の選出基準を風通しの良い人選にするように改正する。(不明)

表 33 個人問 9

個人会員問 9 「今後、日本図書館協会をより良くするための知恵、具体的なアイデアを自由にお書きください」
公共図書館部会 - 参画のハードルと透明性: 部会や委員会の透明性を高め、参画のハードルを低くして新しい力を取り入れる努力が必要だという意見があります。また、役員が関東近郊の固定されたメンバーになりがちで、地方会員にとって疎外感があるとの指摘も見られます。 - 非正規職員への対応: 司書職の多くを占める非正規雇用者(会計年度任用職員等)が、会費負担や業務多忙により活動に参画しにくい現状を改善すべきだという声が非常に多く挙がっています。 - 組織のあり方: 全国公共図書館協議会(全公図)との役割分担や関連性が分かりにくいとの意見があります。また、国や自治体へのアドボカシー(政策提言)活動を、館種を超えて強化すべきだという提案もあります。 大学図書館部会 - 公共図書館偏重への不満: 協会全体が「実質的に公共図書館協会」になっていると感じる会員がおり、大学図書館の状況やノウハウをより活動に活用できる体制が求められています。 - 他団体との関係: 国立・私立大学図書館協会や NII(国立情報学研究所)といった他の関係団体との役割分担を再整理すべきだとの指摘があります。 - 個人会員の軽視: 部会活動が実質的に協力委員会の幹事会と同じになっており、個人会員の存在が忘れられているという不満や、予算・収支報告の透明性を求める意見があります。 短期大学・高等専門学校図書館部会 - 世代交代の必要性: 運営を退職世代(高齢者)が担っている現状があり、現役世代や若い世代への交代・参加が組織の維持発展に必須であると訴える声があります。 - 参加の困難さ: 一人職場が多いため、研修会などに出かける時間を確保するのが難しく、部会や委員会の統合・集約を検討すべきだという意見も出ています。 学校図書館部会 - 活動への評価と課題: 他の部会に比べて活動が活発であると評価される一方、活動が首都圏中心であるため、オンラインでの参画体制を整えて地方の声を届けるべきだという要望があります。 - 他団体との連携: 性格の似ている「学校図書館問題研究会」との行事共催を検討してほしいという提案があります。 - 開放性と閉鎖性: 一部のグループが幅を利かせているような閉鎖的な印象を抱く会員もおり、外部の多様な視点を意識した開放的な運営が求められています。 専門図書館部会 - 情報周知: 部会員への活動内容の周知はよく行われていると評価されています。 - 組織の効率化: 幹事の負担軽減のため、他の協議会や団体と横断的な委員会・部会にすることも一案だという意見があります。

図書館情報学教育部会	
- 活動の可視化：最近では活動があまり見えてこないという指摘や、部会報の共有が遅すぎるなど、平素のコミュニケーション不足を批判する声があります。 - 構成員の偏り：構成員が大学教員ばかりで多忙なため、活動レベルが低くなっている懸念や、役員交代が頻繁で継続的な取り組みが難しいという意見があります。	
所属なし・所属不明・その他	
- 活動内容の不明確さ：部会と委員会の違いや、具体的な活動内容、参加方法がよく分からないという意見が共通して見られます。 - オンライン活用の要望：地方在住者や多忙な職員のために、Zoom 等による会議公開やオンライン研修、アーカイブ配信の充実を求める声が非常に強いです。 - 会費・会員制度の工夫：非正規職員や退職者向けに安価な会費枠(Web 会員等)を設けることで、会員減少を食い止め、裾野を広げるべきだという具体的なアイデアが多数寄せられています。	
共通の意見	
館種や所属部会の枠を超えて多くの会員が共通して抱えている意見や懸念をまとめると、主に以下の 5 つのポイントに集約されます。	
1. 組織運営の透明性と参画のハードル	
- 固定化された人選への懸念：部会や委員会の役員・委員が長年固定化されており、「顔なじみ」や「関東近郊のメンバー」が中心になっているという指摘が多くあります。 - 公募制の導入：選出基準が不透明であるため、委員の公募を積極的に行い、誰がどのような活動をしているのかを可視化すべきだという意見が共通しています。 - 情報のアクセシビリティ：サイトのリニューアルで見づらくなった点や、アーカイブへのアクセスのしづらさを改善し、活動内容をもっと「見える化」してほしいという要望が強いです。	
2. 雇用形態や経済状況への配慮	
- 非正規職員の参画支援：図書館現場の多くを占める非正規雇用者(会計年度任用職員等)にとって、現在の会費負担は重く、活動への参画も難しい状況にあります。 - 安価な会員枠の提案：会員減少を食い止めるため、雑誌の送付を Web のみにするなどの「Web 会員」「ライト会員」枠を設け、会費を数千円程度に抑えるべきだという具体的なアイデアが多数寄せられています。	
3. デジタル活用による地方・多忙層への対応	
- オンライン環境の充実：地方在住者や一人職場、多忙な現役世代にとって、東京などでの対面活動は参加が困難です。Zoom による会議公開やオンライン研修、オンデマンド配信の充実を求める声は圧倒的です。 - 事務負担の軽減：委員のボランティアベースの活動に限界が来ているため、IT ツールの活用や事務局のサポート強化により、個人の負担を減らす仕組みが求められています。	
4. 世代交代と組織の新陳代謝	
- 若手の登用：組織の持続可能性のために、20～40 代の現役世代や若い力を積極的に運営に巻き込む必要があります。 - 退職者の役割：引退した世代は「アドバイザー」や「サポーター」として現役を支える立場に回り、意思決定の主体は現役世代に移すべきだという意見が複数の部会で見られます。	
5. 社会的プレゼンスとアドボカシーの強化	
- 政策提言(ロビー活動)：司書の地位向上や非正規雇用の問題、予算削減など、図書館が直面する課題に対して、国や自治体へ強く働きかける「アドボカシー機能」を期待する声が非常に多いです。 - 館種を超えた連携：公共、大学、学校といった枠組みを超えて、共通の課題(AI 対応、アーカイブ、施設管理など)について話し合える横断的なプロジェクトや交流の場を求めています。	

表 34 個人問 9 全回答

20代以下	顔の見える関係性の構築。今年初めて図書館大会に参加しました。お知り合いが増え、以前お会いしたかたに再会することもでき、モチベーションが上がりました。今回のアンケートも、Facebook でお知り合いの呼びかけが複数あったので、回答してみることにしました。
	人との繋がり、人との対話が、課題解決に繋がると感じています。SNS での呼びかけ、近隣地域での集会、オンラインを含めたイベント等、新しい取り組みで新しい人を呼び込むことも必要かと思います。(公共)
	図書館界内で差別を行わないように、公共図書館の司書こそが司書だ、というような旧態依然とした体質を変革することを期待します。(公共)

20代以下	日本図書館協会を良くしていくためには、「情報へのアクセス」と「人がつながる場づくり」の両方を大切にする必要があります。まず、最近サイトがリニューアルされて見やすくなった反面、過去の記事や資料へのリンクが見つけにくくなってしまいました。図書館員にとって、過去の事例を調べることは業務にも学びにも欠かせないことなので、アーカイブへのアクセスがスムーズになる仕組みがもっと整えば、日々の調査がずっと楽になるはずです。例えば「年代別・テーマ別の索引ページを作る」「リンク切れを一覧で確認できるページを設ける」「古い記事専用の検索窓を用意する」といった改善が考えられるでしょう。協会の蓄積してきた知識や歴史が、より探しやすく、使いやすい形で残されることは、現場の司書にとってとても心強いはずです。 もう一つ、協会を活性化させるためのポイントとして図書館界の外にも目を向けた「発信と学びの場づくり」が挙げられます。他雑誌との継続的な連携は難しい面があるかもしれませんが、図書館学の研究者や、メディア出演の多い教授を招いたセミナーを開催することは十分可能だと思います。また、近年は個人で積極的に発信している図書館員も増えています。たとえば格闘系司書のように独自のスタイルを持つ人たちが注目されることで、若い世代の図書館員や学生が「図書館って面白いかも」と感じるきっかけにもなります。こうした個人をメインに据えた講演会やオンラインイベントを協会が主催すれば、図書館界の魅力をより広く届けることができ参加のハードルもぐっと低くなります。 さらに、年齢層や経験値の違う図書館員どうしが自然に混ざり合い、学び合えるような交流の場もあると良さそうです。ベテラン司書の経験談や、若手のチャレンジ事例を対等に共有できるような企画が増えれば、図書館員一人ひとりのモチベーションにもつながるでしょう。オンラインと対面をうまく組み合わせれば、地域差を気にせず全国の人が参加できるのも大きな利点です。 これからの協会は情報を届けるだけでなく「集まる・学ぶ・ひらめく場」を提供する存在へと進化していくことが求められているのかもしれませんが。サイトの使いやすさの改善や、多様な講師によるセミナーの開催、活躍する図書館員を前面に出したイベントづくりが積み重なれば、協会はもっと魅力的で、頼れる存在になっていくはずです。(学校)
20代以下	日本博物館協会や日本公民館学会、日本教育学会や日本社会教育学会など、図書館と同じ社会教育の学協会と、今後もさらに連携すると良いと思います。他の学協会と関わることにより、資料保存や教育活動に関する知識を得たり、研究することができると思います。(なし)
30代	賛助会員など、図書館職員や図書館に関わる方でなくても、会員になれる制度があるのであれば、それをもっとPRしたほうが良いのではないのでしょうか。(公共)
30代	もっとオリジナルグッズを売ってほしいです。図書館総合展で売っていますが、人気のものはすぐ売り切れてしまいます。そういうグッズがきっかけで、日本図書館協会を知る人もいると思います。(公共)
30代	全国の様々な図書館の司書が加入しているのだから、公共、学校、大学、専門図書館の垣根を越えて取り組めることはないだろうか。 公共図書館では一般的でも、大学図書館や専門図書館には目新しく感じることに、逆に大学図書館では一般的なノウハウが、公共図書館に役立つことはないのだろうか。 例えば、斜里町立図書館のような、図書館として一風変わった取り組みは、館種を超えて応用できないだろうか。(大学)
30代	提案というより質問ですが、会費が用紙による銀行振込になっているのですが、ネット銀行からの振込でもよいのでしょうか。他の振込方法を採用するのは難しいかもしれませんが、会費の振込が楽になると良いなと思います。(大学)

30代	研修や講座を増やしてほしい。特にヤングアダルト関係と情報スキル。(学校)
30代	日本図書館協会って何をしているところなの？ということがわかりにくい気がする。自分もうまく説明できない。もう少しシンプルなメッセージがあってもいいように思う。(専門)
30代	外部連携(業界の垣根を超えて)、各メディアを通した宣伝広告など(なし)
30代	認定司書のつながりがないので、ひとつの部会として立ち上げ勉強会を行なう。(なし)
40代	図書館見学ツアーは、館種を問わず人気があるので、企画すると、入会希望が増えるかも。また、国立国会図書館が提供している、インターネットを使って自習方式で学ぶ研修は、日時を選ばずに参加できるので、日本図書館協会もこのようなタイプの研修を計画すると、希望が増えるかも。(公共)
40代	中堅ステップアップ研修受講後に、科目ごとにもっと深く勉強や情報共有ができる研修が年に一回程度定期的にあるとよいと思う。受講してみて、日々の仕事に活かされたので、ステップアップ研修を受けっぱなしにせず、例えば、地域の課題について話し合う、レファレンス研修など、科目によって極めていきたいものなど全国の会員と共有して研修する場があったらよい。既に行われていたら知りたい。(公共)
40代	協会活動に参加することの意義について中々見いだせない部分があるのではないかな。若い世代に協会に加入してもらい、積極的に活動をしてもらえるような施策を望む。(公共)
40代	狭義の司書(公共図書館)のための組織であることを強めていただきたいです。 公益法人化の流れで、図書館を取り巻く広く一般に門戸を広げている様子がありますが、公共図書館員にとって会員であることの優位性がないと、会員は減少していくのみだと思います。(公共)
40代	活動資金を獲得する方法を増やす。企業からの寄付やクラウドファンディングなど。(公共)
40代	協会に関与してわかったのは、経費節減を謳うあまりに投資がなかなか行われなかったこと、また情報システムに関する貧弱さは気になるところでした。この前のバージョンの Web サイトの CMS の使いにくさは本当に苦労しましたし(現在は改善されていると期待しています)、情報セキュリティポリシーやインシデントが起きた場合の体制がなさそうであることなど、公益法人化後においても気になる点はかなりありました。 一方委員会活動でクラウドストレージの整備や遠隔の委員と個人情報を担保しながら情報をやり取りする特殊な USB メモリの導入、審査のためのログマニュアルなどを整備してきました。必ずしも十分ではなかったと思いますが、協会内では少し新しい取り組みだった様ですが、こういった好事例が横に展開するなどの状況にはならなかったと思います。 また、他の委員会・部会は直接的に存じ上げないのですが、あまり人の入れ替わりがない様な話も伺いました。また、USB メモリ経由でウイルス感染が流行っていた時期に、USB メモリでデータのやり取りを行なっているという話も聞いていましたので、事故が不安とは感じていました。 長々書いてしまいましたが、委員が変わっても業務が引き継がれるようなマニュアルや、電子ファイルを安全に引き継ぎ共有するためのストレージの整備などは活動活性化には必要だと思いますので、情報システムへの投資が必要かと思います(私も離れてかなり長くなりましたので、既に整備が行われているかもしれません)。(公共)

40代	何かを変えたい、今より良くしたい、力を入れたいのであれば「少ない予算でなんとか運営するという時代ではないのではないのでしょうか。予算を確保して(そのための部会・委員会があるくらいでよいのでは？(協会予算調達運用委員会、的な)、しっかりとした事業規模と事務局人員体制を確保して運営することが、一つ一つの活動の勢いにつながっていくと考えます。(公共)
40代	ロビー活動を多めに実施したい。存在感を示すには議員、地方議員へのレク、首長部局へのレクチャーが必須と思います。(公共)
40代	すべてを関東の方だけで決めるのは避けてほしいです。 地方の施設も参加できるメリットを(公共)
40代	学会でも会員数が減っているものもあり、学生の呼び込みをしながら会員増に向けて苦慮しています。研修が勤務がある平日開催が多いため、休みの日に開催していただきたいです。(大学)
40代	個人会員には紙ではなく PDF で、図書館雑誌を送る選択肢をつくる。違法コピーなどの懸念は構成員が図書館に関わる人たちなので問題は少ないかと思われる。 団体は資料として製本し、永く保存するが個人では紙質など良すぎる。(大学)
40代	会員間のコミュニケーションを増やす試みや、他団体との役割分担の明確化、日図協だからこそ取り組むべきことなど、組織としての骨組みをしっかりと(明らかにしつつ)、活性化に取り組んで欲しいです。(大学)
40代	「図書館雑誌」に全委員会の委員名簿が掲載されているのを目にしたが、委員会の数が多すぎるように感じた。委員会の数、すなわち事業自体を見直して、協会全体をスリム化し、経費の削減を図ることはできないだろうか。(大学)
40代	あまりにも現場の学校司書は資格要件や研修に偏りがあり、それぞれ頑張っているがキャリアアップも果たせず、パートタイマーとしての立場を受け止めながら働いている。そのため、協会員になる気も研究意識も働かなくなる。非正規司書にスポットをあてた会にしない限り、会員増は見込めないと思う。(学校)
40代	・すべての活動の敷居が高く感じてしまいます。オンラインのみのイベント、気軽に交流する機会などが欲しいです。 ・部会・委員会に参加する方法がよくわからないので、ホームページに「簡単にわかる！協会での活動の仕方」みたいなページを作成していただくのはいかがでしょうか？(学校)
40代	協会の活動が対外的に知られていないように感じます。昔は「図書館員なら協会に入ろう」という呼びかけがもっと積極的に行われていました。私も「何の活動をしているか分からないけれど、誘われたのでとりあえず入ろう」と入会した一人です。 しかし、最近は任意団体への加入について積極的な勧誘をしにくい雰囲気です。せめて、協会の活動が分かりやすく効果的に紹介できるページや動画などがあれば、それを見て加入を検討するようお願いすることができると思います。協会活動を紹介するためのパンフレットデータ、Web ページ、動画の作成等をご検討いただければと思います。(学校)
40代	研修をスターディサプリのような形でマイクロトレーニング化すると良いのでは。忙しかったり、非常勤化で、集合研修や長時間の動画視聴は難しいので、細切れの時間で学べると助かる人が多いのではないかと(専門)
40代	年会費の値下げ。(専門)
40代	クレジットカードで会費を払えるようにすること(教育)

代	
40代	①各地区で行われている、日本図書館協会ではない独自の研修(市や県による研修会、図書館コミュニティの勉強会)などで、5分程度、日本図書館協会の事を告知させてもらえると、知名度が上がって良いかもしれません。 その場合、誰が告知をするのかなど、色々と課題はありますが。 研修で若い司書の方とお会いすると、日本図書館協会の事を知らなかったり、身近に感じてないので、まずは若い司書向けに存在のアピールが良いかもしれません。 ②マンガ『税金で買った本』とコラボして、読書週間や日本図書館協会そのものをアピールするポスターを作ったり、SNS で使わせて貰うのはどうでしょうか。(なし)
40代	図書館界の指針であり、大切な存在であるが、遠い存在なので、広くわかりやすく広報していただくとありがたいと思います。(不明)
50代	国内外に対する図書館業界の顔として、すべての館種が連携する場として、各種提言や規格規則を策定する専門団体として、なくてはならない存在です。 これからの社会において、必要不可欠な社会装置であるという認知を広めること、新しい図書館のあり方を具現化する実践を伴う場として、確固たる存在であってほしいと思います。 そのためにも、部会や委員会の透明性を高め、参画のハードルを低くして、新しい力を取り入れる努力が必要だと思います。 日図協のミッションビジョンを考えてはどうでしょうか？(公共)
50代	小さい田舎の図書館へのサポート。施設会員の年会費をもらいつつもどういう還元ができているのか、わかりません。それだと個人会員になりたいという方も増えないと思います。(公共)
50代	非正規であっても事業に参画しやすいやり方があればよいと思うのですが、かなりの熱意がないと難しいと感じてしまいます。日々の仕事内容とかでも気軽に相談できる場があればよいかもしれません(自治体で図書館事業はかなり違うと感じてます)。(公共)
50代	知恵・元気・お金(寄付や会費)は外からやってくるものです。図書館界の外から、利用者じゃない人から、図書館界は素敵だと思われることをやる、それ獅かないと思うのです。 1)広報局をつくる。アンバサダーを図書館界内外に何人も任命する。 2)会館を愉快なものに魔改造して一般のひとが入れるようなものにする。(公共)
50代	図書館横断的な、意見交換の場を積極的に作ってほしい。 特に、図書館司書対象だけの場ではなく、図書館を維持管理している総務部門の意見交換の場の設定を望みます。(公共)
50代	ZOOM など空間を超えた交流や会議を頻繁に行うのが良い。研修については、無料でリモート受講ができるのは研修参加のハードルが低くなると思う。これまで自分も自治体職員向けの研修やgacco など受講した経験がある。なかなか勤務する図書館等の勤務で手一杯な職員でも、時間外のリモート研修であれば受講しやすい。 デジタル技術の発達によって図書館は岐路に立たされているが、図書館がただの貸本屋ではなく、情報リテラシー教育機関として機能することによる社会的価値の確認やヴィジョンについて、日々業務に追われ、出かけて研修を受けることができない図書館職員と共有できたらよい。ただ目の前の業務こなすワーカーとしての図書館職員ではなく、目の前の子供や大人、様々な人とのやり取りが、図書館という社会インフラで地域や町、国を支える仕事であることを自覚できるようにしたい。(公共)
50	会員同士の交流の機会が増えると日本図書館協会をより良くする良きアイデアや知恵がより出るの

代	ではないかと思います。(公共)
50代	職場でも、ベテランからの知の継承がとだえていることが課題。先輩方の知識の共有が次の世代を育てていくのではないのでしょうか。世代交代と言うより、交流？(公共)
50代	心理的、物理的距離感を小さくする工夫が欲しい。社会的課題に対しての討論ができる土壌と、それをまとめて発信できることが必要かと。(公共)
50代	裾野を広げる(非正規職員は会費を安く)(公共)
50代	若い世代の参加は、やはりそれなりの SNS や DX を活用する方向を検討した方が良いと考えます。部会や委員会参加していなくても、または非会員でも、若い世代の人の意見を聞ける場(参加費無料や、年齢または収入別に安くするとか?)を作っていくとか…(公共)
50代	図書館雑誌は必要かどうか、また冊子か WEB が選べると良い。(公共)
50代	性急に無理に良くしようというのは、長い目で見てかえって悪くなることが往々にしてあるということを承知した上で行動に移して欲しい(公共)
50代	相談窓口を設けてほしい(例 休館や廃館の案が出た時) 活動内容を発信する(例 Teams などグループを作って取り組んでいることを会員に公開する) 図書館雑誌をデータで読めるライト会員枠を作る(公共)
50代	市町立図書館職員向けの初任者研修を企画・運営しており、毎年、日本図書館協会について紹介し、会員になるとこんな特典がある等、PRに努めている。 もっと、日本図書館協会の存在をPRできる場があればと思う。 また、ほとんどの市町の職員は会計年度任用職員や、指定管理、業務委託などが多い。そのような人たちにこそ、協会に参加する意義を伝える方法はないかと思う。(公共)
50代	・秋ごろ文化祭的な位置づけで委員会紹介会を行う。どんなことをやってるか発表する。その後茶話会的に名刺交換の時間を1時間ぐらい設ける。 →お互いの顔が見えて緩くつながる 委員でない人も理解のために参加可能 ・春に文科省の方に今年の社会教育の動向について講演していただく ・図書館雑誌に掲載する 図書館の取り組みについて本の紹介のようにフォーマットというかアウトラインがあってもいいかもしれません。 ・認定司書の論文に向けた論文講座とかあるといいのではないのでしょうか？論文を書く司書を養成する。(公共)
50代	司書になってだいぶ経ってから、自己研鑽の必要を感じて会員になりました。なので、問8にあるように「図書館員なら会員になるのが当然」という考えを持つようになったのも司書として働き始めてだいぶ経ってからです。 司書講習を受けている時に、協会のことを聞かなかったのかどうか(聞いたけれど忘れたのかもしれませんが)今となっては分かりませんが、情報があれば、もう少し早く会員になっていたかもしれません。(公共)
50代	地方の図書館に長年勤務しています。 研修や全国大会など日本図書館協会の活動から得たものはありますが、一方で相応の負担もありました。 近年、本県は会員減少が進んでいますが、引き留めや新規勧誘はしていません。

	日本図書館協会をより良くするための知恵、具体的なアイデアは中々出てきません。 わがところの図書館活動を何とか維持していくことで精いっぱいです。 その実状に寄り添うところから、日本図書館協会の良さが発揮されると思います。(公共)
50代	JLA の存在や、JLA の活動が社会において何かの役に立っているとは思えません。何年も前から、JLA の存在意義はなくなっていると感じます。「日本図書館協会をより良くするための知恵、具体的なアイデア」というアンケートの回答を求めること自体がその現実を如実に示しています。(公共)
50代	・今回のアンケート回答方法に関して。Web 回答のみ可とするのなら、なぜ「雑誌」に紙の案内を同封したのかむしろ疑問に思います。Web 回答が不可能な人に Web 以外の方法でアンケートの存在を知らせるのは、実施する側にとってのみ「知らせました」という責任逃れ？にしかならないと感じます。知らせる以上は、Web 回答ができない人にも、なんらかの形で回答ができるように方法を示さなければいけないのではないのでしょうか。集計業務が大変なのはわかりますが、その理由だけで Web 弱者にあたる人々を切り捨てるのは、図書館の本質を考えると、JLA らしくないと感じました。(公共)
50代	雑誌「図書館雑誌」の内容を見直し、論文や実務上の提案などを掲載してほしい。 図書館雑誌の内容で、評議会などの議事録を占めている月が多い気がするが、議事録等はホームページ掲載で十分と思う。はっきり言って紙を使って掲載する必要がない。 場合によっては刊行頻度を 2 か月または 3 か月に 1 回と縮小し、その代わり実務に役立つ内容を掲載してほしい。(公共)
50代	図書館サービスに関わる新しい情報や先進的取組などをいち早く会員が知り、サービスに活かせるような、双方向の情報発信のしくみがあると良いと思う。(公共)
50代	『図書館雑誌』が、表紙のデザインから中身のレイアウト、フォントまで、何十年間も変化がなく、若い図書館員にはかなりとつきにくいと思います(50代の私ですらそう思うので…)。もっと現代風にリニューアルしてほしい。若い方の意見(感覚)を入れて、参考にしてみてもはどうでしょう。(公共)
50代	業界団体として、日本社会に様々な面でアピールし、その存在を広める。 それによって、加入者の増加につなげられないか。 皇族を(名誉)会長等の職に推戴する。 企業に対して積極的に寄附を募る。(公共)
50代	負担金予算を維持できない自治体が増えているようなので、負担を減らし、支援は手厚く、施設会員を維持・増加させる(公共)
50代	協会の役員や委員会委員長が締切を守ることなど、人として信頼される行動をすることがまず必要ではないでしょうか。 部会や委員会ほどこしこまらない、関心のあるテーマの下に会員が集まって活動する「部活動」「サークル活動」的なものがあるといいと思います。(公共)
50代	民間である指定管理者図書館に真似ができない、自治体直営図書館らしい事業やサービスを新たに提案してほしい。 今のままでは、全国、同じ事業を行う公共図書館だらけになってしまうと危惧しています。(公共)
50代	会員の組織力を上げる取り組みを会員一人ひとりが行うこと。会員になることで得られるメリットがもっとあるとよい。(公共)
50代	都道府県内の会員同士をつなぐものが必要だと強く思う。 仲間は職場以外にも必要である。(公共)
50代	若い職員同士のオンライン懇談会などの開催 図書館見学ツアー(バーチャルでもよい)など若い人

代	に魅力のある企画を。(公共)
50代	地域図書館団体との連携強化を図り、組織を強くする方法を再考してはどうか。(公共)
50代	実質的に公共図書館協会になっている姿勢そのものを変えてほしい。人数から言えば公共図書館が圧倒的であるのは理解できるが、館種はほかにもあるのです。(大学)
50代	日図協のオリジナルグッズを作ってはどうか？ まず会員が楽しくなる仕掛け、会員同士が日図協について話すきっかけづくりをしたらいいのではないかと思う。(大学)
50代	JLA の伝統は日本の図書館史そのものと感じられ、とても重要なものと捉えていますが、存続と事業の拡大を望まれるならば、時代の流れに沿って、各部会や委員会における自由な発言や提案を受け入れる体制が必要だと思います。よいアイデアがあってもそれらを活かす土台がなければ何も変わらないと感じております。(大学)
50代	委員会活動や、部会の活動をメールマガジン等でもっと情報発信してほしいです。(短大・高専)
50代	正会員の会費が高く感じています。図書館雑誌代を含むとしても、例えば電子送信の会員は少し安くするなど工夫できないでしょうか。(学校)
50代	他の図書館団体とのコラボ企画 図書館総合展参加のアイデア募集 全国の魅力的な公共図書館をめぐる旅ツアー(学校)
50代	会員でない図書館員のニーズを調査する。スキルアップのニーズが高ければ研修機会を増やして会員と参加費に差をつけて入会を促す。 国への働きかけを求める声が強ければ、会員としてそうした活動ができるよう支援体制を整える。 現在の会員は退職を機に退会していき衰退すると思われるので、退職後に経験を生かしたアドバイザー的な立場で活動できる機会を用意したうえで呼び掛ける。 マスコミを通して社会へのアピールを強める。全国図書館大会が研修会にとどまらないよう改革をする。(学校)
50代	会員を増やすこと。特に図書館員ではない図書館に関心のある人に対しての図書館友の会のようなものがあっても良い。 地域によっては、市民の会などがあるが、全国的な組織はないので。 図書館雑誌は専門的な内容なので、もうすこし一般向けの図書館ファンに向けたミニコミ誌があると良いのでは。あとは会員限定グッズなど。 収入を増やさなければ、活動は先細りと思います。図書館は増えているので、年会費 3000 円ぐらいの一般会員が増えると良いのではと思います。(学校)
50代	「やさしい日本語」対応の『図書館雑誌』や公式サイトがあると嬉しいです。子どもや外国につながる人、障害のある人など、図書館ユーザーで図書館にもっと関わりたい人に対しての、やわらかい(アカデミックでない)情報発信が必要とされている気がします。音声読み上げなど読書バリアフリー対応の情報媒体も欲しいです(既にされているようでしたら不勉強で申し訳ありません)。あと老眼にもやさしいユニバーサルデザインをぜひ。(学校)
50代	①協会全体や各部会の、コミュニティ機能の活性化。そのためには、少なくとも、所属(勤務先等)と氏名を掲載した会員名簿を会員向けに発行・配布すること。誰が会員かわからないようでは、交流した

	くとも話にならない。総務省は会員名簿の作成は問題ないとの見解を公表しており、その解説資料を参考に、会員からそのための同意をとること(会費納付の際にチェック欄を設けるなどすれば可能)。 ②現場を知る業務執行理事を増やすこと。また、業務執行理事は現場や各部会からの意見を十分尊重して判断し行動すること。部会からの意見要望を退けて自説に固執するような振る舞いはしないこと。業務執行理事の現場への不理解・軽視が、会員減少の一因となっている。また、理事選挙において、理事長推薦候補の数を減じ、代議員推薦の理事を増やすこと。特に、関東地区からも現場を知る理事を選べるようにすること。 ③代議員総会を活性化すること。開催回数を増やすこと。理事選挙の投票を除き、通常は原則として「書面による決議」は用いないこと(事前に過半数が書面で賛成票を投じてしまえば、審議の意味はなくなり、会議は完全に形骸化する)。 ④委員長や部会長の任期は現在 3 期までと制限されているが、当面これは廃止した方がよい。新しい職員が継続的に多数採用される正常な状況であれば、任期制限は適切と思うが、現在は新規採用がほとんどない異常事態であり、一律の任期制限は無理がある。 ⑤図書館員の非正規雇用化や民間委託化が、会員の減少や活動の担い手不足・世代交代停滞を招いている。各館種ごとに、この問題を解決するための法的制度的な研究と運動を行ってほしい。(学校)
50代	会員が自由に意見を述べられるようにするためのしくみづくりが必要かと思う。(専門)
50代	情報を得られれば良いかと思います。メールや冊子は読ませてもらってます。 会費安くしてもらえたら継続できますが、今の会費だと高く継続が難しいかと思います。(専門)
50代	現役の図書館員や図書館員を目指す人の課題や困りごとの解決のヒントがもらえる会であることが若い方に加盟していただくために大事な要件と思います。例えば図書館員が原因されて職場内で横のつながりが持てなくなっている現状を、委員会活動への参加にうまくつなげるとか、大学の図書館学の先生と一緒に図書館就職応援企画を実施してゼミの学生さんを将来の会員に取り込むなど。(専門)
50代	現場司書の研究や執筆をもっと後押しするのがいいのではないかな。全国図書館大会の在り方は部会の整理も含めて再検討してはいかがかな。(教育)
50代	20～40 代といった現場の最前線を支える層(特に指定管理者・業務委託業者・会計年度任用職員)の入会を促すべき。この層は会費を千円にするとかとハードルを下げることで、それから若手世代が入会することでメリットある事業を提供していかないといけないと考えている。そうしないと、JLA は現場から乖離し形骸化した組織になると思う。絶対的に多い層からの支持を得る組織になって欲しい。(教育)
50代	雇用形態を問わず図書館員の加入率を高めるための方策が必要になるのではないかな。(教育)
50代	閉鎖的にならないことが最良だと思います。(なし)
50代	もう少し、オープンに分かり易く、図書館職員でなくても、図書館に興味のある人も巻き込めるような企画、雑誌等を目指していくのが良いと思います。(なし)
50代	図書館界が町の本屋の衰退と昨今同じように、議論される風潮がある。同様に約 1700 市町村の図書館が 25 年前と比べて、図書購入費が 25%削減されている現実がある。しかしながら、私は新刊本や日本図書館協会会員数が減ったのは、協会活動の質がさがったとはおもわない。より良くするための方策は、本当は図書館で働く人の待遇改善であるが、図書館の DX 化が進む中で、図書館員

	が AI 化にどうあらがうかにかかっている。 よって、半世紀以上前に日本図書館協会ができ、新設図書館がたくさんできた時代に図書館員同士の交流が盛んであったように、人的交流を深められないか。 公民館などの社会教育活動と一緒にできないかなどと提案する。つまり、図書館員でない人にも会員制度を広げてみてはどうか。(なし)
50代	図書館業務に関わる民間会社との連携(なし)
50代	部会や委員会などの構成員が実際に図書館で働いている人たちの当事者の属性からまんべんなく構成されるとよいと思います。会計年度任用職員や指定管理者として働く人、委託や PFI 事業者など。また市民や利用者の立場の人も入るとよいと思います。そのような方が負担を負ってでもやっても良いと思っていただけるかは分かりませんが。(不明)
50代	今回のような試みが、様々な事業で実施されることで風通しがよくなると思います。 まずはそれからでは。 また全国図書館大会愛媛大会、とても有意義でした。 開催して終わりではなく、開催地の図書館の後押しとなるような活動が個別に実施されるとさらによくなると思います。(不明)
50代	個人 WEB 会員を設けてはどうか。年会費は抑え、研修の優待があり会員はアクセスすれば情報が見られるようにすれば良いのでは。 非正規補助業務のため研修等参加して良いのか、また、所属を記入して良いのか悩むことがある。他の非正規も同じように感じていた。もし会が非正規も委託スタッフも遠慮なく参加してほしいと考えるなら、その旨広報したら会員が増えるのではないか。(不明)
50代	実務に寄り添ってくれるのか、それとも実務と学識や他の業界との橋渡しをしてくれるのか、そのあたりがあいまいに感じます。(不明)
50代	わかりやすい、噛み砕いた情報発信が必要かと思います。(公共・教育)
60代	図書館員を職業とするなら会員であるのが当然と考えている人が減り過ぎであると思います。協会の活動に積極的に参加できなくても、図書館雑誌に目を通し、全国の状況を押さえておくことが、自分の職業的底力となってきたと思っていますので、大学教育等の場で、会員となるメリットを繰り返し伝えていただきたいと思っています。(職場では、先輩風を吹かせにくくなっているため、後輩に強く勧められない事情があります。)(公共)
60代	代議員制度は存続しつつ、別にフリーに発言できる場の設定、企画プラン、アイデアなどをストックできるようにする。地方の図書館巡りなどのツアー企画、その図書館での実践報告を聞く現地の会を開催する(双方に負担の少ない方法で)、Zoom の活用や1回だけで終わらずに、何回か参加できる機会を増やしたり、図書館イベントへの応援や参加しやすい環境を整えたり、それらを発信する現場の図書館の発言を促したりするのはどうか。(公共)
60代	財源の確保をどうしていくか。クラウドファンディングや寄付について、他の法人に倣ってはどうか。(公共)
60代	『図書館雑誌』の文字を大きくする。同雑誌の年間の発行回数を減らして、費用の削減する。ただし、編集委員の皆さまが、いつもご苦勞・苦心なさっていることを否定するものではありません。(公共)
60代	正職員に閉じてしまっているので、もっと地域住民と連携した取り組みを強化し、司書の地位向上の

代	具体的な成果を獲得していかないと会員は増えないと思います。(公共)
60代	雑誌の刊行頻度を減らす。Web で自由に意見を交換できる場を設ける。みなさんこんなときどうして ますか？みたいな気軽な情報交換ができると面白い。(公共)
60代	理事会の構成メンバーに半数以上は図書館現場、自治体職員経験を実際に持っている方に就任い ただくよう会則、規則等を変更し、図書館を使う側の市民、住民の意見も反映できる運営方法に変更 するべきだと考えます。現在の個人会員減少の理由は、現在の組織のあり方、意思決定の方法に納 得できない図書館関係者が増えていることが最大の原因だと考えています。(公共)
60代	以前は協会の催しでお会いした一部の方々からは、古い価値観の方々もおられ、価値観の押し付け やハラスメントめいた言動を感じることがありました。 今は雰囲気がかわっているかもしれませんが、自由を尊重すべき図書館業界の専門団体として、人 権や多様な考え方に配慮した団体であって欲しいと思います。(公共)
60代	指定管理者制度や会計年度任用職員制度等、従来の公共図書館にとっては相いれない制度が導入 されました。これらの制度であっても、図書館サービスが提供されているのも事実です。これらの既成 事実を踏まえた対応も、JLA にとっては必要かと思っています。(公共)
60代	このアンケートに回答できる人は深く協会の活動に関わっている人だと思う。今の課題とか、目指す 姿を示されずに、何を回答すればいいのかわからない。そういう内向き体質が良くないのではないで しょうか。(公共)
60代	図書館で働く者として、協会の会員であることは当然と思っていますが、昨今の雇用形態や社会の風 潮を思うと、会費を払ってどんなメリットがあるのかと思う人がいてもおかしくはないと思います。協 会は司書の地位向上を目指すためにも、図書館内だけではなく、広く社会に司書の存在と必要性を アピールしてほしいと思っています。 コロナ対応時の協会の入館を記録するという方針は、図書館の実情にも公共図書館の存在意義につ いてもそぐわないものでした。様々な事情があるとは思いますが、こうしたときに毅然とした対応がで きることが市民にも職員にも信頼される協会であろうと思います。大きな問題は少人数で決定するの ではなく、少なくとも各部会、各委員会の長には諮るというような仕組みが必要だと思います。(公 共)
60代	委員会の活性化のため、委員会の事業報告の場を設ける。(公共)
60代	zoom やチャットなどの活用 若い人の参加しやすい組織づくり(公共)
60代	日本図書館協会を知ってもらおうということがまず大事だと思う。かつては、協会が出している本は多 種多様なものがあり、協会の説明をするときにはわかりやすい印象があった。しかし最近は『日本の 図書館』『図書館年鑑』『図書館雑誌』が定番で、司書課程向けのテキスト、安価で読みやすいブック レット程度である。図書館をテーマにした本は他の出版社の方が目立っている。 出版は、協会が知識を発信している活動の一つだと思っていた。この印象が薄くなり、日本図書館協 会が活動している姿が見えにくく、わかりにくい。 研修については児童サービス、障害者サービス、図書館の自由、資料保存等業務に特化したものも あり、ステップアップ研修のような体系的な研修もあり、他の団体にはできない事業だと思う。できれ ば新しい話題や現場の困りごと、例えば AI、アーカイブ、施設(建設、改修、整備計画)、海外事情等 のようなテーマの研修が不定期でもいいと思う。(公共)

60代	財務状況が厳しいことから、機関紙の発行を毎月から隔月にする。 地域別の組織が必要ではないか？(公共)
60代	国(各省庁)や関連する国会議員へのロビー活動を積極的に行うべきである。(公共)
60代	何度か相談や情報提供をお願いして大変ありがたかったです。ただ相談できるということが知られていないと思うので、PRしたらどうでしょう。うちのお宝紹介等も記事の公募をしてみても。(公共)
60代	認定司書に公共以外の図書館員もなれるようにする。特に、学校図書館と公共図書館がお互いに理解する必要があると考えています。そのためにも、図書館員として向上する機会は平等にある方がよいと思います。(公共)
60代	理事の選出方法などについて 理事長推薦の理事に偏りすぎているように感じている。市民が日本図書館協会を支えたいと思えるような運営方法、例えば市民が入会したいと思えるような会費設定など(公共)
60代	透明性を高めること。そのためにも会員が求める透明性とは何か、求められる活動を会員が希望すれば平等に話す機会をもち、賛同を得られれば事業に反映できるとよい。(公共)
60代	職能団体がありながら入会しない人が多いのだから、専門性をもった図書館員が少なくなっていくのはある意味、当たり前のことだと思います。司書の養成段階で専門性についてどのように教育しているのかよく知らないのですが、まずはそこから改善し、図書館職員として就職したら日本図書館協会に入会することが当たり前、というようにしていくことが遠回りかもしれませんが、現状を改善する方法だと思います。もちろん入会した人たちが失望するような活動をしてはいけけないので私たちに求められることも増えるのですが。(大学)
60代	いろいろな種類の図書館が集まっているので館種を越えたつながりができると良いと思います。異なる館種で連携している館の事例を紹介する。また図書館として共通の問題と解決方法を探すなど。図書館雑誌に連載小説やエッセイを載せてはどうでしょうか。(大学)
60代	推される存在になれると良いですね。私自身は頭が固くて、ビックリするようなアイデアが出てきません。司書課程受講の学生さんをはじめ、若い方々のアイデアを採用してはいかがでしょうか。(短大・高専)
60代	退職者にとって9000円はもちろん5000円も高い、というのが本音です。再就職しない限り会費を続けるのは難しいと思っています。退職賛助会員という制度(図書館雑誌は我慢して、web ニュースなどコストのかからない情報のみ受け取って3000円とか?)があれば、会費で多少の貢献はできるかなと思いますが、かえってコストがかかりますか？(学校)
60代	リモートでの研修、講演会などの参加、記録動画の配信を行って欲しい。(学校)
	各県単位で、JLA 会員の集まりを毎年設ける。(学校)
	随時入会可能なシステム！(学校)
	考えたことがなかった。(学校)
60代	図書館で働く人が多様化し、正規職員になりたくてもなれない人もいれば短時間勤務の非常勤職員がいいと思っている人もいる。現在の職場で非常勤職員の司書と働いているが、研修は必須のものは出るが任意のものは出ないと明確である。 協会に参加している人は 向学心のある人だと思っているので、いろいろ研修の場や情報を提供できたらよいと思う。(学校)
60代	A 氏のような、先進的な考えの理事を増やすべきだと思います。(学校)

代	
60代	JLA は現職者の職能団体として研修活動は活発であると思いますが、海外の図書館協会の活動に比べて、海外派遣や研究などへの助成が手薄に感じます。事務局ももっと前面に出ていただいても良いのではないのでしょうか。(専門)
60代	現在、巷では AI が話題になることが多い状況ですが、今年の図書館展を見ても、あまり、そのテーマを扱っている団体がなく、少々いぶかしく思っております。たとえば、正しいことを言ってくれる AI を育てるには、正しい情報がどこにあるのか知っている図書館関係の人たちが活躍する場はたくさんありそうだ、と思っております。世界全体に分断や不寛容の空気が流れる中、戦後の民主的雰囲気、健康的な空気の中で日本人が書いてきた良い本をたくさん所蔵している図書館は積極的にこうした素晴らしい著作を AI に読ませて、若い人々が使うチャットボットを賢く、健康的に育てていかないといけないと考えます。ぜひ、AI づくりに図書館が関与できる仕組みを作ってほしいです。日本の歴史研究は、世界の中でもバイアスが少なく、しかも色々な地域、時代を網羅しているといえます。こうした日本のニュートラルな面を生かす意味でも、50 年以上前の本など使って、良い AI エージェント・ボットを作りたいです。Microsoft などのウェビナーなどに参加すると、いかにして正しい AI に調整していくか、ということを一生涯懸命やっています。日本語の良い AI が育たないと、嘘をつく AI として、相手にされなくなり、日本語を使う人が少なくなっていく危険性さえあると思っています。本当のことを知りたいなら、英語のボットしか使えない、という事態は避けなければいけません。エージェント・ボットは作って終わりではなく、長い時間をかけて調整していくもののようです。これを自然科学、人文地理、歴史研究などなど多分野で作らなくてはなりません。(専門)
60代	私は現在、精神障がい者就労支援施設内で作業しているが、このような地味な現場にも目を向けてもらいたい。(専門)
60代	大学の司書課程で兼任講師として司書育成に携わっています。 日本の図書館をめぐる環境は雇用形態の不安などもありますが、日本を代表する職能団体として、もっと未来への夢を語ってほしいです。 認定司書が 100 人を超えたと聞きますが、正直、認定司書が本当にプロとしての認定なのか疑問に思うことが多いです。 専門家集団として職業的自律を認識して、社会への発信や、図書館のバリュースタディを英語論文として発信するなどの役割があるのではないのでしょうか。 せっかくの人材を事務局が中心になって取りまとめて、戦略的に活用しても良いと思います。 そのために、海外派遣や研究助成などエビデンスを高めるための助成を積極的に行ってよいと思いますが、人材育成のためのそれだけの予算すらないのでしょうか。 事務局も人数が少ない中頑張っていらっしゃると思いますが、海外の協議会のようにもっと前面に出て発信してはいかがでしょうか。(専門)
60代	部会は、館種によって分かれています。図書館利用者の部会はいかがでしょう。 活動のすそ野を広げるとともに、上手い言葉が浮かびませんが、図書館の支援者層を形成できるのでは。資金面での支援にもつながるかもしれません。(専門)
60代	出版を盛んにする。 専門的で価格が高いものも出す。(なし)
60代	今の大学生のサークル活動をみると、IT ツールを活用した協働作業にたけていますし、特に部長のもとに、ということでもないフラットな組織でうまくやっているところも多いようです。若い世代のや

	り方を取り入れるのもよいのではないかと思います。(なし)
60代	現役を退いた方はアドバイザーではあっても主体は現役の方達でやってほしい。(なし)
60代	施設会員を中心に図書館の振興に強い意志を感じますが、柔軟性、多様性がもっとあっていいかなと、思います。(なし)
60代	日本図書館協会のような公共性の高い団体の活動を維持するコストを誰がどのように負担するかは難しい問題です。 コストの負担者を明示することによって、(負担能力があるにもかかわらず)フリーライダーではられないような環境を醸成すべきと考えます。 まずは、一人前の給与を得ている正規職員が「なぜ加入しないのか」を知ることから始めるべきでしょう。 次に、NCR(ウェブも含む)や NDC に「このツールを出版し維持するために会員の会費が使われています」といった一文を入れてはどうでしょうか。図書館大会その他のイベントでも同様です。 さらに、団体の場合、機会があるごとに、その団体名の横に「日本図書館協会正会員」等をつけてもらうようにしてはどうでしょうか。(なし)
60代	私の情報収集能力が低いかもしれませんが、情報をより手に入れられる方法をもっと知りたい。良いアイデアを皆で検討する場(オンラインで十分ですが)があるとよいです。(不明)
60代	多くの自治体で、直営では「土地の事情及び一般公衆の希望」に沿った公共図書館運営が困難になっている状況を直視し、以下のような点について、業界人の内輪の議論を超えた、実証的・実験的・実践的な取り組みを希望します。 1)図書館をふくむ、文化振興や社会教育の機能を持つ機関の経営や政策立案ができる人材(図書館員に限定する必要はない)の育成 2)民間事業者による指定管理や PFI を含め、よりよい公民連携に支えられた図書館運営 3)労働供給制約社会化が進行し生成 AI が急激に進化する状況での図書館員の育成・確保・マッチング 4)各地のシェア型図書館、フリースクール、IDGs など、ソーシャル・イノベーションや教育改革の動きとの連携や支援(不明)
60代	・司書の専門性を再定義し、個人でも専門的な知識やスキルを身につけることができるように研修体制など充実させる ・認定司書制度、特に審査基準、更新基準の透明性を図る ・図書館の利用者教育を図る(司書の専門性に対する社会的認知を向上させるためにも)(不明)
60代	レファレンス研修、児童奉仕研修(児童文学講座、絵本講座など)、クレマー対応研修、選書に対する知識アップ研修など実用的な研修を東京以外の地域で実施していただきたい。 図書館雑誌が図書館全般の運営に関わる内容になるのは仕方がないが、もっと読みやすい内容(みんなの図書館の方が読みやすい、性格が違うとはいえ)に編集していただきたい。 児童奉仕系や小学校図書館の情報の少なさが気になっています。(不明)
60代	資金源を作れないでしょうか。TRC の失敗を残念に思います。(不明)
60代	市町村レベルでは、公共図書館が委託化や指定管理になり、司書職の専門性が必要とされていない中、異動したばかりの職員やスキルアップしたいと思う図書館員が、気軽に受けられる実践的なセ

	ミナーがあると参加しやすいと思います。(不明)
60代	必要経費(交通費など)を減額あるいは一切廃止し、学生や一般市民、図書館ボランティア、出版社や流通・書店員、退職者などが参加しやすい構造に組み替えること。オンラインでの部会・委員会会議なら可能になるのでは? 「学生委員会」(現役学生のみ参加可)「若手委員会」(正規・非正規を問わず図書館勤務開始5年以内の職員のみ参加可)「退職者アドバイザー委員会」(図書館および図書館関連組織退職者のみ参加可)「図書館ボランティア委員会」(図書館ボランティアや図書館友の会のメンバーのみ参加可)などを設立する。最低でも 50~80 種類以上の「委員会」を立ち上げる。すべて参加者はJLA 会員であることが条件であり(現在と同じ)、個人会員は全員どこかの委員会に所属し(2つまで可)活動する。経費については、JLA は一切支出しない。ボランティア・ベースで活動してもらう。 会費も個人会員の場合、学生・現役(館長・正規・非正規)・退職者・障がい者・海外在住と細かく設定して幅広く参加してもらい、収入を増加させる。団体会員から多額の会費を徴収するのではなく、より多くの個人会員を増加させることで JLA 収入を安定化させる。さらに個人会員が多様な「委員会」に参加しやすくすることで、メリットを増やし会員になりたい気にさせる。個人会員が現在の10倍以上になれば、国会や議員への働きかけの原動力になる。 現在の JLA の構造は、公共図書館や大学図書館など組織団体会員中心の構造になっている印象が強い。図書館勤務経験がなく、司書資格もない図書館長が団体会員代表となっていて、その参加権限や発言権(理事選出など)が強すぎる。 個人として、どの組織にも属していない/複数の組織に関わっている人にとって、入会しにくいのが現在の JLA である。明治以来の国主導での組織形成が依然としてあるのではないか。個人主体の組織にすべきである。部会をすべて廃止すべきである。すべて「委員会」に改組すべきである。そして上記のように、個人会員がすべてなんらかの「委員会」に所属し活動することにより、JLA 会員になる所属意義を認識できるのではないだろうか。今のままでは「図書館雑誌」購読だけなので、図書館で読めばよい。JLA 会員になる意味はまったくない。すべての個人会員がなんらかの「委員会」に所属することで、JLA の組織の風通しがよくなり、活性化するだろう。(公共・教育)
60代	若い方を活動にうまく関与させたい(大学・教育)
60代	事務局をはじめ一部の人に負担がかかっているように見受けられる。参加型の組織形態にしていくとよい。(大学・教育)
60代	オンライン併用など参加しやすくする(学校・教育)
60代	米国のような職能団体(誰でも入会可能ではないプロ集団)であれば、図書館員が専門職として認められ、国の意思決定機関への働きかけなどに奏功するのではないかと考えます。 しかしながら、日本の図書館界での非正規雇用者の増加を鑑みれば難しいことだと思います。(学校・教育)
60代	会員間の多様なコミュニケーションの場を提供する。SNSなどのツールを活用し、若い世代が情報発信できる場を増やす。指定管理者制度のもとで働く非正規雇用の方も参加しやすい仕組みを模索する(学校・教育)
60代	求人広告は、やはり会員に公開をしたほうがいい。また、図書館学教育をしている教員は全て会員にすべき。(専門・教育)

70代以上	現在の図書館界が抱えている諸課題をテーマとして討議し、政策提言できるような委員会活動になることを期待したい。(公共)
	会員を増やす(ことに現役職員の)ことが重要と考えます。そのためには団体組織だけでなく、より個人に寄り添う必要があると思います。
	協会の活動を身近なものにするとともに、会員になることメリットを明らかにしていくことが重要と考えます。
	地域での集会や研修の実施、代議員を中心に地域での会員の連携、研修への無料参加、情報の提供、様々な相談に応じるなどの活動を行うべきだと思います。(公共)
	雑談をリニューアルを。(公共)
	非正規職員が入会しやすいように年1000円程度の会費クラスを設ける。図書館雑誌の配布は難しいがWEB等で同じ内容を配信する。(公共)
	会員を増やすこと。非正規の職員でも、会員になりやすくする工夫。たとえば低額の会費枠を作るとか。(公共)
	図書館を退職しているので、市民として図書館協会の活動に参加したいが、市民としての参加の方法が分りにくい。(公共)
	地区単位の部会がないため活動内容などの情報が入手しにくいと思います。図書館雑誌以外にMLなどにて会員に情報を提供していただければと思います。(短大・高専)
70代以上	大変な時代の重要な役目です。応援しています。(学校)
	会誌「図書館雑誌」の電子版を刊行すると良いです。現状の紙媒体のままですと保管場所を図書館にも自宅にも確保するのが困難になっていくのは明らかです。紙媒体の雑誌の保持は各種図書館においても深刻な問題となっておりますが、個人購読者の場合も同様です。また、小生のような高齢者にとってはパソコンのモニター上で文字を自由に拡大して読むことのできる電子書籍のほうが虫眼鏡や老眼鏡を使うなど難儀して読むしかない紙媒体の同じ書物よりも格段に有難いのです。色々な面で不便な紙媒体のみの発行に固執せず、多くのメリットのある電子版発行により、新たな会員の増加も見込めるでしょうし、会誌を通して既存会員の活動も活発になることと思います。(専門)
70代以上	マーケティングの感覚や実装された仕組みが弱すぎではないか。
	スピード感、双方向性、アーカイブ機能の強化が必要。
70代以上	例えば、『図書館雑誌』の毎号刊行後、読者アンケートの実施により、記事単位での評価点とコメントを集めて、次号以降の企画・編集に反映させる。PDCA サイクルは世間の一般雑誌では当たり前だが、協会では刊行は終点になっている。本当に会員だけでなく役所スタッフや一般市民などにも読んでほしければ、記事バックナンバーのウェブ一般無料公開を実現すべき(多少のエンバゴ期間はあってもよいが)。
	協会ホームページの記事が随時破棄されている現状を改めて、アーカイブ保存し公開する方向へ転換すること。できない理由がサーバーの容量不足という情けない現状を変えることさえできない組織が何を改善できるのか。(教育)
70代以上	天災などがあると、仕方がないことですが、生活優先で図書館への支援は一番後です。クラウドファンディングなど、図書館協会が率先して一般人へも支援を速く広げてほしいです。(なし)
	情報発信を積極的に行って欲しい。(なし)
70代以上	図書館の発展を願う個人・団体会員が、それぞれの立場を超えた信頼関係を醸成できるような仕組みを作っていただくことを期待します。課題別の意見交換会、定期的な茶話会など、あまり堅苦しくな

い内容から始めてはどうでしょうか？信頼は理論だけで叶うものではないと思いますので。(不明)
定期的に、様々な形態の図書館(都道府県立、市区町村立、学校図書館、専門図書館、私立図書館)、図書館関係団体(図問研、図友連など、市民主体の図書館支援団体)などと、問題共有や意見交換などの交流を持つ。
図書館が直面している問題をテーマに、定期的に講演会、研修会を行う。
図書館関係者以外にも、図書館に関心のある人、行政職員、学校などに向けてアピールする。(不明)
官僚組織のような形態を改めること。停滞している組織の改変(不明)
広く世間に協会の活動を知らしめること。資金調達の道筋をつけ、より多くの活動を推進すること。お金がないから出版しないのではなく、オンデマンド出版など色々なやり方も考えること。(専門・教育)

表 35 個人問 10

個人会員問 10 「現在並びに今後の日本図書館協会や図書館界についてのご意見を自由にお書きください」
公共図書館部会 - 雇用と処遇の改善：非正規雇用や会計年度任用職員の増加、指定管理者制度の導入による雇用の不安定さと低賃金が深刻な課題として挙げられています。司書の専門性を守り、正規職員としての採用を国や自治体に強く働きかけるべきだという意見が多数見られます。 - 組織のあり方と役割：公共図書館がひとくくりにされている現状に対し、「都道府県立図書館部会」を設けて議論を深めるべきだという提案があります。また、日図協は良き相談役であり、専門職団体としての政策提言やロビー活動を強化してほしいという期待が寄せられています。 - 若手への支援と広報：若手会員の減少を懸念し、入会のメリット(求人情報や専用窓口など)を明確にすることや、司書課程での教育を通じて入会の意義を伝える必要性が説かれています。 - 社会の変化への対応：デジタル化や AI の進展、人口減少に伴う施設の維持更新など、変化する社会における図書館の新たな型を模索し、発信していくことが求められています。 大学図書館部会 - 経営の厳しさとアウトソーシング：大学の淘汰や予算削減により、業務委託が進み、職員体制がぞんざいに扱われているという危機感があります。 - 国際的プレゼンスと若手育成：日本の図書館界が内向きであることを懸念し、IFLA(国際図書館連盟)などの国際会議の招聘や、若手を海外へ派遣して次世代のロールモデルを育てる仕組みが求められています。 - デジタル・IT への対応：デジタル化への取り組みの遅れや、情報リテラシーを高める拠点としての図書館の役割が議論されています。 - 広報と連携：学生のうちから協会の存在を知ってもらうためのイベントや、他館種・外部団体との連携を重視する意見が見られます。 短期大学・高等専門学校図書館部会 - 機能の融合と組織改革：資料の電子化に伴い、場としての図書館の役割が変わる中で、他の機能との融合を議論する場としての期待があります。 - 運営組織の見直し：会員の減少や世代交代の困難さを踏まえ、部会や委員会の運営組織、さらには協会全体の運営組織を見直すべきだという意見があります。 学校図書館部会 - 専門職としての確立と労働環境：学校司書の正職化や、民間委託・非正規雇用の問題に、養成側(大学)も異を唱えるべきだという指摘があります。 - ロビー活動の強化：図書館の必要性や専門性を政党や行政に周知するためのロビー活動が不十分であると感じられており、活動の強化が期待されています。 - 若年層への訴求：会員構成の高齢化を背景に、若手が加入したくなるような方策や、ICT スキルの向上への支援を求める声があります。 専門図書館部会 「図書館等」への表記変更と認知向上：専門図書館は「図書館」だけでなく「資料室」なども含まれるため、名称や対象を広げて捉えるべきだという意見があります。 - ネットワーキングの場：専門図書館同士のつながりを持てるようなイベントや試みを、部会として積極的に行ってほしいという要望があります。 - 政策提言と存在感：各学会に専属の図書館員やデータ管理員を置くルール策定や、国際的な発信力を高める活動が求められています。

図書館情報学教育部会	
- 司書課程と資格のあり方：司書資格が「使えない資格」化している現状を打破するため、課程の見直しや、ジョブ型雇用に合わせた待遇ガイドラインの作成を主導すべきだという意見があります。 - 学生へのアプローチ：司書課程の学生にとって協会が遠い存在であることを自覚し、学生への認知度調査や、将来に夢を持てるような発信が必要だという指摘があります。 - ツール提供の要望：教育の現場で活用できるよう、NCR(日本目録規則)だけでなくNDC(日本十進分類法)やBSH(基本件名標目表)のWeb公開も望まれています。	
所属なし・所属不明	
- 幅広い層への門戸開放：図書館員だけでなく、利用者、書店員、出版関係者、学生などを含めた「図書館応援団」的なつながりを作るべきだという意見があります。 - 現場に寄り添う支援：地方の小規模図書館や非正規職員が、自分たちのための団体だと感じられるような、敷居を低くした活動や研修が求められています。 - 利用者の視点：供給側の論理だけでなく、利用者目線を活動に取り入れ、社会的なイメージ(無料貸本屋など)を変えていく努力が必要だという指摘があります。	
共通の意見	
アンケート全体を通じて、所属部会の枠を超えて多くの会員が共通して抱いている危機感や期待、提言をまとめると、主に以下の5つのポイントに集約されます。	
1. 雇用形態と処遇の深刻な悪化への懸念	
全館種において最も切実な共通意見は、非正規雇用の増大、会計年度任用職員制度、および指定管理者制度・業務委託の拡大による専門性の軽視です。	
2. 組織の硬直化と若手会員の減少への危機感	
会員の減少、特に若年層の未加入と世代交代の停滞が、協会存続の危機として共有されています。	
3. 専門職としての確立と「使える資格」への転換	
司書が社会的に専門職として十分に認められていないという不満があり、資格制度の抜本的な見直しを求める意見が共通しています。	
4. デジタル化・AI・人口減少への対応	
社会構造の変化に伴い、「本を貸す場所」から脱却した新しい図書館像を模索すべきだという意見が一致しています。	
5. 「図書館界」の閉鎖性打破と外部との連携	
図書館員だけの狭い世界(「図書館界」)に閉じこもるのではなく、社会に開かれた存在になることの重要性が強調されています。	

表 36 個人問 10 全回答

20代以下	図書館によって持てる力が異なり、そのほとんどがお金に依存してしまうのがやるせません。お金がなくてもいい図書館は作れると思いますので、多くの図書館員が、色んな図書館を見てみて互いに刺激を受けられるような仕組みがあればなあと思います。できればオンラインではなく現地でその空間を感じられると良いのですが、難しいなと思っています。(不明)
30代	会費が高い、と感じる図書館員が周囲に多い。(公共)
	国への要望活動(職員待遇、司書職制度、政策提言)等を活発にして、業界の改善・発展に貢献してほしいです。(公共)
	今後の図書館界では、司書の非正規雇用の現状を改善していく必要があると考える。 雇用が安定しない現場では、若手職員の育成が進まず、職場内で世代交代が難しくなる。そのため、図書館界全体で高齢化が進んでいると感じる。 既に取り組みが進められていることは承知しているが、 日本図書館協会には、日本の図書館界を代表する最大の団体として、国や自治体等に対し、「正規職員としての司書採用」および「非正規雇用者の雇止め問題の解決」を継続的に訴えてほしい。(大学)
	情報処理学会では、学生交流イベントをやっているようです。学生のうちから協会の存在を知ってもらうことは大事ななあと思います。また、司書課程を履修する学生が全員図書館業界に来るわけではないのですが、一定の関心や知識を持っているので、手始めにその層に向けて存在をアピールする

	のも良いのかとも思います。もっと図書館関係者以外への広報が重要かと考えます。(大学) 私が在住する県内では、約 10 年前に司書課程を開講している大学が無くなっており、今後、司書資格のない図書館職員が増加していくことが見込まれます。 今後、全国的に大学数の減少が想定される中、各地で司書を取得できる環境整備(働きかけ)が必要になると考えております。(大学) 若い層が少なく感じる。ICT や情報スキルに不安感が募る。(学校)
30 代	協会がリーダーシップを発揮して、業界を明るくしてほしい。海外にも目を向け、日本の図書館界あるいは図書館の役割や文化を維持し、さらに発展させていってほしい。司書が専門職であると誇りをもって働く業界に。そして、図書館が人々の生活になくてはならない存在であるように。また、世の中的に、図書館の衰退＝人類の衰退であると言えるような機関に。業界全体の底上げができると良いと思う。(専門)
30 代	生涯学習という面で図書館という場所、概念は大切なものだと感じています。 一会員としてではありますが、益々の発展を願っています。(なし)
30 代	非正規雇用について、意見のみで改善がない。立場が強い人だけの発言をまとめるのではなく、実際に働く人の意見を反映させた記事を掲載してもよいとおもう。(図書館雑誌などで)また、指定管理内でハラスメントの問題も多い。日本図書館協会で相談窓口などを作り、全部の図書館員を守る仕組みを作してほしい。加えて、司書資格の重要性も伝えてほしい。(なし)
30 代	これまで先輩方が注力してくださった様々な協会や研究会関連のお仕事・取り組みを、若手が引き継いでいかねばという思いはありつつ、日々の業務に忙殺され、参加できずにおります。 ひとりひとりの負担軽減ができれば…とは思いますが、なかなか難しいですね…。建設的な意見が出せず、申し訳ありません。(なし)
40 代	文部科学省に図書館の担当課がなくなって、図書館に関する政策、特に生涯学習に関することを考える場がなくなっていると感じています。 日本図書館協会には専門職団体としての政策提言をお願いしたいです。(公共)
40 代	若い人が入ってこないのが大きな問題だと思いますが、どこの図書館団体も同じような感じで、難しいなあと思っています。(公共)
40 代	自分が就職した頃(約 30 年前)は、日本図書館協会に入会し、図書館雑誌を必ず読むことが自然な雰囲気だったが、今は卒業した大学の部会(「三田会」など)にステータスを感じる若手が多い印象を受ける。 日本図書館協会の強みは、図書館に関心のある人ならば広く門戸が開かれており、いろいろな立場の人が自由に発言出来る点にあると思う。 しかし、自分の周りでは、効率性を重視するあまり、識者の意見だけを手っ取り早く知りたいとか、館種が異なる話題には関心を持たない人が多いため、日本図書館協会の良さが伝わりにくいとを感じる。(公共)
40 代	各種活動によって図書館界のあり方を示していただけており、大変感謝をしている。ただ会員の皆様がそれぞれの業務外においてこれらの活動を行っているのを見るに、そのボランティアな部分に支えられて事業を進めていくのは少し困難になっていくのではないかなと思う。 会員の減少や、それぞれの組織での業務負担増なども含め。外部資金の獲得や協会活動の見直しなどある程度整理をしながら維持していくことが今後は求められていくのではないかな。(公共)
40 代	部会、委員会の会員様の日ごろの御尽力には感謝申し上げます。

代	また、全国で御活躍の図書館員様には尊敬いたします。 研修などで講師をされている方を見ていると、ほぼ枠に定まっているように思えますし、そのお話し内容も当然ながら類似しています。 一つ良い取り組みが出ると、大多数がそこに向かう傾向がありますが、斯界ももう少しバラエティとアイデアに富んだ世界になればと 思いますので、人材発掘のアンテナを貴会には一層お持ちいただきたいと存じます。 例えば、毎年、「認定司書」を輩出していますが、「認定司書」は図書館界において十分な活躍の場を提供されているでしょうか。 本来「認定司書」になる実力をお持ちでも、「認定司書」になる意味を見出せず、応募辞退する方もいらっしゃるのではないのでしょうか。 図書館界の片隅で地道に取り組んでいらっしゃる（高度な取組でなくても）方に光が当たるような図書館界を目指していただきたい。（公共）
40代	・日本図書館協会として、指定管理者制度が公共図書館に馴染まないことを今まで以上にハッキリと主張してください。 ・自治体プロパーの司書の「司書としてのキャリア形成」に資する取り組みを強めてください。 ・認定司書の数少なすぎます！ ・司書が研鑽し、認定司書を目指せるような道筋を文科省や自治体等に対し、示してください。 ・公立学校の教員は、都道府県内を異動し「教員としてのキャリアパス」が描けるように思われますが、 司書も自治体内の他部署へ異動するのではなく、「都道府県内の公立図書館への異動」となるよう法改正を促すなど、働きかけてください。（公共）
40代	図書館職員について。給料をはじめとして、待遇改善を進めないと、今より人手不足になるかも？優秀な若者は、将来のため他の職に就くだろう。即効性のある対策は思いつかないので、個人がリテラシーを高めて、経済的に豊かになるしかないか。図書館協会が司書向けに「金融リテラシー向上セミナー」を開いてもいいかも。（公共）
40代	勤務館での図書館業務、楽しいです。 全国的な組織だからといって変に難しく考えることや、煩雑化すること、必要以上の統一規格（ルール）を求めることなどは、時代に合わないと考えており、そんな協会やインテリ図書館人（特に批判の姿勢が強い方）に日頃の一地方図書館業務の楽しさを阻害されたくないというのが正直なところです（業務改善にかかる情報・建設的な意見はもちろん歓迎しているのですが、業界的に人格批判や体制批判など不必要な攻撃が多くみられると感じており、言葉を選ばずに言えばうとうしいと感じています）。 未熟ながらも頑張ろうとしている図書館をエンパワーメントできる全国組織・ギルドであってほしいと思っています。（公共）
40代	図書館雑誌や研修などでモチベーションを保って仕事ができているし、何か起こった際の協会としての提言や声明、活動などとても頼りにしています。 図書館協会は正規・非正規とも司書の立場は不安定ですが協会があるから大丈夫と思える心の支えのような存在です。（公共）
40代	非正規の方が正規として働き続けられるような、今後を考えられるような、そんな方々を応援する協会であってほしいです。（公共）

40代	地方の立場から見ると、どうしても“関東の会員のための組織”のように感じられてしまいます。(公共)
40代	図書館単独の施設ではなく、複合施設の一つに組み込んで市民の方に利用されることが増えてきました。海外の図書館の運営を学びつつ、日本社会のこれからの図書館のあり方、必要性を見ながら施設を残してほしいです。(大学)
40代	資料の電子化もあり、場としての図書館の役割が小さくなっていくと思います。 そのような中で、他の仕組みとの機能の融合のようなことを、どのように考えていくか、議論する場になるとよいかもしれないと感じます。(大学)
40代	大学、学校、公共、そのほか。まるで八百屋 肉屋 魚屋の如く毛並みが違うのに、商店街とまとめたのが少なくとも日本の図書館界だと思う。全体にかかることもあるとはいえ、それぞれ分けた誌面構成が必要に思える。 図書館業界は委託非正規化で体力を奪われ、貧しさに IT に取り残されともすると一般の人より情報に疎い。IT 業界、AI などを見ていて、車輪の再発明のような部分を感じることもある。データを加工し活用しやすいように保管整備していく。人力でやっているのが図書館、機械にやらせるのがデータベース。図書館員は情報を扱うものと思っている。その媒体が紙の本であったから本の管理が主となっていると。(自分が大学図書館しか経験がないからかもしれないが。) 図書館員が IT の今に専門家として話せる人が思い当たらないことに残念に思っている。 図書館員が思う以上に一般の人は本を知らない。本屋で売ってるのが砂浜の砂ぐらい僅かであると知るのは本読みと図書館員くらい。本は容易く消えていくことも知らない。図書館で本が無料で借りられることも知らない人もいる。 広報は必要だろう。 ロビイングも必要だろう。 とはいえ、新しいことをやろうとすると現場の大半を占める非正規の人らに負担がいく。最低賃金で夜まで働くようなひとは白い目で見られるだろう。 図書館で働く職員も委託の人らが時給いくらで働いているのか把握している人は稀に思う。 散漫に色々書いたが、まずは図書館で働く人らを把握し、待遇を把握。 人件費高騰で潰れる派遣会社も増えているという。まだ余力ある(ないのかもしれないが)うちに直接雇用で切り替える方法を模索しないと、モラルが低い人も現場にいるようになり、図書館の個人情報保護などが脅かされる。正社員は貴族、嘱託は平民、委託は奴隷。奴隷が貴族に口を聞くななんて畏れ多い。業務の切り分けという理由があるとはいえ、そんな現場もあり、そして貴族はその自覚がないというシュールさがある。職員様がいうことは絶対。最低賃金で 22 時まで働く自分らに何を求める？ 司書資格も問われていない。 それでも図書館に本は美しくならび利用できている。働く人らに感謝しきりだ。(大学)
40代	各館種において、様々な状況の変化がおきており、そこを共有しながら、良い方向へ進めていくための駆動部として、JLA の役割は大きいものだと思います。これからも期待していますので、どうぞよろしく願いいたします。(大学)
40代	年会費の値下げを希望する。(大学)
40代	本当の職務内容に対する社会的認知が低く、経済的成果の見えにくい業界ゆえ、最低賃金の非正規雇用や指定管理に委託されている現状。主題司書や認定司書の育成はもちろんだが、その要件が現

	状満たせる人は少数過ぎて社会で注目を浴びるに至らない。大学の司書課程の教員になるだけではなく、ボードゲーム部門、生成 AI 部門など極めてニッチな肩書きをつけた司書を各種メディアに露出させて、講師業ができるようなキャリアコースがあればもっと盛り上がると思う。(学校)
40代	業界の一番の課題は、非正規雇用、派遣の問題だと思います。正規雇用が増えるよう、図書館が地域や学校によっていかに重要か、ハブを果たせる存在か、司書がいかに専門知識があり有能かをどんどんアピールしていきたいです。そのために何ができるか、全部の部会や委員会を巻き込んで、同じテーマで議論し、各会で取り組める具体的な内容を検討していけたら、協会や会員にとって極めて有意義な活動になると思います。今回のようなアンケートは、ぜひ毎年実施してほしいです。(学校)
40代	会員数が減少傾向であるとのことだが、司書資格を取っても就職に殆ど繋がっていないこと、司書の担う仕事の外注が増加傾向であることから、更に会員が先細る事も考えられる。その辺りをどのように手当てしていくか、ということも大事になってくるのではないかと考える。司書課程がある大学で職能集団としての紹介をしてもらうなど既に着手されているのだろうか。 また、図書館雑誌も毎年ほぼ同じ特集が並ぶことが多いため、思い切って隔月刊に変更するなどして人的・金銭的負担を減らしてはどうか。(学校)
40代	2020 年に日本維新の会の反対で「学校図書館年決議」が見送りになったのは記憶に新しい出来事です。近年では書店側の働きかけで「対話の場」が設けられたり、図問研らの主催で「院内集会」が開催されたりしていますが、まだまだ図書館に関するロビイングが十分ではないのではないかと感じます。昨今では生成 AI の普及が急速に進み、ますます図書館や図書館員の在り方が問われているように思います。図書館の必要性や図書館員の専門性を政党、議員、行政機関等に広く周知し、理解してもらう取り組みを進めなくてはならないと思います。協会の今後の活動に、強く期待いたします。(学校)
40代	仕事で忙しい中でも、毎日確認したくなるような WEB サイトであれば、協会の活動に参加したくなると思います。 記載について細かいことで申し訳ないのですが、「図書館」だけでなく、図書室も資料室もあるため「図書館等」と記載した方がよいと思いました。図書「館」以外には目が向けられていないと感じました。(専門)
40代	ロビー活動をもっと活発に。図書館界から国会議員、地方議員を生み出しても良いと思う(専門)
40代	日本図書館協会を公共図書館だけのものでない他館種も自分の図書館協会だと思えるような組織にしてください。(専門)
40代	人口も減って、予算の減っていくのが確定していますので、これからは様々な外部団体や、一見図書館とも関係ないような文化ともコラボして「まずはやってみる」の精神で、色々とチャレンジできると何か道が見つかるかもしれません。(なし)
40代	様々な新しい図書館の形が出てきて、日本の図書館の活性化がされているのは、うれしいことですが、自治体長の考えによって最低ラインの図書館運営がされているところも多いと思います。 そういった図書館の底上げができるような指針を、これからも考えていってほしいし、応援していただきたいと思います。(不明)
50代	図書館の可能性や社会における必要性を、図書館に直接関わらない人にも感じてもらえるようなメッセージを出し、実績を上げていきたいと思います。 人の手当てや予算の確保はその先にあるものだと思います。

	関係人口を増やしていけたら良いですね。 いろいろ注文ばかりで恐縮です。日図協の理事の皆さま、事務局の皆さま、活動されている皆さまに敬意と感謝の気持ちを持っております。いつも有り難うございます。一緒に汗をかいていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。(公共)
50代	言うのは簡単でごめんなさい。 協会の職員の業務量が多く大変だといつも思ひます。より良い図書館界、次の世代にバトンを渡すためにも部会や委員会のあり方も勿論のこと、代議員についても持続可能なあり方を検討で終わることなく、風通しの良いこと、シンプルな仕組み、発展的な組織になることを願うばかりです。(公共)
50代	若い方に入会をすすめたいのですが、メリットを説明しにくいように思ひます。入会すれば希望者に求人情報が届く、困った時の会員専用窓口があるなどがあれば、勧めやすいです。(公共)
50代	日本図書館協会には、良き相談役であつて欲しいです。(公共)
50代	今までの図書館とは求められるものが大きく変わつてしまつていますが、新しいことをしている人たちの情報が図書館協会からあまり発信されていない気がします。新しいことだけがいいわけではありまへんし、自分も疑問を持ちながら向き合つているところですが、先進的な、これからのことがわかるような、そんな情報も発信してほしいです。『図書館雑誌』の作りも、私はとても好きなのですが、司書以外の人も手に取つてしまうような何かが加わるとういひのかもしれない。 図書館のことで何か困つた時は図書館協会の出版物やホームページなどを見ますが、職場(公立図書館)の司書でない人、司書でさえ、図書館協会が発信しているものを見なかつたり、思ひつかなかつたりして、とても悲しくなります(いろいろな取組を頑張つていらつしゃると思ひているので)。 なので、図書館協会の人々が図書館を訪問するくらい近くに来てくれたら、図書館協会の存在や役割をみんなが認識することができて、いいのかもしれないと思ひました。(公共)
50代	きょうび世の中で流行っている solution たとえば賑わい創生とか居場所とかコミュニティとかクリエイティビティとか、そういうことには既に先行馬がいて、いくら全力で走つても、図書館界の優秀人材がいくらがんばつてもこれから追いつけることはありません。 図書館のコアコンピタンスは別にあります。それについて検討し尽くしたほうがよい。いくら検討しても終わりはないです。 またご当人の皆さん方は周りが全員そうなので気づいていないかもしれないけれど、図書館界に居るひとは個人としても束としても、パブリックイメージ以上に優れたところ、好いところがあります。私は部外からやつてきた人間ですが、移つてきた業界がここで良かったと心底思ひています。そういうのを、できるだけ図書館界外にいるひとに伝えたいなと思ひています。(公共)
50代	「図書館界」という閉鎖的な考え方をもう少し破つてほしい。図書館員だけでしか理解できない図書館の価値には、社会的な意義を感じません。 図書館はもっと、社会や国民に必要な社会インフラのはずで、それが軽視されている現状は、所謂「図書館界」にも責任があることに自覚的になつて、開かれた場となることを期待します。(公共)
50代	理事などの定年を決めないと(充分に育てられないので)、いつまでも任せられる人がいないのではないかと思ひます。現役世代も少しずつ入れ、今の図書館の状況に活かせる活動、司書や図書館員にもっとよい図書館運営ができる後押しができるような団体であつてほしいです。(公共)
50代	図書館界については、司書を専門職として認める社会が求められます。1冊の本、ひとつづつ記録媒体、ひとつづつの情報源へのアクセスを選ぶことで、図書館というあらゆる情報記録媒体を扱うデー

	タベースとしての図書館を創造できる職員の育成し、担保していかないと図書館に未来はない。本を選ぶことができない図書館職員が多すぎる現状をどうにかしなければいけないと思ってます。(公共)
50代	司書の処遇や雇用について、多様化していると思います。図書館や司書を守る砦として、拠り所としてさらなる発展を期待しています。(公共)
50代	個人的には、図書館職員として迷った時の拠り所であり、大先輩の知識を共有でき、スキルアップしたい時にも信頼できる講座を提供してもらっていて感謝してます。 私も含め、協会の活動に賛同する方は多い気もしますが、日々の職務で余裕がない中、活動に専念することが難しい状況なのではないでしょうか。(公共)
50代	専門書集団として確立できているのか疑問。 司書やその他携わる職員のほか、一般の関係者(友の会など)の意識の差が大きすぎます。(公共)
50代	先行き厳しいです(公共)
50代	図書館を離れても図書館研究ができる場を提供してほしい。図書館を離れると平日の休暇が少ないため土日祝に利用できる場も必要ではないか。(公共)
50代	前例踏襲でもいいのですが、その場合は、忖度ではなく、会の目指す方向にとっては真にその方が良いと言うメリットを、きちんと提示すれば、たとえ反対意見だとしても、会員も納得はずかと。 議論や対話ができる、と言う背中や姿勢を次世代にぜひ見てもらえるような会のあり方を目指してほしいです。(公共)
50代	図書館の有用性について、経験の浅い職員でも説明ができるよう、図書館協会からも資料提供や提言案など、発信してもらえればありがたい。 介護予防につながる、居場所になる、行政や地域と連動した活動ができるなど、図書館から異動して思うことはあるが、現役司書の間は視野が広がらなかったと感じている。(公共)
50代	時代にあわせて変わるべきことと共に、時代に流されず変わるべきでないこともある。 図書館界に限ったことではないが、基本的なことをなぞりにして、”今だけ金だけ自分だけ”の価値観が横行している気がする。 長い目で、目先の金銭的価値に囚われず、他者との共生を大切にできる、そんな価値観から図書館の未来を考えられたら良いなと思っている(公共)
50代	業界が縮小していくことがないよう、協会と図書館が手を取り合って盛り上げていきたいです。(公共)
50代	書店との連携に注目しています。今後の進展に、貴会の活躍を期待しています。(公共)
50代	現在、認定司書です。嘱託職員からパートの会計年度職員として公共図書館で働いています。会計年度になり、3年毎にハローワークを通して面接、小論文の試験を受けて再任用の雇用です。本日、市役所財政より、来週会計年度職員全員に雇用見直しの説明会があると話がありました。市の財政逼迫の原因が会計年度職員の給料が上がったからとの説明です。嘱託勤務で二十数年、手取り 16 万円がマックスで働いてきて、会計年度は賞与がつき、少し給料が上がりました。でもみんな生活は厳しいです。説明では、時短勤務、またはもっと責任ある業務をしてもらう、同意できない方は辞めて結構です、という態度のようです。 図書館の正規職員は、みんな辞めたら募集が大変、というくらいの感想で、他人事のようです。すみません、このアンケートとは違うかもしれませんが。ただこれが現実です。図書館、司書とは何か、日々

	の積み重ね、お客さまを大切にしてきた今までを否定されています。正規だけで成り立つ現場はありません。難しい現状ですが、ご報告させていただきます。(公共)
50代	会員が日本図書館協会の用意するメニューから自分の活動を選ぶというよりは、日本図書館協会で・日本図書館協会と何ができるかと考えられるといいと思います。広い視野を持つという事では社会教育施設として公民館や美術館の連携も考えたいところですが、まずは現役の図書館員に日本図書館協会の情報が届くことが最優先な段階ではないかと思います。といいつつ、広い視野を持つという点がまだ会員になってない方にヒットする可能性もあるかもしれませんが…。(公共)
50代	非正規雇用の司書の割合が増えている。多くの図書館では司書を育てるのではなく、消費するだけの印象があり、日本の司書職の将来に不安を感じている。このような状況だからこそ、図書館員の学びの機会を提供する日図協の存在意義は大きいと思う。(公共)
50代	近年黙って日本図書館協会を去る方が多いかもしれません。 リターンより、会費や活動への負担を感じているからかもしれません。 自分も図書館界でもがく人たちに寄り添う存在でいたいです。(公共)
50代	代議員などの役員の選出や役割がわかりにくく、地区内の役員や事業の輪番を検討することが大変。組織の在り方や構成について、時代に合わせた、もっとシンプルな形での運営方法を検討できるとよい。(公共)
50代	図書館のことを考えるには、社会に広く目を向けていなければなりません。図書館のことばかり考え、視野が狭いまま歩んできたのが図書館界の方々ではないでしょうか。多くの議会答弁を見ても図書館への期待やイメージは無料貸本屋であり、喫茶店であり、無料自習室です。自治体も住民の不満を生まない装置として図書館をみているだけで、その社会的意義を考えているわけではありません。国民の図書館に対するイメージを変える必要があります。(公共)
50代	非正規雇用の司書のことを、もっと考えてほしいと思います。日本の図書館を代表する団体が、大多数を占める非正規雇用の司書の待遇改善に消極的では良くないです。他の非正規雇用を考える団体との共同事業には、責任のある立場で主体的に出て行ってください。非正規ですが、会員でいるのは、正規雇用の司書として働きたいと思ったら必要なことではないかと思ったから、そして、自分も一会員として図書館員の待遇改善にかかわっていきたいからです(所属する委員会は雇用関連とは違います)。非正規司書に目を向けなければ、図書館界は足元から崩れます。明るく楽しい、だけではなく、重くて(関係ないからと)目をつむっていることにも、しっかりと目を向けていけるような JLA や図書館界に、していかなければならないのではないかという危機を持っています。(公共)
50代	今後の日本図書館協会、図書館界について 会員になって日も浅く、未だ知識・経験も乏しい者ですが、感じていることを記入します。 私の所属する館では、図書館協会そのものについて知らない、関心がない職員がほとんどだと思います。1人しかいない正規職員は3、4年で異動しますし、非正規職員も入れ替わりが激しく、不安定な職場です。協会の理念とはかけ離れた実情があります。 職員を募集しても、図書館は本をかりるところ、というイメージで応募してくる人がほとんどです。 現場の図書館のあり方が大きく変化していく中、図書館界全体が大きく動いているかという、非常に分かりにくい印象です。意見になってなくて申し訳ありません。 現場の人たちが、年齢やキャリアを超えてゆるく繋がれる形があってもよいのではないかと考えるこの頃です。(公共)

50代	正直、現場の図書館員で日本図書館協会に興味関心のある人はそれほど多くありません(現在自分が勤務している市立図書館全体で)。日本図書館協会は各種調査のお願いが来る以外は、あまり市区町村立図書館に対してアプローチを大きく頻繁に行っているとは言えないと思います。実際に、責任者の立場ならまだしも、いわゆるヒラの図書館員が「日本図書館協会」の名前を目にしたり耳にする機会すらあまりないです。とくに自治体直営ではなく、指定管理会社に対してもっと積極的に働きかけ、存在感を示していただきたいです。日本図書館協会は、日本の図書館界において大きな存在のはずですから、その義務があると思います。(公共)
50代	図書館協会の出版物にはとても助けられています。ありがとうございます。 これからも、会員の支援につながるような取り組みに期待します。例えばテーマを絞った研修の企画、実施などです。 各図書館で行う研修への講師派遣なども検討してほしいです。 そうしたことも、協会の負担増の原因となってしまうかもしれませんが、このところ、経験の浅い職員のスキルアップをどう進めるかについて、ずっと考えています。(公共)
50代	出版社や書店等と敵対関係にならずに協力できることは協力する。 図書館業務のマネジメントや新規事業を担える人材の育成が必要。(公共)
50代	会費について家族割引を設定してほしい(公共)
50代	もっと公民館や博物館、社会教育界全体との連携、つながりを広げ深めていく必要があると思います。(公共)
50代	知識を得る機会は、全ての人に平等に与えられなければならないという信条に共感しております。 図書館の存在意義をさらに多くの人々が認知するような活動を期待しています。(公共)
50代	協会の職員が大変すぎるように見受けられる。待遇の改善、業務の平準化を望みます。(公共)
50代	図書館界についての意見を述べます。 司書の募集をすると若干名に多数の応募があるように、図書館司書になりたい人はいるのに、残念ながら現状の図書館職員の配置は、図書館に興味のない行政職が充てられたり、身分も給料も不安定な業務委託や会計年度職員や非常勤ということが多い。 図書館で働きたい人が、知識を持って、正しく評価され、それに見合った給料を得られるようになってほしい。(公共)
50代	これまで続いた協会を、現代の在り方へどうシフトするかが課題と考える。(公共)
50代	自分達は正規司書なら加入が当然と思って協会に加入してきた。しかし、若い職員に専門職業集団の協会の大切さや、個人会員になることが協会を支えるからと加入を勧めても、加入しない人が多い。勤務館が団体加入しており、必要な情報もそれで得られるから、それで十分と考えているように思える。 近い将来、協会の団体会費の値上げが必要になるかもしれない。(公共)
50代	日本図書館協会が今後も力強く存立し、日本の図書館界の振興に努めて欲しい。(公共)
50代	どのようなことをすれば協会が活発化できるかはわかりませんが、図書館界にとって必要であり、代わりのない存在だと考えているので、存続してほしいと願っています。(公共)

50代	図書館界は斜陽でしょう。これは日々感じています。 図書館の業務は軽視され、「委託をいれればいい」と大学内での図書館は職員、職員体制を含めぞんざいに扱われている印象があります。 近隣の大学図書館からも同様の声が聞こえ、一機関でどうにかできる問題ではないと思います。(大学)
50代	図書館大会への参加が少ないとのことを伺っております。コロナ禍のオンラインでの大会は盛況に見受けられました。各団体において、旅費の抛出等も厳しい状況も鑑みるに、オンラインと現地の組み合わせや各県ごとではなく、地区ごとに持ち回り開催を行うなど、緩和策を持って大会を存続させるような体制がよいようにも感じております。これまでの活動がぷつぷつ切れてしまわないように無理のない切り替えがあっても良いかもしれません。(大学)
50代	図書館のイメージを変える 図書館関係者だけがわかる用語をつかわない 若いインフルエンサーを巻き込む(学校)
50代	図書館の実情についての情報発信がやはり必要だと思います。今ももちろん考えられていると思うので、今後がんばってください。(学校)
50代	このままでは正規雇用の図書館職員はいなくなり、協会も衰退していくと思う。 現在非正規の職員や小規模な図書館の職員も、自分たちのために活動する団体だ、自分も活動に加わろう、と思えるようにしなければと思う。(学校)
50代	現場の意見を広く吸い上げ、国の政策に反映するようになると良いと思います。 図書館は増えても、予算が減っている、非正規だらけでは、良い図書館にはなりません。(学校)
50代	デジタルに対する批判的評価が足りないと感じています。レアメタルもプラスチックも電力もなるべく消費しないような、地球環境と生物としての人間にやさしいデジタル機器類があるならいいのですが、学校で使用しているタブレット端末などは3～5年で壊れるとも聞きます。紙媒体も環境にやさしいわけではありませんし、読書バリアフリーの問題もあるので、正解は簡単には出ない問題だとは思いますが、もっと「本当にデジタルじゃなきゃだめ？」と疑いをもって関わる視点が欲しいです。一部の巨大テック企業に利益が吸い取られる社会構造に対して、図書館界ならではの「もっとこうしよう」という提案をしていければと思います。(学校)
50代	図書館は館種を問わず国民の暮らしにもっと根付いたものになってほしい。日本図書館協会がもっと一般にアピールして存在感を示してくれたらと思います。(学校)
50代	現在の部会、委員会はよく頑張っておられると思います。ただ、図書館職員の待遇向上などを国の政策に反映させる力が弱いと思いますので、有効なロビー活動が今後の課題だと思います。(学校)
50代	非正規雇用化と民間委託により現場のサービス水準の低下は深刻。協会の会員減少や部会運営者や委員会委員の担い手不足・世代交代停滞も、これが主要な原因。協会の運営を変えても、非正規雇用や民間委託をなくさない限りどうにもならない。協会は、この現実を受け止め、例えハードルが高くとも、職員問題と委託廃止を正面に掲げて、かつこれを最重要の主要課題として、活動してほしい。この二つ問題の解消は、市民へのサービスの向上発展につながる(市民にとって利益となる)ものであることをアピールし、市民の理解を広げる取組みも必要。また、行政当局による、理不尽な図書館の廃止や縮小の動きには、行政側でなく、市民の側に立って行動してほしい。そうあってこそ、現場も市民も、協会を信頼できる。(学校)
50代	最近、協会や研究会に加入・参加して「学ぶ」ことの意義が、若い世代には理解されていないように感

代	じます。非正規雇用の方の中には、会費が高く加入できないと感じる方もいらっしゃるでしょう。しかし一方、正規雇用の方でも加入が少ないのは、優れた実践の根底に流れている、その実践者の姿勢、考え、思想などには関心がないようにも感じます。どうしたらよいかの具体的なアイデアは出せませんが、若手が加入したくなるような方策が必要と感じています。(学校)
50代	推測であるが、文部科学省との関係もある手前、活動内容に制約があるのではないかと思う。 もっと自由に意見が述べられる風土の醸成が必要ではないか。(専門)
50代	図書館員になりたいと思った時、職能団体への加盟は当然と思い、大学のときに入会しました。その後も図書館の仕事を継続していることから退会せず続けてはいるのですが、正直なところ、協会への貢献はぜんぜんできていないです。申し訳ないです。(専門)
50代	専門図書館協議会があまり良い雰囲気や状態ではなさそうなことを耳にしています。図書館総合展でブレインテック社に専門図書館のプロモーションと交流を活発に実施いただいています、日図協の専門図書館部会にもぜひ、専門図書館同士のつながりの場となり得るイベント等の試みを行っていただきたいです。(専門)
50代	司書課程の見直しを主導したほうがいいのではないかな。 今後、ジョブ型の雇用を進めるのか検討したほうがいいのではないかな。その際にジョブごとの待遇のガイドラインなどをだすのはいかがかな。 公契約条例の制定運動をもっとしてもいいのではないかな。ただ少子高齢化時代に向けた低コスト図書館のデザインも必要なのでは(教育)
50代	司書課程で養成し図書館への勤務を強く希望する者のほとんどが、指定管理者・業務委託業者・会計年度任用職員への就職をする。これらの層の横のつながりの促進や声を代弁するといった仕組みが現在無いと考えている。またこの層のキャリアアップの相談に乗るとか、困った場合に業界が支えるという仕組みも無い。このようなニーズを JLA が取り込めると良いのではないかと考えている。(教育)
50代	図書館員の存在意義を高めるために司書資格のあり方を見直す必要がある。現状、取得しても使えない資格と化している。図書館のよき理解者を増やすための研修や講座などを実施し、図書館に関わる人たちの裾野を広げる努力も必要かもしれない。(教育)
50代	活動そのものについては特に問題を感じない。(教育)
50代	AI の台頭やデジタル化が推進されるなかで、図書館大会でお話も拝聴しましたが、皆さん大変考えておられるということは、理解しております。(なし)
50代	人口減少や予算縮小などで図書館職員の待遇や図書館の在り方が難しくなっていく事が予想されますが、立ち寄りたくなる、なくてはならない図書館を目指して企画や展示、催し物など工夫を凝らして、盛り上がりを見せて欲しいと思います。日本図書館協会が部会や委員会をうまく活用していけるのではないかと期待しています。(なし)
50代	さまざまな図書館で働いている人たちのために存在している、とあまり思えません。(なし)
50代	私は公立図書館職員として、10 年働いている。私は、分館長として、直営を堅持している。財政健全化や行革の波が今でも迫ってきており、人ごとではなくなってきている。 しかるに図書館界で議論は必要だし、日本図書館協会存続のために、一緒に考えていきたいと思う。これからの図書館つまり未来の図書館をつないでいけたらと思う。(なし)

50代	「図書館雑誌」をはじめとする情報発信を、いつも参考にさせていただいています。 会員の拡大について思いつくところを書かせていただきます。非正規職員への参加呼びかけに、さらに力を入れていただきたいです。敷居が高い、遠い存在と感じている人が、少なからずいるように思うからです。どの立場の職員にとっても、日本図書館協会が、図書館員としての理念・理論の共有や、実践・スキルを得るために、役立つ場所になっていけば、図書館サービス全体の向上につながります。会の活性化にも有用ではないかと思います。(なし)
50代	出版物刊行や研修実施は、時代に即した方法と内容で企画してほしい。(なし)
50代	司書の必要性を感じられなくなっている現在、図書館の存続も危うくなっている。 数字には表せない知識欲や好奇心を満足させる図書館であって欲しい。(なし)
50代	会員の意見を聞く機会を設けることは大切ですので、定期的にこのような機会を設けていただきたいです。 今後も図書館界は厳しい状況が続くと思いますが、様々な立場で図書館に関わっている人たち、また図書館を応援したいと思っている人や団体なども、協会の取り組みに広く参加できて、図書館の可能性を広げていくようなことができればと思います。(不明)
50代	図書館の仕事が可能性に満ちているからこそ、いろいろな専門性をもった人たちに勤務してほしいと思っています。 そのためにもこれまで以上にロビー活動を含めた「営業」が必要であると考えます。(不明)
50代	働き方として指定管理者に所属せざるを得ないときがある。指定管理者の記事はあまりないと思う。実際に働いている人の声、待遇も知りたい。図書館雑誌執筆者は所属図書館が掲載されているが管理企業所属で図書館勤務している人がいれば明記してほしい。応募の参考にしたい。 日々の業務に役立つ研修に参加させてもらいたいので今後もよろしくお願いします(不明)
50代	AI に負けそう。通常業務にイベントに目指せ利用者増加に、じっくり考えて仕事をする余裕が無い。 図書館雑誌や研修、講演では、どうやって皆さんが仕事をこなしているのか、レベルが違いすぎて、落ち込みます。理想と現実の差が大きすぎる。(不明)
50代	公立図書館は少ない正規職員は図書館に興味関心が薄く、非正規雇用は立場上強くは意見が言いにくい。職員はぎりぎりの人数、そのわりに利用者は多く、土日や夜間の開館も求められるブラック職場となりつつあります。(厄介なクレーマーはもちろん増加の一途です) 図書館に居場所を求める声も多くありますが、現状として働く場所としてはブラックとしか言いようがない。根幹を支えていた職員が入れ替わり、さらに図書館の業務が部分委託等で分散し、書誌データは業者まかせ。2025 年の今、何が求められている図書館サービスなのか、何を提供すべきなのか、おそらく一番迷いが多いのは公立図書館ではないでしょうか。 個人的に地元の公立図書館には満足していますが、運営は指定管理です。であれば、自分の職場も指定管理でいいのでは？と思うことがままあります。どうにかできるなら今が最後かと思い、数年前に戻ってきましたが、風呂敷が広げられるだけ広げた状態でどうにもならないな、と愕然としているのが現状です。(不明)
50代	中堅職員ステップアップ研修に二年連続で参加し、多くの学びを得る事が出来ました。非正規であっても、高レベルの研修を受ける事が出来る機会は貴重でした。また、意見交換をするなかで、図書館共通の問題も出てきたような気がしました。自由活発で前向きな意見交換ができる土壌は素晴らしいですね。(公共・教育)

60代	文科省への意見提案等、日本の図書館行政に大きな役割を担っていることや分類や件名標目等、図書館運営の基本ツールの作成維持更新を行う根幹機関であることが周知されれば、図書館施設、図書館員なら日図協に加入するのが当然となるのではないのでしょうか。(公共)
60代	公共図書館がひとくりにされますが、長年県立図書館に勤務してきた立場では、都道府県立図書館部会となっていた方が、議論が深まるのではないかと思います。また、図書館界では、先進事例ばかりが取り上げられる傾向があると思うので、都道府県立図書館はどのように資料を残していくべきか、大学図書館などと連携して具体的に議論を深めていくとよいのではないかと思います。(公共)
60代	図書館を守るためのロビー活動などにも力を入れてほしい(公共)
60代	司書課程で協会に入ることが当然という教育を行うことが必要だと思う。(公共)
60代	会員減少はみんなも分かっているので、様々な研修機会の設定(Zoomでの参加をしやすくするシステムを活用)をどんどん実現して、会員になってくださーいという呼びかけを当面止める。まずは、活性化を。(公共)
60代	人口増加期に図書館施設は、数や規模共に急速に整備が進みました。 少子高齢化による人口減少期にあってまた老朽化する図書館施設の維持更新期になり、こうした財源の確保に図書館の設置自治体は苦慮しています。 情報のデジタル化が進展する中で、図書館の新たな型を模索しています。(公共)
60代	どうしても東京(関東)中心の研修やイベントが多いように思われます。リモート参加も含め全国から参加しやすいよう、いろいろな地域での研修・イベント開催を望みます。基礎講座を各地方の認定司書を中心に企画されていますが、認定司書に限らず地方での活動に会員が参加しやすい仕組みがあればと思います。(公共)
60代	図書館の運営を直営(正規職員のみ)で行う時代ではないので、指定管理者制度や会計年度職員制度に反対するだけでなく、どのように制度を活用するか、ポジティブな提案をしていかないと、そのような立場で働いている人たちとの乖離ができてしまうのではないかと。実際には認定司書も指定管理者の職員や会計年度職員が取得し、自治体職員は応募すらしない状態が現状である。自治体職員よりも低収入の人たちがもっと協会で活躍できるようにしていく必要がある。 また、図書館界や教育界における図書館協会の活動の成果をアピールし、協会の存在や重要性をもっと認知してもらうことが大切だと思う。(公共)
60代	せっかく地域の書店との連携の機運が醸成されているので、地域の情報拠点としての図書館の重要性をアピールする絶好の機会にしていくべき。(公共)
60代	ますますきびしいと思いますが、図書館自由宣言の精神を消さないようなんとかがんばってほしい。 (すみません、正会員だと思いますがAかBかわかりません。まちがっていたらごめんなさい。)(公共)
60代	市民、住民にとって公共図書館、学校図書館は、どんな役割が果たせるのか、それを果たすために協会はどんな計画や準備を進めているのか、わかりやすく発信し、支持を集めていく努力が必要です。図書館協会の打ち出す具体的な事業、研修の内容や国の図書館施策への要望等の内容によって、支持が集まり、協会への賛同・加入も増えていくと考えます。(公共)
60代	図書館協会の動きは、変化の早い時代において、少し遅いように思います。 協会のHPや蔵書検索、SNSへの対応が情報を扱うべき団体として、長らく貧弱で図書館界として

	の顔にならず、足を引っ張っているように感じていました。 また、指定管理者制度や会計年度任用職員の導入時の反対などもこのタイミングで言っても遅いだろうと思いました。 公共団体の司書は公務員で一定の役割を担えばそんなに自由に動きません。 独立した専門協会の果たすべき役割は大きいと思います。 社会に魅力をアピールできる活動に期待しています。(公共)
60代	館長職を含め公共図書館に長期間勤務してきました。JLA には旧来通り活動している部分と先駆的な活動している部分があります。昨今の急激な社会変化や自治体の図書館に対する方向性や方針の相違もあり、特に今後の図書館のあり方についても、従来どおり継承・継続していくことは困難な状況かと思います。しかしながら、どんなに社会変化があっても、JLA にとっては、図書館が目指す基本的な役割、機能は今後も尊重・順守していかなければならない団体であり、図書館界のリーダーとして今後も活動することを願います。(公共)
60代	AI の発展で、各分野で専門職が必要になってきて、これまでの安く人を使うのがよいという風潮が変わってきている気がします。図書館司書はすでに資格として確立しているので、必要性をアピールしやすいのではないのでしょうか。 公共図書館に関しては、自治体が住民の知る権利を保障するために図書館を設置するのであって、民間企業にそれを任せてしまうのは思想として間違っていると思います。協会には機を見て住民の権利もアピールしてほしいと思います。 現在の図書館員は、日々の業務に疲弊して、司書としてのモチベーションを長期に維持するのが難しい状況だと思います。よい図書館のニュースを積極的にメディアに取り上げてもらうことで、モチベーションになると思います。 どんなに電子化が進んでも、機械も電気もなくして情報を得られる紙資料は当分必要とされると思います。図書館は今後もずっと必要な施設です。協会はよりよい図書館のために旗を振って前を歩いていってください。(公共)
60代	法人であることの意義を再確認し、一般法人化なども含めて検討の幅を広げる必要があるのではないかと。(公共)
60代	若い人が参加したくなるような会であること(公共)
60代	協会の立場でしかできないことがあるので、今後も経営を安定させて事業・活動を持続させていっていただきたい。(公共)
60代	図書館界の外から見ると、全く変わっていないのは、図書館が本を読むところ、借りるところという認識である。一時的に、また一部の図書館が頑張っ貸出し中心でないサービスをする図書館があったとしても、予算や人材がいなくなれば、このデフォルトに戻ってしまう。図書館に対する認識を変えていかなければ、いつまで経っても図書館界の発展はない。 最近では、居場所としての図書館が注目されている。大変結構なことだと思うが、本来の図書館が持つ知の蓄積ということが軽視されているようにも見える。今は蓄積された蔵書を並べ、空間を活かした施設、人が集まる、居場所にもなる図書館は高い評価を得るが、10年後、20年後、と、蔵書の蓄積を続けていかなければ、単なるハコモノでしかない。人が集う先に学びがある、学びを導く存在として図書館があるという考えを捨てないでほしいと思う。 図書館界を動かすのは、人である。図書館で働く司書、司書を育成する教育者、図書館を支える住

	民、行政にかかっている。協会にはそれぞれとのハブとして存在してほしい。唯一無二の団体としての存在であることを、広く知ってもらわなければならないと思う。(公共)
60代	司書が相応の待遇で雇用され、若い方々が将来に希望が持てる界限に。 その働きかけに力を入れていただきたい。(公共)
60代	図書館は民主主義を支えるものである。(民主主義:図書館=建物:建物の基礎)その図書館を支える協会が持続可能なことは大事だ。(公共)
60代	司書の非正規雇用問題について、協会として積極的な役割を果たしてほしい。 また図書館の運営(指定管理など民営化問題)についても協会としての立場を鮮明にして、図書館とそこに働く司書の専門性を守ってほしい。(公共)
60代	公共施設総合計画による図書館の複合化、非正規司書の課題、指定管理者制度、AIの台頭等目まぐるしく変わる状況下で、協会には良識の代表的な立場を期待します。特に協会の見解は業務の参考にしています。今後ともよろしくお願いします。(公共)
60代	同一労働同一賃金からはかけ離れている実態がありそれを是正する必要がある。現場(管理職、正規職員、非正規職員、非正規職員、民営化職員、民営化非正規等)が図書館政策に関わる機会の少なさも大きな問題だと考える。(公共)
60代	このままでは、先細り、図書館はなんとなくあったらいいけど、なくてもそんなに困らないものになっていくのかもしれない。(大学)
60代	現在の大学図書館は以前に増して大変厳しい。大学淘汰時代を迎え、大学図書館は益々大学の中央から疎外されて、業務委託のみで運営されつつある。 人的な面の影響が国立大学と私立大学の図書館の格差が如実となり、図書館間活動はほぼ私立大学からは人を出すことは難しい。 そのような状況であっても大学図書館、図書館全体の動きは様々な媒体を持って、優れた活動のみでなく、苦しい状況も共有、共感できるトピックスを提供し続けて欲しい。(大学)
60代	日本図書館協会がより発展していくために今見直しをするのは良い事だと思います。利用者の目線を大切にできたら良いのではと思います。(大学)
60代	図書館の機能が多くの人に活用され、図書館が時代にあった新たな展開を見てみたいと思います(短大・高専)
60代	正職の学校司書を退職後、療養期間があり、その後再就職(アルバイト・パートで)先つてあるかな、と調べていて、初めて知りました。司書課程のある大学(私大、国立大)やその系列校でも、図書館運営を業務委託しているところがたくさんあるのですね。パート司書を上手に社会保険適用の週20時間を超えないように募集している場合も多そうです。公立・公共図書館の民間委託や非正規職員の問題も深刻ですが、司書課程を設けている大学(と系列校)で業務委託したり図書館職員を派遣で採用したりという問題にも、養成する側の方々は異を唱えてほしいと思いました。もしかしたら司書課程の教員自身が非常勤で、学内で図書館職員の在り方に異を唱えられない、もしくは言っても聞き入れられないのかもしれませんが。(学校)
60代	日本図書館協会はやっぱり公共図書館のための団体なんだと思うことが多い。したがって会員でいるのは情報収集のためと割り切っている。(学校)
60代	都道府県内の会員の交流を密にするために、代議員には会員情報をもっと簡単に伝えて欲しいです。また、代議員はこんなことをやってますよの事例共有が必要だと考えます。(学校)
60代	もっと専任スペシャリストとして多くの人が図書館で働けるようにならないと、図書館界は先細る一方

代	なのでは。(学校)
60代	AI が普及したら、図書司書の仕事なくなるのではないかと不安を感じる。(学校)
60代	図書館協会・図書館界に限らず、出版界に対する関心は高い。首都圏でも書店の数は減っているため日常気軽に書店に行くことが非常に困難になっている。図書館に納入する際の歩引きも来年度からなくしたいとの連絡が書店から来ている。書店の利益率を考えるとやむを得ないことだと思う。各種館種の部会や様々なサービス・問題の委員会を組織しているので、だんだんと委員会の委員を探すことが大変になっているのだろうと拝察している。(学校)
60代	各県代議員を中心とした活動、同じ県の会員同士の顔の見える活動が大切だと思います。(学校)
60代	図書館員であり司書課程の教員として、日本の図書館界全体が内向きであることが心配です。先進国である日本で IFLA や WLIC を開催することはかなり難しい状況と聞きますが、なぜでしょうか。もっと若手を海外へ派遣しエンカレッジして、次世代につながるロールモデルを育てる仕組みがあると良いと思います。IFLA ライブラリアワードにも推薦し、日本の存在感を高めても良いのではないのでしょうか。(専門)
60代	各学会に専属の図書館員・データ管理員を置くというルールを作してほしいです。(専門)
60代	非正規雇用があたりまえ、AIに図書館の仕事がとって代わられる危機感がありますが、急激なICTT化に対して住民のリテラシーがついていけないことを感じています。情報リテラシーを高める拠点として図書館的なものが機能できないかと感じています。(専門)
60代	先進国なのに IFLA などの国際会議を招聘する力がないのはいつも疑問に思っています。ワーキングプア問題はとても重要ですが、認定司書制度をもっとプロ集団としてバリュースタディを行い、社会へ発信してよいと思います。JLA は予算がないと良く聞きますが、会員減少とはいえどれくらいひっ迫しているのでしょうか。海外助成や研究助成に予算を振り向けても良いのではないのでしょうか。日本の素晴らしい図書館と運営は、世界へ誇れるものです。もっと現場の司書も海外へ目を向けて、発信力をつけてプレゼンスを高めてほしい。そのために学生へも司書職の発展性、可能性と夢を語りたいと思います。(専門)
60代	情報そのもの、そして環境環境等々、様々な面で目まぐるしく変化していく中、それに活動に対応させていくことは大変なことと思いますが、頑張ってください。また、自治体をはじめ、運営主体のフットコは年々厳しくなっています。その面からも大変なことと案じています。(専門)
60代	図書館の活動・評価指標の統計の取り方を標準化し、各図書館に徹底させる。例えば、登録率の計算表記の仕方(分母が住民基本台帳の人数に対しての分子の数の徹底、すなわち市内在住者の数による実質市町村内登録者による登録率と、市外在住者の広域利用も含めた拡大解釈をした登録率を区別しての併記など)や、登録者として扱う有効年数(3年以上の登録者は一度削除する)などの扱いの全国的標準化を図るといったようなことの旗振り役をきちんと実施してほしい。また、貸出冊数への偏重を改め、年間入館者数という指標の導入があっても良いと思う。(教育)
60代	図書館協会は、全国で時々の優先課題につき、タウンミーティング的なことを行ってはどうか。都道府県単位の図書館大会は重要だが、例えば東京都図書館協会は事務局(都立図書館)の考え方で、総

	会と見学会、1 年遅れの会報でお茶を濁している。図書館界と利用者とが同じテーマで議論し合う場がもっとも必要で、そうでないと、図書館界が考えていることが利用者や市民に伝わらないし、市民の意見を取り入れることもできない。(教育)
60 代	歴史と国際的広がりを持つ大切な活動だと思います。応援しています(なし)
60 代	図書館の設置や正規司書の配置を自治体に求める。 国に、上の目的を達成するための交付税増額や補助金の支出、図書館への必要な定数配置を求める。(なし)
60 代	若手や異分野からの参画がふえ、寄付金をふくむ多様な財源の活用で、図書館会や協会の活動を活性化、底上げを図っていくべきかと思います。(なし)
60 代	失礼ながら協会のアップデートが必要かと思います。(なし)
60 代	大学の司書課程関係者(大学経営クラスも含む)は、「司書」がいわゆる資格商法のようなことになっていることに気がついていでしょう。問題は、意欲もあり優秀な学生が資格を取得しても、進路として図書館で働くことを選ばないことです(入職試験をすすんで受けるのはむしろ成績が芳しくない学生が多いような感すらあります)。協会がこの商法に加担しているかのように感じている学生もいるのではないのでしょうか。(協会が図書館界の権威主義の権化として避けられている気配すらある)。司書課程の受講生でさえ協会との距離は非常に遠い。まずは関係者からヒアリングをする、できれば司書課程受講生に協会について認知度のアンケートをしてはどうでしょうか。いずれにせよ、若い人が進路として積極的に選択しない業界(のナショナルセンター)の将来は暗いと言わざるを得ません。(なし)
60 代	図書館は人類にとって大切な知的財産と思うので、より多くの事業が展開されていることが意義深いと思います。(不明)
60 代	『市民の図書館』の戦略の見直しに際しては、「図書館は必ず直営でなければならない」という前提もぜひ見直してください。(不明)
60 代	大学の司書課程で教育するに際して NCR2018 の Web 公開は大変助かっております。難しいこととは思いますが、NDC と BSH についても Web 公開していただけると、学生の学習に多大な効果があると思いますので、よろしくお願い申し上げます。(不明)
60 代	長年図書館に勤務して専門的知識や経験の豊富な方々が中心になって活動している業界団体のようなイメージがあります。いわゆる図書館業界的な狭い世界。もっと幅広く呼びかけて図書館の利用者や書店員、出版関係者、教員、学生、地域文庫、会社員、医療従事者、福祉従事者などにも入ってもらい、図書館応援団的なつながりをつくると面白いことができるのではないかと思います。(不明)
60 代	「他者」なしでは「自己」の問題や課題もみえてこないと思いますので、世界の図書館界にもっと目を向ける必要があると思っています。(不明)
60 代	会計年度任用職員制度の導入により、理念も低く、本に対する知識が低いスタッフが多過ぎる。(もちろん意識も本の知識も豊富なスタッフはいますが) 図書館雑誌にもう少しエンタメ性があれば読みやすいのですが。 周辺の本に関する資格に対する特集(JPIC 読書アドバイザー、絵本専門士など)や、書店業界など図書館だけではなく本を取り巻くものに対しても情報を集め発信してみてもはどうでしょうか。職場で図書館雑誌を回覧しても中々関心をもって読んでもらえません。(不明)

60代	僭越ながら、このアンケート設計がやや甘いように感じました。 アクセスでつまづき、設問も委員会で??でした。 建設的な結果が得られることを願います。 お疲れ様です。(不明)
60代	学問的な図書館学も必要だが、図書館員の拠り所となるような、新人職員が図書館の仕事は面白いと思えるような導きが必要なのではないかと考えます。底辺を育て裾野を広げていかないと、会費を払う個人会員は増えないのではないかと感じます。(不明)
60代	図書館の存在意義を社会に認識してもらい、図書館員の待遇改善をおこなうのため、ロビー活動を活性化すべきだと思います。(公共・教育)
60代	少子高齢化を踏まえ、縮小していくのがよい(学校・教育)
60代	図書館司書が本当の意味で専門職と認められない限り、協会や図書館界の未来は少々心もとないと感じます。(学校・教育)
60代	日図協はかねてサービスを供給する側の論理が中心で、自分のように利用者視点で活動する会員は何をするにもアウェイ感を感じる人が多い。もっとサービスの受け手の参画を求める必要があるのではないかと。またさまざまな全国レベルの研究組織が交流する場が少ないことも、多様な視点を持ちにくい原因になっているのではないかと。その意味で今般立ち上がった「市民と図書館」プロジェクトには大いに期待している。図書館界の活動に利用者目線を入れることで、幅広い市民の、参加、参画を得る機会にできるのではないかと。(学校・教育)
60代	資料室を1階に置いてみてはどうか？レファレンスカウンター付きで。販売と半分ずつにする！(専門・教育)
70代以上	人口減少社会の中で旧来の図書館システムを維持することが難しくなっていると思います。人類の気づき上げた文化遺産を継承することと、新たな文化を築くために皆さんが引き続き活躍されるようお願いしています。(公共)
	職能集団としての役割を基本にさまざまな雇用形態の図書館員を支援し、さまざまな館種の図書館が連携することができる環境づくりに力を注いでもらいたい。(公共)
	図書館界のナショナルセンターとして、今後の図書館のあり方を研究、明確にし、それに向けての政策提言や活動を積極的に進めたいと思います。(公共)
	会計年度職員の会費を少額にし、積極的に受け入れる。 会費は一般会費の半額以下で。(公共)
	図書館員としての様々な研修をしてくださる機関として、学ぶべき情報もいただける期間として入会いたしました。受け取るばかりで大変申し訳ないと思っておりますが、今はこれで精一杯な活動と考えております。(公共)
	図書館運営の要となる専門職集団の団体として日本図書館協会があります。 図書館業務の改善をはかり、研修の場を提供すると共に、図書館の自由のセンターとして、国に対して日本の図書館政策を提言していく、なくてはならない団体です。(公共)
	毎週発信していただけるメールマガジンは情報源としてありがたいです。 役員等の退任年齢を設けて、若い世代が活躍する方向性にしてほしい(公共)
	看護の世界では大学附属の要養成機関から最終的には博士課程を持つまでとなった。司書の専門性を主張するのであれば、改めて養成制度と資格の付与について見直すべきである。現状では、ア

	一キビストや学芸員と並ぶ専門性を主張するのは難しいのではないか。(大学)
70代以上	会員の減少、特に若年層の会員数が少ないため世代交代も困難であると思われます。部会、委員会の運営組織だけでなく、協会の運営組織全般の見直しが必要ではないかと思います。(短大・高専) 図書館は、生涯学習の基盤であり、人権を守る砦であることを、黙ってでは守れないとても危険な空気を感じます。図書館関係の他団体だけでなく、大小を問わず、さまざまな人たちと対話し、手を組んでいく必要があります。JLAにはその核になる責任があると思います。(学校) 退職者には、よく分からず申し訳ありません。(問 3 は、よく分からずにいます。)(学校) 紙媒体の資料の電子化、デジタル化への取り組みが残念ながら決定的に遅れていると思います。(専門) いまの図書館界は非正規の図書館員で成り立っていることを広く知ってほしいし、そのことの改善をしないと発展は望めない。司書課程を受講している学生は、給料が安く非正規の職しかなく、図書館で働きたいという希望はかなえられないと、はじめから諦めている。(教育) AI が図書館与える影響は大きいですが、まだ現時点では人力が必要です。例えば、人命にかかわる毒キノコの判別も、まちがいがあるようです。図書館員が、より正解に近づける方法を積極的に発信することが大切だと思います。(なし) 業務委託や派遣、臨時職員などの非正規雇用の問題に協会として積極的に関わって欲しい。(なし) 民主主義の要とも称せられる図書館の最後の砦が協会であると期待しております。そのためには、性急を慎み、自由闊達な議論がつくされるなど、公開性の高い民主的な運営が行われることが肝要と思います。(不明) 図書館振興、今後の日本の図書館をより良くするために、図書館関係者だけでなく、様々な団体や関係者、図書館を運営している民間企業、国や自治体とも交渉できる窓口をもってほしい。 都道府県立図書館、市区町村立図書館、専門図書館、学校図書館、私立図書館など、あらゆる図書館と連携、協力できるように、 日本の図書館同士の風通しをよくしてほしい。(不明) 日本の図書館はまだまだ発展途上国にある、しかも危機的状況にあるにも拘わらず纏まらず批判ばかりで発展の妨げになっている。日本図書館協会の果すべき役割を再考すべきだと考える。(不明)

表 37 施設等問 9

施設等会員問 9 「日本図書館協会をより良くするための知恵, 具体的なアイデアをお書きください」	
市区町村立図書館	- 地方・小規模自治体への支援: 東京や関東圏に偏らず、地方でのワークショップや研修の開催を求める声が強くなります。特に遠方の小規模自治体にとって協会が遠い存在になっていると感じられており、研修の後日配信など参加のハードルを下げる工夫が求められています。 - 広報とメリットの明確化: 施設会員であることのメリットを分かりやすく示し、協会が目指す方向性(21 世紀型の施設への変化など)を周知してほしいという意見があります。 - 業務支援: 全体の底上げのために初歩的な情報提供を行うことや、会員価格での講師派遣、あらゆる問題を相談できる窓口の設置などが提案されています。
都道府県立図書館	- 組織の再編と効率化: 役割が増えすぎて破綻しないよう、強みを見極めた委員会の再編統合や、ICT 活用による人的コストの削減が必要だとされています。 - 認知度向上: 全国組織としての認知度を高める行動や、部会設立の意義・目的を再検討することが提案されています。
大学図書館	デジタル・オンライン化の推進: 修理や目録などの実務に役立つ内容のオンライン研修(Zoom 等)による

経費削減や、研修の無料化が提案されています。また、統計データの公開(CSVやExcel形式)や、出版物の電子版発行・オープン化といったデジタルサービスの強化も求められています。

- 人材活用とネットワーク：専門分野ごとに司書を登録し、オンラインで協力できる「図書館人材バンク」のような仕組みの構築が提案されています。また、特定のメンバーに負担が集中しないよう、横断的な学びや協働の機会を設けるべきだという意見もあります。
- 組織運営の改善：委員会の数が多すぎるため、統合整理してスリム化することや、意思決定プロセスの透明化、ボランティア制度の設置などが挙げられています。
- 社会的役割：読書の減少に対応し、映像マルチメディアの収集・閲覧に舵を切るべきだという意見や、図書館法に基づき、設置母体にかかわらず様々な種類の図書館の発展を図るべきだという指摘があります。

短大・高専図書館

- 個人会員の拡大：図書館関係者だけでなく一般の人も入会しやすいよう、個人会員向けの魅力的なサービス(蔵書案内など)を提案し、イメージを広げるべきだという意見があります。
- 連携：部会同士の連携を深めることが、今後の課題解決に必要なだとされています。

専門図書館

- 専門性の周知：他の専門図書館団体との違いや活動内容が分かりにくいいため、発信を強めてほしいという意見があります。
- 大会の充実：全国図書館大会の分科会で、専門図書館をより幅広く扱ってほしいという要望があります。

学校図書館

- 負担軽減：具体的なアイデアとして、学校の業務そのものを減らすような働きかけが期待されています。

市民団体・その他

- 市民の巻き込み：図書館の主権者である市民も部会や委員会の運営に巻き込み、その声を聞くべきだという提案があります。また、市民が会員登録しやすい会費システムの検討も求められています。

共通の意見

1. デジタル化・オンライン化の推進

多くの館種から、研修やセミナーのオンライン(Zoom等)開催を求める声が上がっています。これは経費削減だけでなく、遠方の図書館員が参加しやすくなるという大きなメリットがあります。また、研修の後日配信(オンデマンド)や、出版物の電子化(電子版の発行・バックナンバーのオープン化)、統計データのCSV・Excel形式での公開といったデジタルサービスの強化も共通の要望です。

2. 情報発信の強化とメリットの可視化

「どのような活動をしているか分からない」「入会・継続のメリットが不明確」という指摘が複数の館種から寄せられています。そのため、協会の目的、年間スケジュール、加入のメリットをまとめた簡潔な資料(A4一枚程度)の配布や、ウェブサイトでの分かりやすい情報発信、さらには図書館に関するあらゆる悩みを相談できる相談窓口の設置などが提案されています。

3. 組織運営のスリム化と透明性の向上

委員会の数が多すぎるため、組織の再編・統合によるスリム化が必要だという意見が共通して見られます。また、特定のメンバーに負担が集中しないよう、意思決定プロセスの公開や役員・委員の公募制導入、ボランティア制度の設置など、透明性が高く多様な会員が参加しやすい仕組みづくりが求められています。

4. 地方・小規模自治体への支援

活動が東京や関東圏に偏っているという実感を持つ会員が多く、地方でのワークショップや研修の開催を求める声が根強くあります。特に人的・財政的に余裕のない小規模な図書館や地方の館にとって、協会をより身近な存在にするための工夫(講師派遣や初歩的な情報提供など)が期待されています。

5. 現代的課題への対応と連携

電子資料の取り扱いや著作権、アーカイブ公開といったタイムリーで実務的な課題に関する研修の充実が求められています。また、館種の枠を超えた横断的な学びや協働の機会を設けること、部会同士の連携を深めること、さらには司書だけでなく市民や一般会員も巻き込んだ運営を目指すべきだという意見も共通しています。

表 38 施設等問 9 全回答

市	前例踏襲で施設会員になっている団体が多いと思うので、協会に所属するメリットをわかりやすく示せると良いのではないのでしょうか
区	
町	図書館の充実度には、かなりの開きがあると認識している。全体の底上げを目指すのであれば、もっと初歩的な情報の提供も必要ではないかと思う。
村	
立	図書館のための企画、研修が多数周知されるが、遠方であったり日常業務であったりと参加するためのハードルが高いため、気軽に参加できるように参加手段の選択肢を増やせないか、と思う。

	公共図書館の現場から図書館協会が遠くなった感覚があります。以前は困ったときに相談のご連絡をさせていただきましたし、不定期でも北海道内での研修や意見交換の場を設けたりしておられたと思います。色々大変なご事情はあると推察いたしますが、東京から遠い小規模自治体の公共図書館の振興に、もっと手を尽くしていただけたらと願っています。 協会の必要性は理解しているが、どこに課題があるか十分に把握できていないため、具体的なことが書けずに申し訳ありません。 協会と会員を結ぶものとして、機関誌、メールマガジン、研修等の案内などがありますが、特に日常的に部会と会員とのつながりをより強くすることが必要と思います。 関東地区ばかりではなく、地方でもワークショップなど参加しやすいイベント・研修会等を開催してほしい。 各自治体の図書館には、それぞれ異なる事情があります。新しい図書館と古い図書館では価値観に違いが見られるものの、いずれも地域コミュニティの場として協調が求められています。古い図書館は20世紀的な姿を残している一方で、新しい図書館は未来へつながる21世紀型の施設として変化を遂げています。こうした時代の移り変わりの中で、日本図書館協会がどのような方向性を目指しているのか、ぜひ知りたいと考えています。 会員価格での講師の派遣
都道府県立	全国組織である日本図書館協会の存在を知る者を一人でも増やすために、まずは日本図書館協会の認知度を高める行動が必要であると考えます。 協会をより活性化させることは重要だと思いますが、役割が増える一方では破綻する恐れがあると思います。 今後の協会としての役割、強みを生かす方向性をしっかりと見極め、一部に負担が偏ったり固定化したりしないように、さまざまな活動の透明化、関わり代の明確化をしたうえで、専門職能集団としての存在価値を高めて行く必要があると思います。 そのためには、委員会の目的に応じた再編統合や、新しい課題にスピード感をもって対応できるような組織構造の改変、ICTを活用した省力化による人的運用コストの削減などの工夫が必要だと思われます。
大学	日本図書館協会をより魅力的な組織にするためには、会員と協会がともに価値を生み出す仕組みが重要だと考えます。 会員数の減少に加え、積極的に協力できる余力のある図書館が少なくなっていることもあり、現在の部会・委員会では特定のメンバーに負担が集中し、新規参加や世代交代が進みにくい状況があるように感じます。 館種ごとの課題や文化の違いはありますが、横断的な学びや協働の機会を設けることで、多様な会員が無理なく関わられるような協会になることを希望します。 日図協主催の研修は割引ではなく無料にしてほしい。zoomなどのオンライン研修で経費削減を図る。業務に役立つ内容の研修を行ってほしい。(修理、目録など) 短期大学は先細りとなり、今後の事が分からない状況です。しかし、現場の司書は研修を通じてスキルアップをしていかないといけません。地方での研修会は余力がありません。日本図書館協会を頼りにしております。 多くの研修やセミナー等を開催していただいておりますが、現時点において図書館を取り巻く課題(電子資料の取り扱いや、アーカイブ公開等)に関するタイムリーな内容を今後も多く扱っていただければ

ば、貴協会、または部会・委員会の活動目的の面では、より認知が広まっていくのではないかと思います。
組織に余力がなく職員を委員に出すことができない
図書館人材バンクとして、全国の司書を専門分野ごとに登録し必要な時にオンラインで協力できる仕組みを設けるなどすると、効率的な意見収集等が行える可能性はないでしょうか
広く社会に役立つ活動をする、Web サイトで簡潔に分かりやすく情報発信すること
現時点では、職場の環境が施設会員となる道をどんどん遠ざけている。 ただ、意欲のある人は多いと思うので、非正規の方々などが個人会員として入会することで得られることが多いような特典などがあるとよい。個人会員になりやすい環境、なることで享受できることはなにかを明確にしてアピールすること。
具体的なアイデアはないが、個人会員と施設会員の組織化の形や活動内容は、それぞれの立場での活動がしやすいように見直すことは考えられないか。施設会員は所属する館の業務の一環として協会の活動にかかわることになるため、個人会員のモチベーションとは異なり、協会の活動に参加するための意義付けや所属組織に対する説明責任を負うことになる。
協会ウェブサイト「図書館職員求人情報一覧」への掲載条件として、応募資格に「司書(補)有資格者(取得見込を含む)」を必須とするなど、日本図書館協会は図書館法に規定される図書館の利益を優先している。定款第3条に基づき、様々な種類の図書館の進歩発展を図る観点を持つべき。
館利用者にも協会と活動内容を紹介しやすいような仕組みがあると良い。例えば、当館は大学図書館だが、教職員や学生にもこれらを紹介することで日頃の館運営により関心を持ってもらえたり、卒業後に公共図書館や他の図書館へ関心を持ってもらうことに繋がるかもしれない。その中にはボランティア参加などにも繋がる可能性も考えられる。
活動内容の周知やイベントの広報等をより積極的に行う。
活動の整理とスリム化(各活動の見直しや縮小)を行うとともに、活動内容と目的を明確にすること(中期・長期目標やロードマップでの活動の見える化)で、会員館にとって参画に意義を見出せる体制(実質的な行動が可能な体制)を整える必要がある。日本図書館協会としての伝統を重んじることは重要であるが、時代の流れに沿った新規性(電子的手続き、フラットな組織体制など)を取り入れる柔軟性が必要と思われる。
学生さんのスマホ依存など、紙版読書が減少していますが、電子書籍情報もご案内拡大して頂きたいです。
映像マルチメディアが大衆の情報収集の大半になり、読書が減っていることについて、図書館も映像マルチメディアの収集・閲覧に舵をきる時期だと感じます。
引き続き、指針等の策定に柔軟に取り組むこと
すいません。具体的なアイデアはありませんが、各図書館を取り巻く環境が日々変化中、今回のように丁寧に声を聴くことが大切だと感じます。
1. デジタルサービスの強化 ・出版物の電子出版及び、一定期間を過ぎた号のオープン化 ・統計データの公開(CSV, Excel 形式) 2. 協会の透明性と参加型運営 ・意思決定プロセスや活動報告をわかりやすく公開し、会員からの意見募集を定期的に実施 ・協会活動に参加できるボランティア制度やプロジェクト型チームの設置

	・毎年度初めに、誰でもわかる A4、1 枚の説明資料(会の目的、年間スケジュール、加入のメリットなど)を配布する。 ・図書館におけるあらゆる問題を相談できる窓口を設置する ・2 年に 1 つの課題解決をテーマとして、1 年目情報収集とまとめ、2 年目解決策の提案として取り組む 例) 公共図書館における雇用/大学図書館における電子資料/学校図書館における著作権など
短大高専	部会同士の連携が今後はより必要になると考えられます 図書館と一口に言っても、公共図書館や大学図書館、企業図書館など利用者の対象や運営方法も異なるので、現在のように部会ごとに分けて活動すること自体は全く賛成です。ただ、会員は図書館だけのイメージがあり、もっと一般的なイメージを広げると一般会員も入会しやすいのではないかと思います。そのためには、一般会員にも魅力を感じるメリットがあることを提案できるとよいのではないかと考えます。例えば、その会員の関心がある図書の紹介やその会員が利用できる所蔵館と一緒に案内するなど、個人会員向けサービスがあるとよいのではないかと考えます。
専門	全国図書館大会で館種に関わる部会があるという以外、どのような活動や研修が行われているかはほとんど知らず、委員会があるのは今回、ホームページを見て初めて知った。館種にとらわれない、図書館界を盛り上げるような、司書がスキルアップできるような、いろいろな研修を企画してほしいと思うが、所属している部会でさえ、研修を行っているかさえもわからない…。もっと発信に努めては!! より良くするため、というご依頼と異なるかとは思いますが、規模の縮小が避けられない場合は、優先順位をつける、部会の統合を行う、などがあるかと思えます。必要があって行っていることばかりなので、優先順位の低いものを停止したり、目的(使命)が異なる部会を統合したりすると、改悪になり、長期的には不要と判断されかねない、難しい判断とは思いますが。優先順位の付け方としては、これを無くすと(統合すると)どのような支障が起こるかを具体的に検討するのはいかがでしょうか。図書館の中では「当然」と思っていることが、他部署や第三者からはなぜ当然かわからない、と言われることがあります。当然とされていることも一度言語化して再確認し、必要なことと、あると良いことの線引きを行うこともひとつかと思えます。
市民団体	・図書館や図書館職員だけでなく、図書館の主権者である市民も巻き込んで、その声聞いて 部会や委員会運営をしてほしい ・市民が会員登録しやすい会費やシステムを考えてほしい。

表 39 施設等問 10

施設等会員問 10 「日本図書館協会や図書館界についてのご意見を自由にお書きください」	
市区町村立図書館	- 財政と運営の危機: 自治体の予算削減が深刻化しており、資料費や施設維持費の確保に不安を感じています。これまでの理念を維持しつつも、営利活動の事例検討など、新たな資金繰りのあり方を模索すべきとの意見があります。 - 労働環境と専門性: 司書職の非正規化(会計年度任用職員の増加)が進行し、ベテランの減少によるレファレンス能力の低下が懸念されています。 - 国への働きかけ: 図書館運営には多大なマンパワーが必要であることを国に認識させ、司書資格者の採用支援や補助金制度を整えるよう、協会が強力にロビー活動を行うことが期待されています。 - 研修と情報提供: 地方では研修への参加ハードルが高いため、オンラインの活用や地方でのワークショップ開催など、参加手段の選択肢拡大が求められています。また、小規模な図書館にとって調査回答は大きな負担となっています。
都道府県立図書館	組織運営の再編: 協会の役割や強みを再定義し、一部の館に負担が偏らないよう委員会の再編・統合や

ICTによる効率化を進めるべきとの指摘があります。

- 大会運営の負担: 職員の半数が非正規である中、全国規模の大会主催は大きな負担となっており、開催頻度の見直しも提案されています。
- 認知度向上: 協会の功績を認めつつも、さらなる発展のために組織を活性化し、協会の存在を知る者を増やすための行動が必要とされています。

大学図書館

- 外部委託と専任職員の減少: 業務の全面委託や専任職員の削減が進む中で、協会がどのような役割を果たすべきか不透明だという意見があります。
- 他団体との関係: 国立・公立・私立の各大学図書館団体や協力委員会との活動が重複している面があり、役割の明確化や組織の再編を望む声があります。
- デジタル・最新課題への対応: 電子資料の取り扱いや生成 AI への対応など、タイムリーで高度な知識を要するテーマでの研修や指針の策定が求められています。
- 地位向上と求人: 館種を問わず図書館員の地位向上に向けた活動を強化すべきであり、協会の求人情報掲載における資格要件の柔軟化を求める意見もあります。

短大・高専図書館

- 人員体制の限界: 現場に常勤職員がいない、あるいは他部署との兼務といった極端な人手不足により、部会の役員を引き受ける人材の確保が限界に達しています。
- 部会のあり方の見直し: 現在の体制維持は困難であり、部会のあり方を根本的に見直すべき時期に来ているとの切実な訴えがあります。

専門図書館

- 認知と発信の不足: 協会の委員会活動などの情報が十分に届いておらず、敷居の高さを感じている館があります。
- 公共図書館偏重への疎外感: 基礎講座などの内容が公共図書館寄りであると感じることがあり、専門図書館も含めた全館種の労働環境底上げやスキルアップが望まれています。

市民団体・その他

- 市民の参画: 専門家や職員だけでなく、市民(図書館の主権者)も巻き込んだ運営や、市民が会員になりやすい会費システムの検討が求められています。
- 学校図書館の整備: 学校司書の全校配置など、学校図書館の充実に資する活動の比重を高めてほしいという要望があります。

共通の意見

1. 深刻な人手・予算不足と活動への負担

最も多くの館種で共通していたのは、「組織としての余力がない」という悲鳴に近い意見です。

- 人員削減と非正規化: 公共図書館では会計年度任用職員の増加、大学図書館では業務委託の進展や専任職員の削減が進行しており、現場の運営だけで精一杯という状況があります。
- 役員・委員選出の困難: 人手不足により、部会の役員や委員会の委員を出すことが物理的に困難になっており、特定の個人や館に負担が集中していることが懸念されています。
- 財政難: 自治体や学校法人の予算削減により、会費の支払いや研修への参加費用、出張費の捻出が厳しくなっています。

2. 組織の透明性と情報発信の強化

協会が「何をしているのか」「どのようなメリットがあるのか」が分かりにくいという指摘も、全般的に共通しています。

- 活動の見える化: 部会や委員会の目的・活動内容が十分に伝わっておらず、「敷居が高い」「内向きである」と感じられています。活動状況を Web サイト等で簡潔に分かりやすく発信することが求められています。
- 意思決定の透明性: 役員選出のプロセスを公募制にするなど透明性を高め、世代交代を促進すべきだという意見が目立ちます。

3. 時代に即した研修と参加手段の多様化

研修については、内容と形式の両面でアップデートが望まれています。

- タイムリーなテーマ: 電子資料の取り扱い、生成 AI への対応、著作権、アーカイブ公開など、実務に直結する最新課題を扱ってほしいという要望が共通しています。
- オンラインの活用: 地方の館や人手の足りない館でも参加できるよう、Zoom 等によるオンライン研修やアーカイブ配信の充実、対面との併用を求める声が非常に多く挙がっています。

4. 図書館の価値向上とロビー活動への期待

個別の館では解決できない制度的な課題に対し、協会が図書館界を代表して動くことへの期待が高まっています。

- 社会的地位の向上: 司書の専門性が過小評価されている現状に対し、「司書職の地位向上」や「労働環境の底上げ」に向けた強力な発信が求められています。
- 国・社会への働きかけ: 予算確保や司書配置の義務化などについて、文部科学省等の関係機関へ働きかける「ロビー活動」を最重要ミッションと捉える意見が複数の館種から出されています。

5. 調査・事務負担の軽減

協会から求められるアンケート等の調査回答や、全国大会の運営が現場の大きな負担になっているという不満も、共通の課題として挙げられています。活動の整理やスリム化、ICT 活用による省力化を求める声が出ています。

表 40 施設等問 10 全回答

市 区 町 村 立	物価高騰やフェイクニュースなど、情報の取り扱いが難しい昨今なので、図書館として情報の収集や保管等に努め、研鑽する必要があると感じる。
	調査が必要なことは重々承知しておりますが、小さい図書館で現場に正規職員がいない中、各調査のご依頼に対して回答をさせていただくのが、業務上とても負担です。
	図書館界全体で非正規雇用が増えたり、専門司書を置いている自治体も少なく、司書としての職務歴が短くなり、ベテランが減り、長年の経験で培われるレファレンスなどに不安が生じている。このあたりの問題を解決しないとレファレンス AI に司書としての仕事が取られてしまう危険があると感じる。
	図書館の運営(とくに経費面)について、教育への理解を求めるだけでは立ち行かなくなっていると感じる。 非営利ということその理念は絶対に譲れないものではあると思うが、だからこそ図書館の資金繰りについて考える時ではないだろうか。 利用者に選択を与えられるような形での営利活動など、事例検討されるべきではなかろうか？
	自治体の予算が厳しさを増しているなか、自治体のトップの考えや、住む場所によって全国の自治体図書館にもかなりの差があります。本市では資料費を含め施設等への図書館に関する予算も非常に厳しく、図書館職員の人数もギリギリで運営しているため、図書館に関する情報を得たり、学ぶ余裕もほとんどない状況でもあります。定期的に送っていただいている冊子や日本図書館協会発行の資料からなどから貴重な情報を得ておりますので、図書館に関する様々な情報提供を今後もお願いしたいと思います。
	司書資格を持っている人がたくさんいても、採用されるのは1人程度です。 どこの図書館でも(小規模の図書館であればあるほど)司書は1~2名いれば良いという認識が首長にあるからだと思います。 協会として、いかに図書館運営にはマンパワーが必要なのか、きめ細かいサービスを展開していて、到底、司書ひとりでは賄えないものであるかを認識していただけるように、国に働きかけてもらえればと思います。 図書館は今や、従来の在り方どころではなく生涯学習・公民館的な立場や、さまざまな受け皿としての機能を要求されています。 利用者のサービス要求も年々増えてきています。 そのすべてにこたえていくために、司書資格者採用を国として支援する体制(補助金制度など)を整えていってほしいと思いますし、 協会から国への働きかけを期待いたします。
	司書資格の取得制度について改善をお願いしたいと考えています。大学や短期大学を卒業していなくても、資格を取得しやすい仕組みはないでしょうか。図書館に必要な知識や能力を備えた人材は数多く存在しており、現行制度ではその力が十分に活かされていないように思われます。非常にもったいない状況ですので、制度の柔軟化をご検討いただければ幸いです。
	現場とのつながりを大切にしてほしいです。
	業務に対する考え方の整理や、今の流れなどの理解を深めたりと様々な面で役立っている。
	メールでの連絡がベタ打ちになっているため、連絡事項等はファイルで提供していただけるよう希望する。(代議員からのメール含む)
	いつも大変お世話になっております。貴団体のおかげで地方にいながらも図書館界全体の動きが把握できています。 図書館という視点から捉えた社会全体の動き、また逆に社会の中での図書館の役割を常に提示していただいていることを意義深く感じております。 図書館界の有識者以外からの委員の選定など、すでにこれまでも行われていたと思いますが、より広範囲の方々(特に若い方たち)のチカラが加わると新しい視点が生まれるのではないのでしょうか。

	・情報技術発達によって図書館司書の専門性やあり方が変化している。AIなど代替できない司書の役割を見出す必要がある。 ・図書館に求められるニーズの変化(まちづくり、人との交流)や今後の動きを図書館全体で考えていく必要がある。 生成 AI など、デジタル・テクノロジーが広く普及しているが、それを適切に使いこなすためには、人間が本来持っているアナログ的な思考力の強化が不可欠であり、子どもの読書活動の重要性は以前より高まっていると言える。それには、公立図書館の充実と言うまでもなく、各学校への学校司書の配置も含めた学校図書館の整備・充実が必要不可欠と言える。貴協会が展開している幅広い活動が、日本の図書館界を支えていることには敬意を表するが、今後は、学校司書の全校配置等も含めた学校図書館の整備・充実に資する活動の比重を、より一層高めていただくことを希望する。 人件費、施設整備費や資料購入費等、図書館費全般における予算(財源)が縮小に転じており、今後の図書館運営、サービスの維持、充実に不安がある。 情報提供や、関連する出版物は常に参考にさせていただいている。しかしながら、予算不足、人材不足が顕在化しているのに対して、一方では新たな図書館の動きが進んでいる。思うに、国や社会が進めたい、あるいは求める図書館の姿についていけない、図書館は少なくないと思う。今後、なお一層、レベル格差が起こらないか心配である。
都道府県立	日本図書館協会は、戦後直後の図書館法制定に始まり、公共図書館を社会に根付かせるための取組みに多大な功績があったと考える。 日本図書館協会には、そうした実績を踏まえるとともに、組織運営を活性化することにより、これからの図書館発展のため、一層の取組み強化をお願いしたい。 地区・全国規模での大会が多く、開催県を探すのにご苦労されていると伺っています。当館も職員の半数が会計年度任用職員で、通常の館運営に加えて大会主催となると大変な負担となります。 大会を減らすことも考慮に入れてはどうでしょうか。
学校	「本を利用してもらう」だけでなく、「施設内で勉強してもらう」のも図書館にとって大事な存在意義なのかなと最近思うようになってきました…。 日本図書館協会さんには、会誌発行していただいたり、研修、大会、ありがとうございます。勉強になっております。 今後ともよろしくお願いいたします。
大学	本学の場合、私図協に所属しており、日図協や他の団体との関係性も不明確で、複数の団体に所属しているメリットが感じられません。図書館界全体の関係性やそれぞれの役割の明確化や統一・統合的な図書館界の再編が望まれます。これらが不透明ですので、私図協も含めた各種団体については退会も視野に入れています。 部会や委員会に限らず、会員が主体的・活発に活動できるような取組もご検討いただくとともに、実務担当者が自由に意見交換できる場(SNS 的な仕組み)の整備や、既存の出版物・メルマガ等の見直しを含めた、より効果的な情報共有の仕組みづくりを進めていただけると、時間的な制約がある中での情報収集の面で大変助かります。 漠然と「本が好き」な人がなる職業のような認識を改め、館種の違いがあること、それぞれにどのような社会的意義があるのか、「本」と直接関わること以外にどのような業務があるのかなど、「本が好き」な人以外にも就職先として選択の一つに考えてもらえるよう周知すること。 社会的地位の向上(正規職員として働ける場所が少なすぎる)。大卒の就職先の一つとして図書館司書を選べるような道りを作る必要がある。 日本図書館協会さんのホームページの多分野の沢山の情報、当学の図書館運営上も大変ありがたいです。 難しい時代の舵取りご苦労様です。先日放送された NHK の「クローズアップ現代」で岐阜の図書館等の紹介をされていました。これまでの常識にとらわれず、まずは人に来てもらうことが大事と感じました。 著作権法も大事ですが、収集して後世が利用できるようにしないと文化は継承しません。既存の図書館の概念を変える努力と超法規的収集が今後必要になると感じます。 大学図書館部会の会員として回答いたします。問6(2)⑩でも触れたとおり、大学図書館の主たる団体活動の場は、国立/公立/私立の各図書館団体と、それらを統合する国公私立大学図書館協力委員会であることから、現状、部会活動を大きく変える必要は感じておりません。しかしながら、JLA 傘

下に設置されていることで、より広い視点から活動できる場を得ていること、シンポジウム共催のような双方の活動の接続ができていることに意義を感じております。
大学図書館業界には各種団体・組織等があり、いくつもの団体等で活動の幅を広げることが難しいと感じます。
組織に余力がなく職員を委員に出すことができない
図書館法に規定されない図書館の求人情報を掲載できるよう、「図書館職員求人情報一覧」への掲載条件として、応募資格に「司書(補)有資格者(取得見込を含む)」を必須とする要件を外すべき。
図書館数などの面からも日本図書館協会の活動が公共図書館に偏重してしまうことは否めず、大学図書館の立場からはあまり期待していない。
図書館関係の情報がHPに集約されているので、とても助かっています。
図書館界全体が人員や予算の縮減、サービスの高度化への対応など、多くの課題を抱える中で、日本図書館協会が果たす役割は、これまで以上に重要になっていると感じます。個々の館では取り組みきれない制度的課題への働きかけや、実務に役立つ基準・ガイドラインの整備、館種を超えた知見の共有など、協会が担える部分は多いと思います。そのためにも、協会が会員にとって参加しやすく、意見を発しやすく、互いに学び合える「開かれた場」になることを期待しています。特に、館種や地域規模による分断を越え、さまざまな立場の知恵を持ち寄れる仕組みがあると、図書館界全体の力がより高まるように思います。協会が、そのような交流と連携を支える役割を果たしていくことを願っています。
図書館界は、大きく変わろうとしています。図書館で地域のイベントを開催したり(炬燵あり、焼き肉パーティー、マルシェなど様々)と、以前の図書館と様変わりしています。私は賛成です。ですので、本学は短期大学ですので、これからの短大図書館の在り方について思考中です。
図書館員のための地位向上に関する活動を積極的に行っていただきたいと思います。公共図書館に勤める図書館員を中心に行っていってほしいかと思いますが、図書館員の地位が低いのは館の種類を問わないと思います。学校図書館、大学図書館に勤める方たちにも目を向けていただければと思います。
司書職の委託などによる非正規化の広がりにより優秀な人材の確保や育成が困難な状況に懸念
昨年度まで公共図書館で9年(TRC)、今年転職をして大学図書館に勤務しています。本校では、図書館が司書1名体制であり、他の部署も1部署1名体制という人手不足・かつ経営方針で人件費をなるべくかけたくないらしく、約5万冊を1人で管理しています。これまで5年間で5人目の入れ替わり、温湿度も管理されておらず、カビがひどい本の数々。。。司書の仕事は好きです。でも昼休憩もきちんととれない、私が休む＝図書館休館になるというプレッシャー。引継ぎがほとんどないままここまで8か月やってきました。司書の仕事の大切さが回りに伝わらないもどかしさ、司書の仕事を続けたいけど、給料も少ない、実家暮らしでないと生活が厳しいなどなど、司書の仕事に限界を感じつつあります。次も図書館に行きたいところですが、今のところ別の職種も検討しています。図書館界全体で、司書に対しての改善に動いてほしいです。TRCで辞めた理由は、早期退職で着任した館長がひっきりなしに入れ替わる。図書館への理解がない。いくら良い司書になろうとたくさん本を読んで、子どもたちに良い本を手渡していきたいと思っても、積み重ねてきたものがあっても、手放そうかと考えてしまう日々です。先日先に退職して埼玉県司書をしている先輩から、埼玉県立図書館の臨時任用の応募をしないかと言われ、応募がなくて困っている。と。求人を見たら、1/1-3/31まで。それじゃあ転職してもまた転職先を探す必要がでてくる。ましてや11/26までの応募で話が来たのが11/24。こんなのでは働きたいと思う人はほとんどいないのでは。。資格が必要で、よりよくと思って働いていましたが、そういう気持ちのある人の少なさ、向上心のなさは、給与や労働環境にも原因がある気がします。もっと働きたいと思える仕事、なくてはならない仕事であってほしいです。今働いている大学図書館も、今年度で退職する予定です。今年度カビ対策で温湿度計導入・除湿器導入・アルコールでカビのふき取りしましたが、これ以上はちょっと無理です。

	現場の人手不足や非常勤スタッフの増加などの問題は度々取り上げられているが、いざ、余力がなく活動や研修に参加できない問題についての解決策や対応がまだ少ないように思う。現状は法改正やスキルアップへの対応すら難しいので、こうした点にも皆で取り組めていけたら良いと思う。
	活動内容がよくわからず、会員でいることで業務のプラスとなっている感覚がない。むしろ会費の支払いや調査の負担のほうが大きい。 毎年同じ内容を惰性で続けているのではないかしら、と思います。
	アンケート調査は、法人から苦言が図書館に来ている状況である。経費等まで必要であるか、再検討して欲しい。代議員選出について、選出母体の任期を尊重して欲しい。
	日本図書館協会の存在意義が、内部の会員だけでなく、外部の図書館界を取り巻く関係者から理解される活動が重要と思う。内向きにならず、常に図書館界の環境変化を意識した外向きの視点が必要である。特に出版や新聞・雑誌など著作物の生産・流通を支える業界や、行政の一環として教育・研究の維持・向上による経済活動の活性化、文化振興による国際評価の向上などの政策立案にかかわる文科省や文化庁、総務省、経産省などとのコミュニケーションやロビー活動は、国立国会図書館とともに日本の図書館界を代表する組織として外部から見なされている日本図書館協会の最重要ミッションと考える。少子高齢化とデジタル化が急速に進展する我が国において、これらの関係者を結び付け、広い世代の国家の文化・健康、我が国の活躍につながる教育・研究の振興に貢献するハブとして、各種の図書館がそれぞれの役割を果たせることが理想ではないか。
	「日本の図書館：統計と名簿」は国内の図書館の重要な統計書であると考え。今後も途切れることなく継続して刊行いただきたい。 個々の図書館の財政上の危機は今に始まったことではないが、さらに深刻化している。日本図書館協会としてどのような対策が可能か検討いただきたい。 対策の例：図書館関係の他の協会等との協働、文部科学省へ補助制度申し入れ、トピックを定めてのクラウドファンディングなど。また、検討内容を周知いただきたい。
	大学図書館部会に参加していますが、大学の方針で図書館業務の外部委託も進み、図書館の専任職員が削減されています。一方で図書館間での連携や外部団体とのやりとりなど、外部への委託ではできない業務も多数あり、図書館専任職員の負担が以前にも増して増えています。かつては大学の図書館職員は司書の資格を持ち、長年図書館で勤務する専門職という位置づけでしたが、そのありようが大きく変わってきています。このような大きな変化が生じている中、日本図書館協会としてはどのような役割を果たしていくのかが見えにくいというのが現状ではないかと思います。大学図書館ではさまざまな連携団体があります。大学図書館ではオープンアクセス化への対応、生成 AI の出現によるレファレンス業務の変容など、高度な知識をもとに対応が必要な業務もあります。しかし、これらは特に日本図書館協会に頼ることなく国立情報学研究所や大学間連携での情報共有で対応できているというのが現状です。日本図書館協会として、世の中の大きな変化にどのように対応するのが求められているように感じます。 なお、アメリカではトランプ政権になってから公共図書館の蔵書内容について制限をかけるような動きがあり、これは日本図書館協会 図書館の自由委員会の報告にもありました。日本においても「図書館の自由に関する宣言」に反する動きが生じないとも限りませんので、その時のためには日本図書館協会のような団体が設置されており、常に図書館の自由に関する意義を発信し続けることは、とても大切なことであると考えます。
短大高専	長きにわたり短期大学・高等専門学校図書館部会の役員をしております。以下は私の個人的見解として書かせていただきます。 高専図書館の職場の人員体制は非常に厳しく、図書館現場に常勤がいない、図書館を担う係が他の部署と併任されている、図書館系でない担当者が3年で他の係に異動になる、というのが現状です。このような状況下で部会の役員を受けてくれる人材を探すことは極めて困難となっています。仮に私の後任が見つかったとしても、役員を引き継いでいく仕組みがないと、その方が後任探しをする際に、また苦勞することになります。 これもネックとなり、適任者と思う方に打診しても断られます。また約3分の1の高専が施設会員を退会しているのもマイナス要因です。 以上のことから、部会のあり方を根本的に見直す時期にきているように思います。 検討の参考にしていただければ幸いです。 上記回答が理想ですが、現在は全面外部委託に伴い、業務上で中四国関連の総会・部会のみ参加しており、その他は参加ができない状況です。

	週に一度、メールマガジンが始まり、講習会や集会、著作権セミナーなどの情報が確認できるようになり、非常に重宝しています。図書館雑誌についても、AI 活用法などためになる事例紹介が多く、広い世界を知ることができ、ありがたく思っています。 電子書籍や電子ジャーナルなど、図書館へ行かなくても情報が入手しやすいが、自分が望む分野だけに偏る場合もある。しかし、なんとなくインスピレーションで手に取った本にはまったり、視野を広げる体験は貴重ですので、図書館で新たな出会いを探すことができ、しかも経済的でエコであることをもっとみんなに伝えていく意義はあると思います。それを小さな頃から体験していると本好きに成長するかもしれませんので、例えば保育園や学童の活動の一つに近所の公共図書館へ行く機会があればよいのではないかと考えます。最も公共図書館において、大人の図書と児童書コーナーを完全に分けて設定されている前提で、子どもが騒いでも問題ない環境であればよいのではないかと考えます。
専門	日本図書館協会の活動についてはなんとなく敷居が高く感じています(実際がわかりませんが、かなりベテランの方がされているというイメージがあります)。 当館は規模の小さい専門図書館です。専門職員は1名で他の業務も兼務しているため、入力作業もはかどらない状況です。また、数年のうちには閉館の可能性があり、その場合蒐集した資料を受け入れて下さる場所を探している状態です。協会のことや図書館界のことまでは、申し訳ありませんが考えられない状況です。 何度かの司書職での転職を経て、非正規雇用が多い職場とそうではない職場の温度差を感じている。全館種の労働環境が底上げ・改善されることを望む。 ちゃんと会報等を読んでいないのかもしれませんが、部会も委員会も活動内容が頭に残っていないというのは、あんまり業務に役立ちそうと思うものがないのだと思います。公的なものがどんどん細り、図書館員の待遇改善の見通しもたない中、図書館員が協同してモチベーションを保っていくために、こういうネットワークは今の時代にこそ必要とされるとは思うのですが…。 また、過去に参加した図書館基礎講座。『図書館基礎講座』は、図書館で働くすべての人を対象に「雇用形態や職務内容、経験年数を問わず、どなたでもご参加いただけます。」といいながら、専門図書館の人間が参加すると、なぜ参加しているのかといった声を投げかけられた。専門といいながら公共に解放している図書館なので、講座の内容自体はとても良いものであったが、公立図書館を対象としているのならすべての人を対象とか、開かれた学びの場などと言わなければ良いのにと、大変、残念で嫌な思いをした。 「会員向けアンケートのご協力をお願い」に「会員数の減少や厳しい財務状況」とありましたが、当館も同じように人員・予算とも厳しい状況です。人員・予算が厳しいため、当館にとっては日本図書館協会から発信される情報の重要性が増しているのですが、日本図書館協会の活動に協力する余力がなく、活動の維持に貢献できておらず申し訳ありません。 法改正に伴う必要な対応や注意点の洗い出しなどの情報のまとめは、本当に大変助かっています。少子化や電子資料の普及で今後も予算や人員削減が進むことが予想されますが、知る権利の保障など、図書館の役割はより重要になると思います。
市民団体	・理事長推薦の常任理事は8名いらっしゃいますが、地方代議員推薦地方理事は4名です。地方理事を増やし、会員、代議員とのパイプを太くすることが必要でないでしょうか。そうすることによって各地域の住民、図書館を把握できる可能性が見えてくると思います。 ・会員の声を運営に活かしていくにはどうすればいいかの工夫をお願いしたい。 ・全国図書館大会分科会など市民が参加しやすい運営方法について更に検討していただきたい

付録 会員アンケートのクロス集計データ

個人会員向けアンケート、施設等会員向けアンケートの選択肢による調査項目(個人問 1～7, 施設等問 1～8)の回答の集計データならびに自由記述による調査項目(個人問 8～10, 施設等問 9, 10)の回答の AI ツールを用いたまとめは本文に示している。

以下,ここでは,選択肢による調査項目間でのクロス集計を示す。

1. 個人会員アンケート

(1) 問 1(年齢)と他の問の回答とのクロス集計

(2) 問 4(所属部会)と他の問の回答とのクロス集計

2. 施設等会員アンケート

館種・設置主体等(問1)と他の問との間のクロス集計

なお,クロス集計表の中で年齢,所属部会,館種・設置主体等の各属性に対してデータが 2 行になっているものについては,上段が回答数,下段が当該属性の中での回答割合(%)を示している。

以下は会員アンケートの調査項目である。選択項目については当該調査項目に対する集計表の中に示している。

個人会員アンケート調査項目

問1 あなたの年代について教えてください

問2 あなたの現在の立場として最もふさわしいものを選んでください

問3 あなたの会員区分を教えてください。

問 4 あなたが所属している部会を教えてください。(複数選択可)

問 5 部会について

(1)部会に対して当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

(2)部会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数回答可)

問6 委員会について

(1)委員会に対して,あなたが当てはまるものを選んでください(複数回答可)

(2)委員会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数回答可)

問7 あなたが日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください。(複数回答可)

問 8 あなたの部会や委員会の活動に対してのご意見を自由にお書きください。

過去に部会役員や委員会委員の経験がある方はそれを辞めた理由もご記入いただくと参考になります。

問 9 今後,日本図書館協会をより良くするための知恵,具体的なアイデアを自由にお書きください。

問 10 現在並びに今後の日本図書館協会や図書館界についてのご意見を自由にお書きください。

施設等会員アンケート調査項目

問1 貴組織の館種または団体種別をお答えください

問2 貴組織が所属している部会を教えてください

問3 貴組織の会員区分はどれですか?

問4 貴組織は会員として,部会役員(正副部会長,幹事)や代議員を担ったことはありますか(複数回答可)

問5 貴組織には委員会委員または部会役員に委嘱されている職員・会員はいますか(複数回答可)

問6 部会について

(1)貴組織が所属している部会について当てはまるものを選んでください(複数回答可)

(2)部会をより活発にするためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)

問7 委員会について

(1)委員会活動について、貴組織が当てはまるものを選んでください(複数回答可)

(2)委員会をより活発にするためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)

問8 貴組織が日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください。(複数回答可)

問9 日本図書館協会をより良くするための知恵, 具体的なアイデアをお書きください。

問10 日本図書館協会や図書館界についてのご意見を自由にお書きください。

付録1 個人会員アンケートのクロス集計

(1) 会員年齢(問1)と各問のクロス集計

問2 あなたの現在の立場として最もふさわしいものを選んでください(一意選択)									
①	現役の図書館職員								
②	現役の司書課程教員・図書館情報学領域の研究者								
③	図書館職員の経験を持ち現在は他の職場で働く現職者(例:自治体の他部門の職員など)								
④	元図書館職員(退職者)								
⑤	元司書課程教員・図書館情報学領域の研究者(退職者)								
⑥	図書館関係の団体や市民グループのメンバー								
⑦	上記以外の図書館関係者(例:司書教諭, 関連企業職員など)								
⑧	その他(例:学生, 一般市民など)								
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
20代以下	8	6	0	0	0	0	0	0	2
		75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
30代	24	18	1	2	0	0	1	1	1
		75.0%	4.2%	8.3%	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	4.2%
40代	73	57	7	2	3	0	0	2	2
		78.1%	9.6%	2.7%	4.1%	0.0%	0.0%	2.7%	2.7%
50代	148	115	9	11	4	0	0	6	3
		77.7%	6.1%	7.4%	2.7%	0.0%	0.0%	4.1%	2.0%
60代	111	37	17	10	26	3	5	6	7
		33.3%	15.3%	9.0%	23.4%	2.7%	4.5%	5.4%	6.3%
70代以上	44	2	4	2	18	7	8	1	2
		4.5%	9.1%	4.5%	40.9%	15.9%	18.2%	2.3%	4.5%
合計	408	235	38	27	51	10	14	16	17
		57.6%	9.3%	6.6%	12.5%	2.5%	3.4%	3.9%	4.2%

問3 あなたの会員区分を教えてください(一意選択)					
	人数	①正会員A	②正会員B	③準会員	④賛助会員
20代以下	8	7	0	1	0
		87.5%	0.0%	12.5%	0.0%
30代	24	22	2	0	0

		91.7%	8.3%	0.0%	0.0%
40代	73	59	14	0	0
		80.8%	19.2%	0.0%	0.0%
50代	148	126	20	1	1
		85.1%	13.5%	0.7%	0.7%
60代	111	100	9	1	1
		90.1%	8.1%	0.9%	0.9%
70代以上	44	33	8	1	2
		75.0%	18.2%	2.3%	4.5%
合計	408	347	53	4	4
		85.0%	13.0%	1.0%	1.0%

問4 あなたが所属している部会を教えてください(複数選択)

①公共図書館部会, ②大学図書館部会, ③短期大学・高等専門学校図書館部会,
④学校図書館部会, ⑤専門図書館部会, ⑥図書館情報学教育部会,
⑦所属なし, ⑧どの部会に所属しているかわからない

	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
20代以下	8	3	0	0	2	0	0	2	1
		37.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%
30代	24	10	5	0	2	1	1	6	0
		41.7%	20.8%	0.0%	8.3%	4.2%	4.2%	25.0%	0.0%
40代	73	40	11	0	5	4	4	4	8
		54.8%	15.1%	0.0%	6.8%	5.5%	5.5%	5.5%	11.0%
50代	148	78	7	2	24	6	9	12	11
		52.7%	4.7%	1.4%	16.2%	4.1%	6.1%	8.1%	7.4%
60代	111	52	12	1	16	7	14	9	10
		46.8%	10.8%	0.9%	14.4%	6.3%	12.6%	8.1%	9.0%
70代以上	44	20	1	2	4	4	7	6	3
		45.5%	2.3%	4.5%	9.1%	9.1%	15.9%	13.6%	6.8%
合計	408	203	36	5	53	22	35	39	33
		49.8%	8.8%	1.2%	13.0%	5.4%	8.6%	9.6%	8.1%

問5(1) 部会に対して当てはまるものを選んでください(複数選択)

- ① 部会の活動に参加したい
② 複数の部会の活動に参加したい。
③ 部会の目的や役割がよく分からない
④ 部会でどのような活動をしているかわからない
⑤ 部会の活動への参加方法が分からない
⑥ 部会については関心がない
⑦ その他(具体的に記入してください)

	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
20代以下	8	0	1	2	6	3	0	2
		0.0%	12.5%	25.0%	75.0%	37.5%	0.0%	25.0%

30代	24	5	2	8	17	10	2	0
		20.8%	8.3%	33.3%	70.8%	41.7%	8.3%	0.0%
40代	73	14	7	13	39	23	10	8
		19.2%	9.6%	17.8%	53.4%	31.5%	13.7%	11.0%
50代	148	32	16	33	64	43	16	22
		21.6%	10.8%	22.3%	43.2%	29.1%	10.8%	14.9%
60代	111	25	17	19	42	37	11	13
		22.5%	15.3%	17.1%	37.8%	33.3%	9.9%	11.7%
70代以上	44	8	4	8	16	7	5	9
		18.2%	9.1%	18.2%	36.4%	15.9%	11.4%	20.5%
合計	408	84	47	83	184	123	44	54
		20.6%	11.5%	20.3%	45.1%	30.1%	10.8%	13.2%

問5(2) 部会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数選択)												
① 自分が取組みたいテーマに関する活動提案が自由にできること ② 部会員として部会活動により自由に参画できる仕組みを整備すること ③ 部会活動が分かるようにすること ④ 部会の役員等の選出については、公募も含め透明性を高めること ⑤ 部会役員の世代交代を行いやすくすること ⑥ 部会事業について、部会員として提案できること ⑦ 部会活動を基とした出版活動をする ⑧ わからない ⑨ 関心がない、あるいは自分には関係ない ⑩ 特に活発にする必要はない ⑪ その他(具体的に記入してください)												
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
20代以下	8	1	3	4	0	0	0	2	2	0	0	0
	(%)	12.5	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
30代	24	7	10	19	3	4	1	3	0	3	0	1
	(%)	29.2	41.7	79.2	12.5	16.7	4.2	12.5	0.0	12.5	0.0	4.2
40代	73	15	22	43	11	16	8	4	12	3	1	6
	(%)	20.5	30.1	58.9	15.1	21.9	11.0	5.5	16.4	4.1	1.4	8.2
50代	148	32	58	91	23	27	23	10	17	1	6	12
	(%)	21.6	39.2	61.5	15.5	18.2	15.5	6.8	11.5	0.7	4.1	8.1
60代	111	29	57	73	24	31	32	11	7	3	0	13
	(%)	26.1	51.4	65.8	21.6	27.9	28.8	9.9	6.3	2.7	0.0	11.7
70代以上	44	8	10	26	9	10	10	8	4	0	0	1
	(%)	17.4	21.7	56.5	19.6	21.7	21.7	17.4	8.7	0.0	0.0	2.2
合計	408	92	160	256	70	88	74	38	42	10	7	33
	(%)	22.5	39.2	62.7	17.2	21.6	18.1	9.3	10.3	2.5	1.7	8.1

問6(1) 委員会に対して、あなたが当てはまるものを選んでください(複数選択)							
① 自分も委員会に参加したい ② 委員会の目的や役割がよく分からない ③ 委員会でどのような活動をしているかよく分からない ④ 委員会への参加方法が分からない ⑤ 委員会への関心はない ⑥ その他(具体的に記入してください)							
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥
20代以下	8	1	3	5	4	0	0
		12.5%	37.5%	62.5%	50.0%	0.0%	0.0%
30代	24	4	3	12	6	4	2
		16.7%	12.5%	50.0%	25.0%	16.7%	8.3%
40代	73	13	10	29	25	13	12
		17.8%	13.7%	39.7%	34.2%	17.8%	16.4%
50代	148	14	34	67	43	17	37
		9.5%	23.0%	45.3%	29.1%	11.5%	25.0%
60代	111	14	22	48	43	10	23
		12.6%	19.8%	43.2%	38.7%	9.0%	20.7%
70代以上	44	6	8	13	4	5	9
		13.6%	18.2%	29.5%	9.1%	11.4%	20.5%
合計	408	52	80	174	125	49	83
		12.7%	19.6%	42.6%	30.6%	12.0%	20.3%

問6(2) 委員会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数選択)												
① 自分が取り組みたいテーマに関する委員会やプロジェクトを立ち上げられること ② 委員でなくても、企画提案など委員会活動に参画できるしくみ ③ 委員会の活動が分かるようにすること ④ 委員については公募を含め、選定の透明性を高めること ⑤ 委員の世代交代を行いやすくすること ⑥ 研修やセミナーの内容を提案できるようにすること ⑦ 図書館業務に役立つ出版物が出ること ⑧ 関心がない、自分には関係がない ⑨ 特に活発にする必要はない ⑩ わからない ⑪ その他(具体的に記入してください)												
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
20代以下	8	2	1	6	0	1	3	3	0	0	1	1
	(%)	25.0	12.5	75.0	0.0	12.5	37.5	37.5	0.0	0.0	12.5	12.5
30代	24	3	9	14	4	4	2	9	3	0	0	2
	(%)	12.5	37.5	58.3	16.7	16.7	8.3	37.5	12.5	0.0	0.0	8.3
40代	73	11	18	38	14	19	8	10	2	4	13	4
	(%)	15.1	24.7	52.1	19.2	26.0	11.0	13.7	2.7	5.5	17.8	5.5

50代	148	27	44	96	23	31	27	32	1	3	14	11
	(%)	18.2	29.7	64.9	15.5	20.9	18.2	21.6	0.7	2.0	9.5	7.4
60代	111	23	44	77	38	32	35	28	2	1	3	8
	(%)	20.7	39.6	69.4	34.2	28.8	31.5	25.2	1.8	0.9	2.7	7.2
70代 以上	44	8	13	24	17	15	7	13	0	0	3	2
	(%)	18.2	29.5	54.5	38.6	34.1	15.9	29.5	0.0	0.0	6.8	4.5
合計	408	74	129	255	96	102	82	95	8	8	34	28
	(%)	18.1	31.6	62.5	23.5	25.0	20.1	23.3	2.0	2.0	8.3	6.9

問7 あなたが日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください(複数選択)									
① 日本図書館協会の事業目的に賛同している ② 日本図書館協会の部会・委員会で活動したい ③ 知人から入会を勧められた ④ ④『図書館雑誌』を入手できる ⑤ 日本図書館協会主催の研修に割引料金で参加できる ⑥ 日本図書館協会の出版物が会員価格で購入できる ⑦ 図書館員を職業とするなら会員であるのが当然と考えている ⑧ ⑧その他(具体的に記入してください)									
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
20代以下	8	3	1	2	6	2	1	1	2
		37.5%	12.5%	25.0%	75.0%	25.0%	12.5%	12.5%	25.0%
30代	24	12	1	7	12	2	5	6	4
		50.0%	4.2%	29.2%	50.0%	8.3%	20.8%	25.0%	16.7%
40代	73	34	8	13	30	9	8	29	11
		46.6%	11.0%	17.8%	41.1%	12.3%	11.0%	39.7%	15.1%
50代	148	68	13	25	65	19	22	82	22
		45.9%	8.8%	16.9%	43.9%	12.8%	14.9%	55.4%	14.9%
60代	111	62	16	11	56	11	20	60	15
		55.9%	14.4%	9.9%	50.5%	9.9%	18.0%	54.1%	13.5%
70代以上	44	30	4	3	15	2	3	20	5
		68.2%	9.1%	6.8%	34.1%	4.5%	6.8%	45.5%	11.4%
合計	408	209	43	61	184	45	59	198	59
		51.2%	10.5%	15.0%	45.1%	11.0%	14.5%	48.5%	14.5%

(2) 所属部会(問4)と他の各問のクロス集計

以下の集計データにおいて、所属部会の選択肢「所属なし」と「所属部会不明」はひとまとめにしている。なお、個人会員は複数部会に所属するケースがある。

問2 あなたの現在の立場として最もふさわしいものを選んでください 一意選択								
① 現役の図書館職員 ② 現役の司書課程教員・図書館情報学領域の研究者 ③ 図書館職員の経験を持ち現在は他の職場で働く現職者(例:自治体の他部門の職員など) ④ 元図書館職員(退職者) ⑤ 元司書課程教員・図書館情報学領域の研究者(退職者) ⑥ 図書館関係の団体や市民グループのメンバー ⑦ 上記以外の図書館関係者(例:司書教諭, 関連企業職員など) ⑧ その他(例:学生, 一般市民など)								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
公共	133	10	19	28	2	5	3	3
大学	23	2	2	7	1	0	0	1
短大高専	3	1	0	0	1	0	0	0
学校	29	3	2	6	0	1	7	5
専門	14	2	1	3	1	1	0	0
教育	1	21	3	2	6	2	0	0
所属無+不明	33	7	2	6	1	6	6	8

問3 あなたの会員区分を教えてください 一意選択				
	①正会員A	②正会員B	③準会員	④賛助会員
公共	179	23	0	1
大学	30	6	0	0
短大高専	4	1	0	0
学校	46	6	1	0
専門	19	3	0	0
教育	34	1	0	0
所属無+不明	49	14	3	3

問4 あなたが所属している部会を教えてください 複数選択									
①公共図書館部会, ②大学図書館部会, ③短期大学・高等専門学校図書館部会, ④学校図書館部会, ⑤専門図書館部会, ⑥図書館情報学教育部会, ⑦所属なし, ⑧どの部会に所属しているかわからない									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計
公共	203	0	0	0	0	5	0	0	208
大学	0	36	0	0	0	4	0	0	40
短大高専	0	0	5	0	0	0	0	0	5
学校	0	0	0	53	0	4	0	0	57

専門	0	0	0	0	22	2	0	0	24
教育	5	4	0	4	2	35	0	0	50
所属無＋不明	0	0	0	0	0	0	38	31	69
合計 (延所属数)	208	40	5	57	24	50	38	31	453

問5(1) 部会に対して当てはまるものを選んでください 複数選択								
① 部会の活動に参加したい ② 複数の部会の活動に参加したい。 ③ 部会の目的や役割がよく分からない ④ 部会でどのような活動をしているかよく分からない ⑤ 部会の活動への参加方法が分からない ⑥ 部会については関心がない ⑦ その他(具体的に記入してください)								
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
公共	208	31	18	41	98	68	25	24
		14.9%	8.7%	19.7%	47.1%	32.7%	12.0%	11.5%
大学	40	8	3	9	17	10	4	3
		20.0%	7.5%	22.5%	42.5%	25.0%	10.0%	7.5%
短大高専	5	2	2	0	2	2	0	2
		40.0%	40.0%	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	40.0%
学校	57	25	13	4	12	8	1	8
		43.9%	22.8%	7.0%	21.1%	14.0%	1.8%	14.0%
専門	24	3	1	5	4	3	3	8
		12.5%	4.2%	20.8%	16.7%	12.5%	12.5%	33.3%
教育	50	12	12	7	11	2	1	3
		24.0%	24.0%	14.0%	22.0%	4.0%	2.0%	6.0%
所属無＋不明	69	6	6	19	45	32	10	7
		6.7%	6.7%	21.3%	50.6%	36.0%	11.2%	7.9%
延所属数	453	87	55	85	189	125	44	55
		19.2%	12.1%	18.8%	41.7%	27.6%	9.7%	12.1%

問5(2) 部会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか 複数選択	
① 自分が取組みたいテーマに関する活動提案が自由にできること ② 部会員として部会活動により自由に参画できる仕組みを整備すること ③ 部会活動が分かるようにすること ④ 部会の役員等の選出については、公募も含め透明性を高めること ⑤ 部会役員の世代交代を行いやすくすること ⑥ 部会事業について、部会員として提案できること	

⑦ 部会活動を基とした出版活動をすること ⑧ わからない ⑨ 関心がない,あるいは自分には関係ない ⑩ 特に活発にする必要はない ⑪ その他(具体的に記入してください)												
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
公共	208	43	79	130	37	43	36	20	23	4	2	10
	(%)	20.7	38.0	62.5	17.8	20.7	17.3	9.6	11.1	1.9	1.0	4.8
大学	40	8	16	25	8	10	8	2	2	2	1	2
	(%)	20.0	40.0	62.5	20.0	25.0	20.0	5.0	5.0	5.0	2.5	5.0
短大高専	5	0	1	2	1	1	2	1	1	0	0	0
	(%)	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
学校	57	18	26	27	9	13	8	8	3	1	1	6
	(%)	31.6	45.6	47.4	15.8	22.8	14.0	14.0	5.3	1.8	1.8	10.5
専門	24	2	8	13	1	5	5	1	2	1	0	5
	(%)	8.3	33.3	54.2	4.2	20.8	20.8	4.2	8.3	4.2	0.0	20.8
教育	50	12	12	22	4	8	7	3	3	0	0	5
	(%)	24.0	24.0	44.0	8.0	16.0	14.0	6.0	6.0	0.0	0.0	10.0
所属無+不明	69	20	25	45	14	14	12	6	8	2	3	6
	(%)	29.0	36.2	65.2	20.3	20.3	17.4	8.7	11.6	2.9	4.3	8.7
延所属数	453	103	167	264	74	94	78	41	42	10	7	34
	(%)	22.7	36.9	58.3	16.3	20.8	17.2	9.1	9.3	2.2	1.5	7.5%

問 6(1)委員会に対して、あなたが当てはまるものを選んでください 複数選択							
① 自分も委員会に参加したい ② 委員会の目的や役割がよく分からない ③ 委員会でどのような活動をしているかよく分からない ④ 委員会への参加方法が分からない ⑤ 委員会への関心はない ⑥ その他(具体的に記入してください)							
	人数	①	②	③	④	⑤	⑥
公共	208	30	39	80	65	22	47
		14.4%	18.8%	38.5%	31.3%	10.6%	22.6%
大学	40	4	12	20	7	4	5
		10.0%	30.0%	50.0%	17.5%	10.0%	12.5%
短大高専	5	0	0	1	1	1	1
		0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
学校	57	6	8	20	17	7	16
		10.5%	14.0%	35.1%	29.8%	12.3%	28.1%
専門	24	0	3	9	4	4	5
		0.0%	12.5%	37.5%	16.7%	16.7%	20.8%

教育	50	8	6	17	10	1	6
		16.0%	12.0%	34.0%	20.0%	2.0%	12.0%
所属無+不明	69	9	14	37	26	10	6
		13.0%	20.3%	53.6%	37.7%	14.5%	8.7%
延所属数	453	57	82	184	130	49	86
		12.6%	18.1%	40.6%	28.7%	10.8%	19.0%

問 6(2) 委員会活動をより活発にするためには何が必要だと思いますか 複数選択												
① 自分が取り組みたいテーマに関する委員会やプロジェクトを立ち上げられること ② 委員でなくても、企画提案など委員会活動に参画できるしくみ ③ 委員会の活動が分かるようにすること ④ 委員については公募を含め、選定の透明性を高めること ⑤ 委員の世代交代を行いやすくすること ⑥ 研修やセミナーの内容を提案できるようにすること ⑦ 図書館業務に役立つ出版物が出ること ⑧ 関心がない、自分には関係がない ⑨ 特に活発にする必要はない ⑩ わからない ⑪ その他(具体的に記入してください)												
	人 数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
公共	20 8	35	60	127	46	56	41	46	3	2	20	12
		16.8%	28.8 %	61.1%	22.1%	26.9 %	19.7%	22.1%	1.4%	1.0%	9.6%	5.8%
大学	40	6	13	26	9	11	11	9	1	2	2	1
		15.0%	32.5 %	65.0 %	22.5 %	27.5 %	27.5 %	22.5 %	2.5 %	5.0 %	5.0%	2.5%
短大 高専	5	1	1	2	0	0	2	1	0	0	1	0
		20.0 %	20.0 %	40.0 %	0.0%	0.0%	40.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %	20.0 %	0.0%
学校	57	11	21	31	14	9	8	16	1	0	3	3
		19.3%	36.8 %	54.4 %	24.6 %	15.8%	14.0%	28.1%	1.8%	0.0 %	5.3%	5.3%
専門	24	4	8	12	5	6	7	5	1	0	3	3
		16.7%	33.3 %	50.0 %	20.8 %	25.0 %	29.2 %	20.8 %	4.2 %	0.0 %	12.5%	12.5 %
教育	50	7	13	20	11	9	7	9	0	1	0	5
		14.0%	26.0 %	40.0 %	22.0 %	18.0%	14.0%	18.0%	0.0 %	2.0 %	0.0%	10.0 %
	69	15	20	46	17	16	13	16	2	3	5	5

所属無 + 不明		21.7%	29.0 %	66.7 %	24.6 %	23.2 %	18.8%	23.2 %	2.9 %	4.3 %	7.2%	7.2%
延所属 数	45 3	79	136	264	102	107	89	102	8	8	34	29
		17.4%	30.0 %	58.3 %	22.5 %	23.6 %	19.6%	22.5 %	1.8%	1.8%	7.5%	6.4%

問7 あなたが日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください 複数選択									
① 日本図書館協会の事業目的に賛同している ② 日本図書館協会の部会・委員会で活動したい ③ 知人から入会を勧められた ④ 『図書館雑誌』を入手できる ⑤ 日本図書館協会主催の研修に割引料金で参加できる ⑥ 日本図書館協会の出版物が会員価格で購入できる ⑦ 図書館員を職業とするなら会員であるのが当然と考えている ⑧ ⑧その他(具体的に記入してください)									
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
公共	208	109	20	33	89	27	31	113	17
		52.4%	9.6%	15.9%	42.8%	13.0%	14.9%	54.3%	8.2%
大学	40	23	5	3	14	1	7	18	3
		57.5%	12.5%	7.5%	35.0%	2.5%	17.5%	45.0%	7.5%
短大高専	5	5	1	1	3	1	0	2	1
		100.0%	20.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	40.0%	20.0%
学校	57	22	7	9	27	6	5	32	12
		38.6%	12.3%	15.8%	47.4%	10.5%	8.8%	56.1%	0.0%
専門	24	7	0	2	10	2	4	7	7
		29.2%	0.0%	8.3%	41.7%	8.3%	16.7%	29.2%	29.2%
教育	50	22	10	5	18	2	5	17	5
		44.0%	44.0%	44.0%	44.0%	44.0%	44.0%	44.0%	44.0%
所属無+ 不明	69	31	5	9	31	8	11	20	15
		44.9%	7.2%	13.0%	44.9%	11.6%	15.9%	29.0%	21.7%
延所属数	453	219	48	62	192	47	63	209	60
		48.3%	10.6%	13.7%	42.4%	10.4%	13.9%	46.1%	13.2%

付録 2 施設等会員アンケートのクロス集計

クロス集計の割合(%)表示を含む表では、市民団体、地域団体、研究団体、その他の 4 種については、これらをまとめたデータを示している

問2 貴組織が所属している部会を教えてください(一意選択)									
	回答数	部会							
		公共	大学	短大高専	学校	専門	教育	なし	不明
市町村立	112	100	0	0	0	0	0	8	4
都道府県立	9	9	0	0	0	0	0	0	0
学校	10	0	1	0	8	0	0	0	1
大学	165	0	138	1	0	0	0	9	17
短大・高専	15	0	0	15	0	0	0	0	0
専門	16	0	0	0	0	13	0	1	2
市民団体	1	1	0	0	0	0	0	0	0
地域団体	3	3	0	0	0	0	0	0	0
研究団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	0	0	2	0	1	1
合計	335	113	139	16	8	15	0	19	25

問3 貴組織の会員区分はどれですか？(一意選択)						
	回答数	施設A	施設B	施設C	団体会員	賛助会員
市町村立	112	24	47	39	1	1
都道府県立	9	8	1	0	0	0
学校	10	0	4	5	1	0
大学	165	80	43	34	4	4
短大・高専	15	3	6	6	0	0
専門	16	4	3	9	0	0
市民団体	1	0	0	0	1	0
地域団体	3	0	0	0	3	0
研究団体	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	1	1	1	1
合計	335	119	105	94	11	6

問4 貴組織は会員として、部会役員(正副部会長、幹事)や代議員を担ったことはありますか(複数選択)					
① 部会役員をしている・したことがある ② 代議員(評議員を含む)をしている・したことがある ③ 部会役員や代議員(評議員を含む)をしたことはない ④ わからない					
	回答数	①	②	③	④
市町村立	112	1	2	84	25

都道府県立	9	7	6	1	1
学校	10	0	0	6	4
大学	165	8	8	82	69
短大・高専	15	1	1	6	7
専門	16	0	1	9	6
市民団体	1	0	0	1	0
地域団体	3	0	1	1	1
研究団体	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	3	1
合計	335	17	19	193	114

問5 貴組織には委員会委員または部会役員に委嘱されている職員・会員はいますか(複数選択)						
① 部会役員をしている・した経験がある職員・会員がいる ② 委員会委員をしている・した経験がある職員・会員がいる ③ 部会役員や委員会委員の経験がある職員・会員はいない ④ 代議員(評議員を含む)をしている・した経験がある職員・会員がいる ⑤ わからない						
	回答数	①	②	③	④	⑤
市町村立	112	1	7	82	1	22
都道府県立	9	1	2	6	3	0
学校	10	0	0	5	0	5
大学	165	5	7	113	2	42
短大・高専	15	1	0	7	1	6
専門	16	0	2	11	0	3
市民団体	1	1	1	0	1	0
地域団体	3	0	0	2	2	0
研究団体	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	2	1	1
合計	335	9	19	228	11	79

問6(1)貴組織が所属している部会について当てはまるものを選んでください(複数選択)								
① 部会が開催する研修会などに職員・会員が参加している ② 役員に職員・会員を出すことができる ③ 部会の目的や役割がよく分からない ④ 部会でどのような活動があるかよく分からない ⑤ 余力がないなどで職員・会員を役員に出すことができない ⑥ 関心がない ⑦ その他(具体的に記入してください)								
	回答数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
市町村立	112	16	1	9	39	77	2	2

	(%)	14.3	0.9	8.0	34.8	68.8	1.8	1.8
都道府県立	9	7	2	1	1	2	0	1
	(%)	77.8	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1
学校	10	3	0	1	1	7	0	0
	(%)	30.0	0.0	10.0	10.0	70.0	0.0	0.0
大学	165	39	2	17	43	134	2	2
	(%)	23.6	1.2	10.3	26.1	81.2	1.2	1.2
短大・高専	15	5	0	1	4	11	0	1
	(%)	33.3	0.0	6.7	26.7	73.3	0.0	6.7
専門	16	2	0	5	8	8	0	4
	(%)	12.5	0.0	31.3	50.0	50.0	0.0	25.0
市民団体	1	1	0	0	0	0	0	0
地域団体	3	2	0	0	0	0	0	1
研究団体	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	1	2	3	0	1
上記 4 種まとめ	8	3	0	1	2	3	0	2
	(%)	37.5	0.0	12.5	25.0	37.5	0.0	25.0
合計	335	75	5	35	98	242	4	12
	(%)	22.4	1.5	10.4	29.3	72.2	1.2	3.6

問6(2) 部会をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数選択)												
取組みたいテーマに関する活動提案が自由にできること ① 部会員として部会活動に、より自由に参画できるしくみを整備すること ② 部会活動が分かるようにすること ③ 部会の役員等の選出については、公募も含め透明性を高めること ④ 役員の世界交代を行いやすくすること ⑤ 部会事業について、部会員として提案できること ⑥ 部会を基とした出版活動ができること ⑦ わからない ⑧ 関心がない、関係ない ⑨ 特に活発にする必要はない ⑩ その他(具体的に記入してください)												
	回答数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
市町村立	112	19	25	55	5	4	2	1	34	1	2	2
	(%)	17.0	22.3	49.1	4.5	3.6	1.8	0.9	30.4	0.9	1.8	1.8
都道府県立	9	3	1	7	0	0	1	0	1	0	0	1
	(%)	33.3	11.1	77.8	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1
学校	10	2	2	1	0	1	0	0	5	0	0	0
	(%)	20.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
大学	165	28	28	79	9	13	7	2	42	1	12	15
	(%)	17.0	17.0	47.9	5.5	7.9	4.2	1.2	25.5	0.6	7.3	9.1

短大・高専	15	4	4	9	2	2	2	0	4	0	1	2
	(%)	26.7	26.7	60.0	13.3	13.3	13.3	0.0	26.7	0.0	6.7	13.3
専門	16	1	5	10	1	1	0	0	5	0	0	1
	(%)	6.3	31.3	62.5	6.3	6.3	0.0	0.0	31.3	0.0	0.0	6.3
市民団体	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
地域団体	3	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
研究団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0
上記 4 種まとめ	8	2	3	6	0	0	0	0	1	0	1	0
	(%)	25	38	75	0	0	0	0	13	0	13	0
合計	335	59	68	167	17	21	12	3	92	2	16	21
	(%)	17.6	20.3	49.9	5.1	6.3	3.6	0.9	27.5	0.6	4.8	6.3

問 7(1) 委員会活動について、貴組織が当てはまるものを選んでください(複数選択)									
① 委員会の活動に関心がある ② 委員に職員・会員を出すことができる ③ どのような委員会があるか知らない ④ 委員会の目的や役割がよく分からない ⑤ 委員会でどのような活動があるかよく分からない ⑥ 組織に余力がないなどで職員・会員を委員に出すことだできない ⑦ 関心がない ⑧ その他(具体的に記入してください)									
	回答数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
市町村立	112	4	2	27	19	44	84	1	2
	(%)	3.6	1.8	24.1	17.0	39.3	75.0	0.9	1.8
都道府県立	9	2	0	0	0	3	7	0	1
	(%)	22.2	0.0	0.0	0.0	33.3	77.8	0.0	11.1
学校	10	0	0	4	1	1	6	1	0
	(%)	0.0	0.0	40.0	10.0	10.0	60.0	10.0	0.0
大学	165	2	3	26	22	43	135	2	6
	(%)	1.2	1.8	15.8	13.3	26.1	81.8	1.2	3.6
短大・高専	15	0	0	4	2	5	14	0	0
	(%)	0.0	0.0	26.7	13.3	33.3	93.3	0.0	0.0
専門	16	1	0	4	3	8	11	1	2
	(%)	6.3	0.0	25.0	18.8	50.0	68.8	6.3	12.5
市民団体	1	0	0	0	1	0	0	0	0
地域団体	3	1	0	0	0	0	3	0	0
研究団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	1	1	2	3	0	1
上記 4 種まとめ	8	1	0	1	2	2	6	0	1
	(%)	12.5	0.0	12.5	25.0	25.0	75.0	0.0	12.5

合計	335	10	5	66	49	106	263	5	12
	(%)	3.0	1.5	19.7	14.6	31.6	78.5	1.5	3.6

問 7(2) 委員会をより活発にするためには何が必要だと思いますか(複数選択)													
① 取り組みたいテーマに関する委員会やプロジェクトを立ち上げられること ② 委員でなくても、企画提案など委員会活動に参画できるしくみがあること ③ 委員会の活動が分かるようにすること ④ 委員については公募を含め、選定の透明性を高めること ⑤ 委員の世代交代を行いやすくすること ⑥ 研修やセミナーの内容を提案できるようにすること ⑦ 図書館業務に役立つ出版物が出ること ⑧ 図書館振興に役立つ活動をする ⑨ 関心がない、関係がない ⑩ 特に活発にする必要はない ⑪ わからない ⑫ その他(具体的に記入してください)													
	回答数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
市町村立	112	15	19	58	6	2	7	22	31	1	2	25	1
	(%)	13.4	17.0	51.8	5.4	1.8	6.3	19.6	27.7	0.9	1.8	22.3	0.9
都道府県立	9	1	2	7	2	2	2	3	4	0	0	0	0
	(%)	11.1	22.2	77.8	22.2	22.2	22.2	33.3	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
学校	10	0	0	5	0	0	0	1	2	0	0	2	1
	(%)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	20.0	10.0
大学	165	16	20	88	10	19	20	26	43	1	7	34	6
	(%)	9.7	12.1	53.3	6.1	11.5	12.1	15.8	26.1	0.6	4.2	20.6	3.6
短大・高専	15	1	1	6	1	1	3	3	6	0	1	4	0
	(%)	6.7	6.7	40.0	6.7	6.7	20.0	20.0	40.0	0.0	6.7	26.7	0.0
専門	16	0	2	7	3	2	1	3	8	1	0	2	2
	(%)	0.0	12.5	43.8	18.8	12.5	6.3	18.8	50.0	6.3	0.0	12.5	12.5
市民団体	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
地域団体	3	0	1	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0
研究団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	0	0	2	0	1	1	1	1	0	1	1	0
上記 4 種まとめ	8	0	1	6	0	1	1	2	4	0	1	1	0
	(%)	0.0	12.5	75.0	0.0	12.5	12.5	25.0	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0
合計	335	33	45	177	22	27	34	60	98	3	11	68	10
	(%)	9.9	13.4	52.8	6.6	8.1	10.1	17.9	29.3	0.9	3.3	20.3	3.0

問8 貴組織が日本図書館協会の会員となっている理由(会員であることの価値)を教えてください(複数選択)								
① 日本図書館協会の事業目的に賛同している ② 業務上, 必要と考えている ③ 職員を日本図書館協会の部会・委員会で活動させたい ④ 施設会員配布資料がある ⑤ 日本図書館協会主催の研修に割引料金で参加できる ⑥ 日本図書館協会の出版物が会員価格で購入できる ⑦ その他(具体的に記入してください)								
	回答数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
市町村立	112	55	84	2	41	13	10	6
	(%)	49.1	75.0	1.8	36.6	11.6	8.9	5.4
都道府県立	9	8	7	0	7	0	0	0
	(%)	88.9	77.8	0.0	77.8	0.0	0.0	0.0
学校	10	6	6	0	4	1	0	2
	(%)	60.0	60.0	0.0	40.0	10.0	0.0	20.0
大学	165	73	106	0	79	12	13	10
	(%)	44.2	64.2	0.0	47.9	7.3	7.9	6.1
短大・高専	15	5	11	0	4	0	1	1
	(%)	33.3	73.3	0.0	26.7	0.0	6.7	6.7
専門	16	4	7	0	10	5	2	3
	(%)	25.0	43.8	0.0	62.5	31.3	12.5	18.8
市民団体	1	1	0	0	0	0	0	0
地域団体	3	3	2	0	0	0	0	0
研究団体	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	4	3	2	0	0	0	0	0
上記4種まとめ	8	7	4	0	0	0	0	0
	(%)	87.5	50.0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	335	158	225	2	145	31	26	22
	(%)	47.2	67.2	0.6	43.3	9.3	7.8	6.6